

1 土器

出土量

これまでの発掘調査及び表採資料を合わせて約 1,678 kg の土器が出土した。最も古い時期の土器は前期前葉関山式であるが、調査記録にない B 14 グリッドから出土している（第 38 図 208～210）。掲載した土器を含め底部のみ数点出土している。次に古い土器として阿玉台式土器が 1 点出土した（第 38 図 211）。近隣では角山遺跡で諸磯式土器がわずかに出土しているのみで、前期前葉、中期前半の活動痕跡はほとんど認められない。ただし、本遺跡の南側 1 km に所在する宮ノ越貝塚からは、表採資料であるがわずかに阿玉台式土器が採集されている。

本遺跡では、中期末葉加曾利 E IV 式以降土器の出土量が増加し、晚期中葉前浦式まで継続して出土する。すでに提示したが、本遺跡から出土した土器区分と時期設定は表 1 のとおりである。

まず、全体の出土量についてみると、精製土器と粗製土器の出土比率は、精製土器約 50%、粗製土器約 30% となる。精製土器の型式別出土比率は、堀之内 1 式約 70%、加曾利 B 式約 17%、堀之内 2 式と安行 1 式がそれぞれ約 5%、安行 3 a 式約 2%、安行 3 b 式約 1% となる。粗製土器の出土比率は縄文のみ 45%、条線文のみ 19%、縄文+紐線文+条線文 17%、紐線文+条線文約 12%、紐線文+縄文約 5% となる。重量で比較しているため、破片が厚い堀之内 1 式土器の重量が大きくなる傾向にあるが、全体的に堀之内 1 式を含む後期前葉の割合が高く、後期中葉、後葉、晩期と時期が新しくなるにつれて出土する割合が低くなるという傾向にある。

分布

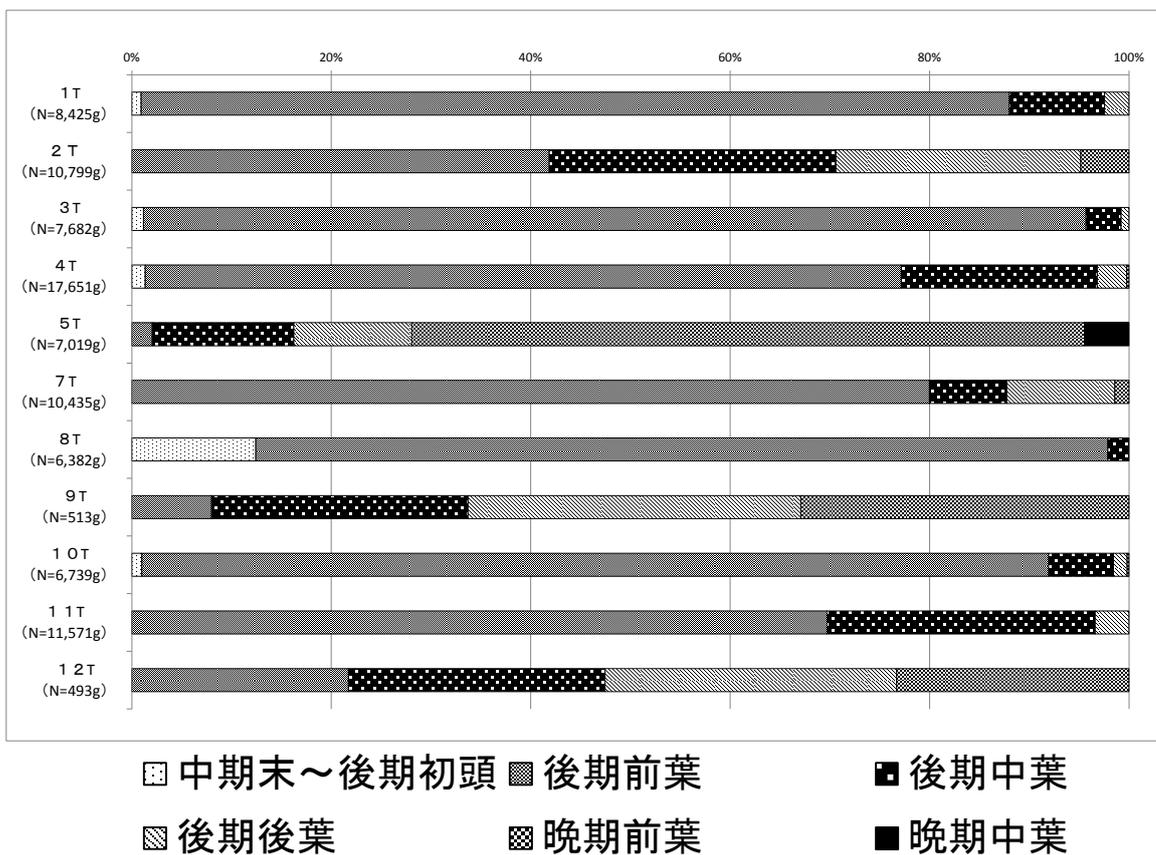
地点別の出土傾向をみると、本章第 1 節 1 で述べたように、北東側緩斜面部に相当する第 1 次調査範囲では、中央窪地側の貝層の標高が最も高くなる部分においては、堀之内 1 式を主体とする後期前葉の土器の出土量が多くなるのに対し、中央部分のやや斜面側では後期中葉～後葉が主体となり、最も斜面側のローム質黄褐色土層からは、後期中葉以降が主体となり晩期の土器が多く含まれる傾向にある。すなわち、北東側緩斜面部においては、貝層の最も高まる部分から斜面側に向かって出土する土器の時期が新しくなる傾向にあるのである。

第 2 次調査は馬蹄形に展開する貝層と貝層に囲まれた中央窪地にトレンチを設定した調査で、トレンチごとの出土土器の比率をみたものが第 69 図となる。第 69 図上段は精製土器のトレンチ別出土比で、下段は粗製土器のトレンチ別出土比である。これをみると、後期前葉の土器を主体とするトレンチと後期中葉以降の土器を主体とするトレンチが明瞭に区分される。すなわち、1、3、4、7、8、10、11 トレンチは後期前葉を主体とするのに対し、2、5、9、12 トレンチは後期中葉以降を主体とする。5 トレンチは晩期が最も多くなる。それぞれのトレンチ設定箇所をみると、後期前葉の土器を主体とするトレンチは貝層分布域に設定されているのに対し、後期中葉以降の土器を主体とするトレンチは中央窪地もしくは無貝層部分に設定されるという明確な相違が認められた。これは縄文時代後・晩期の環状または馬蹄形貝塚や中央窪地型集落において確認されてきた傾向と一致する。つまり、後期前葉の土器は環状または馬蹄形に展開する貝層や高まり部分やその外側から出土するのに対し、後期中葉以降の土器は貝層及び高まり部分より内側から出土し、特に晩期の土器は中央窪地から出土するということを如実に示している。このことは山野貝塚が基本的には縄文時代後・晩期の環状あるいは馬蹄形貝塚と同様な構造を有する集落であることを表している。

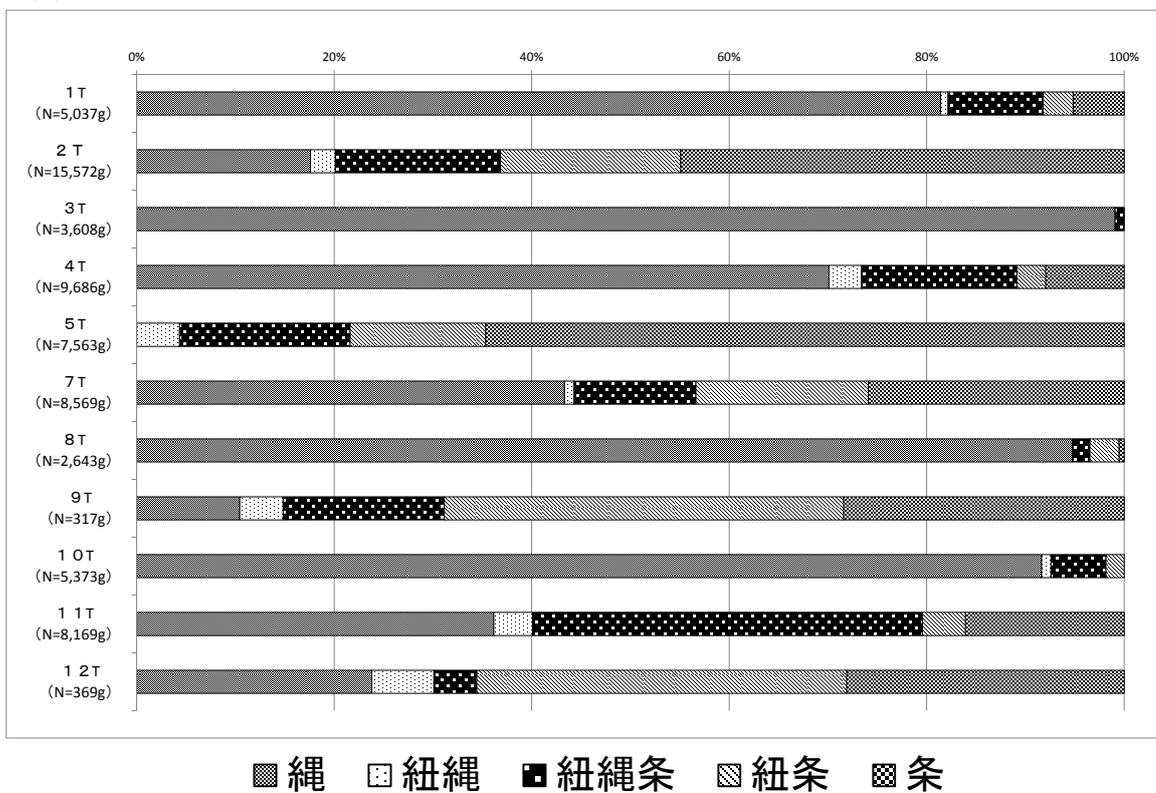
出土土器

各地点で出土した土器のうち、特徴的な土器について記述する。なお、遺構出土土器については各遺構で記述している。

a. 精製土器



b. 粗製土器



第69図 第2次調査トレンチ別土器出土量比

第1次調査

I-2段階

第20図24は堀之内1式の4単位の小波状口縁を呈する深鉢である。地縄文で、波頂部下に蛇行する垂下沈線を施し、波頂部間には横位罫線状の沈線を施す。A05グリッドのI-2段階とB37グリッドのIV-2段階が接合する。欠損後、廃棄まで時間差を有する事例である。第22図33は4単位の波状口縁を呈する深鉢で、地縄文で、口縁部に沿った沈線区画内に連続する列点が施される。頸部に斜位に連続する沈線を充填した横位沈線区画を施し、口縁部と頸部の沈線区画間を梯子状の沈線で斜位に連結する。頸部沈線区画下にも同様の梯子状沈線が施される。土器の形態や口縁部の文様をみると加曾利B式のような印象を受けるが、胎土や全体的な様相から堀之内1式と判断した。第23図42は堀之内2式の注口土器の可能性のある土器片で、B38グリッドのIV-1段階とE50グリッドのI-2段階の同一個体である。縄文区画内に逆トの字状及び逆「つ」の字状区画に縄文が充填される。内外面赤彩か。45は堀之内2式の遺存状況が良好な注口土器で、E15グリッドのI-1段階とI-2段階に相当する層の境界から正位で出土した(図版7-1)。第24図55は安行3a式の胴部から底部付近の破片と考えられるが、二次的な被熱により著しく変形する。

III段階

第28図93は5単位の波状口縁を呈する加曾利B2式完形の浅鉢で、口縁部に沿って連続する刻みが施され、胴部には横位の条線が施される。色調が赤褐色を呈する。95は加曾利B3式～曾谷式と考えられる浅鉢で、口縁部の1箇所逆「の」の字状の貼付を施し胴部上半と底面の沈線区画内に縄文を施す。第29図103は曾谷式の丸底を呈する鉢である。口縁部の横位沈線施文後の貼付が剥落し、口縁部下に条線が施される。104、105は東北地方の瘤付土器の破片と考えられる。104は沈線区画内に縦位の刻みを充填し、横長の円孔文と2個1対の小突起を貼り付ける。105は波状口縁を呈する口縁部で、口縁部に3条の沈線施文後沈線区画内に刻みを充填し、頸部付近に2個1対の小突起を貼り付ける。口唇部の貼付が剥落する。第30図111は単節RL縄文施文後、口唇部に2個1対の突起を貼り付け、横位に杵状の沈線を施文する。胎土に雲母片を多く含み、在地の土器ではないと考えられる。113は焼成前の穿孔が施される台付鉢の台部である。115は無文土器で著しく薄い作りである。116は台付鉢の台部で、内面が著しく研磨される。

IV-1段階

第32図137は4単位の大型波状口縁を呈する安行2式の深鉢である。波頂部と波底部に刻みを施した突起を貼り付け、波頂部下には刻みを施した2条の横位沈線区画が施され沈線区画内に縄文が施される。区画内にジグザグ状に斜位沈線が施され、斜位沈線の結節点でしかも波底部下に豚鼻状の突起が貼り付けられる。上側の沈線区画と波頂部斜位沈線区画による3角形の無文部が形成され、沈線区画の結節点に豚鼻状の突起が貼り付けられる。頸部屈曲部には沈線区画内に連続する刻みが施され、上段の豚鼻状貼付の下部に同様の突起が貼り付けられる。胴部上半は上に凸の横位に連続する弧線文と横位沈線区画内に縄文が施され、弧線文の結節点に豚鼻状の突起が貼り付けられる。胴部下半の沈線区画下には縄文が施される。138も同様な形態を呈する口縁部と考えられるが、頸部無文部下の沈線区画内は斜位条線が施される。146は安行3b式の深鉢と考えられる。口縁部に複数のB字状の突起を貼り付け、沈線区画内に縄文を施す。頸部には横位に連結する入組み三叉文が施され、連結する沈線下に縄文が施される。147は安行3b式の浅鉢と考えられる。口縁部にB字状の突起を貼り付け、頸部屈曲部より口縁部側は無文体を挟み2条の縄文帯が形成される。頸部以下は胴部が張り出す形状を呈し、張出部より上半には三角形と半円形の磨消縄文が施され、半円形の磨

消縄文の中央に突起が貼り付けられる。張出部の下半には縄文帯が形成される。148は前浦直前型式と考えられ、口縁部に太い沈線が施文される。149は大洞BC式と考えられ、口縁部に縄文を施し、頸部屈曲部以下に雲形文が施文される。内外面ともよく磨かれ、器壁も薄く精緻なつくりである。150は非常に薄い作りで内面が赤褐色を呈する。いわゆる製塩土器であろうか。152は後・晩期安行式式に伴う粗製土器で、口縁部横位条線、胴部縦位条線の順に施文後、口縁部と頸部に紐線文を貼り付ける。

IV-2 段階

第33図160は加曾利B2式の浅鉢である。表面の口縁部と内面を著しく研磨する。161はほぼ完形の砲弾形を呈する安行1式の深鉢である。口縁部に3段の帯縄文を形成し、上2段に4単位の突起を貼り付ける。帯縄文以下は斜位条線文が施され、底部付近には縦位のミガキが施される。底部は著しく小さくなる。162は安行1式の台付鉢と考えられる。台部は欠損している。第34図166は大型の波状口縁を呈する安行3a式の深鉢の口縁部から底部である。口縁部は波底部のみであるが、本遺跡においてこの器形で底部までが遺存する唯一の資料である。口縁部は横位と斜位の縄文帯により無文部を形成し、無文体を挟み頸部にも縄文帯を形成する。縄文帯の数箇所には豚鼻状突起を貼り付ける。頸部以下は底部まで縄文が施される。167も同様な形態を呈するが、頸部縄文帯下に無文帯を挟む。170は安行3a式の浅鉢と考えられる。胴部が張り出す形態で、張り出し部に刻みや窪みが施される断面3角形状の貼り付けが横位に施される。口縁部は帯縄文が施され、頸部には縄文帯や豚鼻状突起が貼り付けられる。張出部以下の胴部には横位に連続する下に凸の縄文帯が形成され、底部付近にも縄文が施されるようである。171、172は安行3a式の浅鉢であろうか。171は5単位と思われる波状口縁を呈し、口縁部に沿って波頂部間をつなぐ下に凸の弧線文と口縁部区画内に縄文が施され、胴部の横位沈線と上に凸の弧線文区画内にも縄文が施される。底部に一条の沈線が巡る。173は台付鉢の台部で、円形や三叉文形を呈すると思われる透かし穴が施される。穿孔部周辺に赤彩が残る。174は香炉形土器の脚部であろうか。三叉文形を呈すると思われる透かし穴が施され、外面に赤彩が残る。第35図175はほぼ完形の深鉢で、口縁部に5単位の突起が貼り付けられる。全体に縄文が施され、頸部に2条の刻みが施される。底部は著しく小さくなる。177は安行3b式の広口壺と考えられる。口縁部にB字状の突起を貼り付け帯縄文が形成される。屈曲部下の頸部には上下に2条の横位沈線が施され、沈線区画内にX字状に沈線が施される。横位沈線とX字状沈線によって区画された三角形内に縄文が充填され、沈線の結節点に豚鼻状突起が貼り付けられる。無文部となった菱形区画には入組み沈線が施される。178は安行3b式の深鉢で、口縁部に杵状文が施され、胴部には縦位条線が施される。第36図188は口縁から底部まで遺存する鉢である。外面に不明瞭ながら撚糸文が施されるようである。189～198は異系統と考えられる土器である。189は波状を呈する口縁部で口唇部に連続する抉りが施される。190、191は瘤付土器であろうか。ともに沈線区画内に連続する刻みが施されるが、190には区画間に短沈線が施される。192は非常に浅い凹線により細い紐条の隆帯を作出し、一部に粘土が貼り付けられる。193は大洞C式と考えられる。横位に長い入組み三叉文が数段施される。194は大洞BC式の深鉢で、口縁部から底部まで遺存し、口唇部は小波状で、口縁部に入組み三叉文を施し著しく研磨される。頸部に2条の沈線を巡らせ、沈線以下には縄文が施される。195は榎原式文様を有する鉢である。口縁部と胴部に沈線区画内に連続する刻みを施し、口縁部側の区画に接する位置に円孔文を施文する。区画内に挟まれた頸部に4条1対の下に凸の弧線文を横位に連続して施文する。円孔文部が最上段の弧線文の結節点となる。197は口縁部沈線下に入組み文と考えられる沈線が施される。外面に赤彩が施される。198は横位沈線区画内に縦位2～3条の短沈線を施す。外面に赤彩が施される。

その他

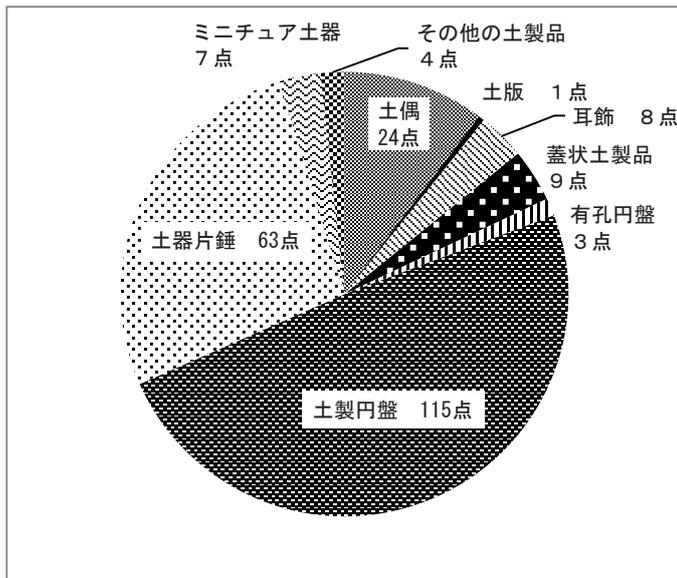
第 38 図は、出土層位及びグリッドが不明な土器のうち、特徴的なものを掲載した。208～210 は前期前葉関山式と考えられる。208 と 209 は胎土に繊維を含む。210 は底部付近の破片で外面に縄文が施される。211 は阿玉台式土器の口縁部である。胎土に雲母を多量に含む。212 は加曾利 E IV 式と考えられる口縁部である。くの字状に屈曲し、屈曲部以下に縄文が施される。213 は加曾利 B 2～3 式の異形台付土器の胴部であろうか。214 は加曾利 B 式に並行する、近畿地方の元住吉山 I 式に類似する土器である。波状口縁を呈し、円孔文と左右に対向する弧線文施文後、対向する弧線文間に文様が施される。この文様はヘナタリ科の巻貝の外面の回転圧痕による疑似縄文で、円孔文も同じくヘナタリ科の巻貝の端部を使用して回転施文する。弧線文は 2 枚貝の腹縁を利用して施文したと考えられる。胎土に雲母を多量に含み、色調は淡褐色を呈する。本型式の研究者に実見していただいたところ、胎土や施文の雰囲気は現地の土器に類似するが、地元の土器に比べて器壁が厚いこと、地元では施されない円孔文が施されていることが相違点として指摘された。215 は安行 1 式である。口縁部に横位に連続する刻みを 3 段施し、口唇部に 5 単位の貼付を施す。貼付下の刻みに円形の粘土を貼り付ける。胴部には縦位条線文が施される。217 は安行 3 a 式と考えられる。口縁部にドーナツ状の粘土を貼り付け、頸部には入組み文が施されるようである。218、219 は安行 3 c 式と考えられる。218 は口縁に 2 条の連続する列点が施され、219 は 3 条の連続する列点が施される。220、221 は前浦直前型式と考えられる。口唇部と口縁部に太い沈線が施される。222 は大洞 B C 式で、第 36 図 194 の口縁部に類似する。223 は大洞 C 式と考えられる注口土器である。224 は未注記ながら、山野貝塚から発見されたとされる注口土器である。注口部のみが欠損する。扁平球状の胴部にやや頸部がつく形態を呈し、頸部には 4 単位の貼付文が施される。注口部の反対側にはリング状の突起が貼り付けられ、左右両脇にも突起が貼り付けられる。底部中央には外面から器壁を押し上げ窪み状を呈する。頸部と底部には 2 条の沈線が施され、その胴部沈線区画間に曲線を主体とする沈線が施される。注口部下には左右に対向する弧線文が 3 条ずつ施文される。

11 トレンチ

第 42 図 1～4 は堀之内 1 式である。1、4 は地縄文で、頸部で屈曲し、頸部以下に垂下する沈線を施す。2 は垂下する沈線間に斜沈線を施文する。3 はパネル状の区画内に円形の沈線が施される。5～8 は堀之内 2 式である。5 は朝顔形を呈する深鉢で、口縁部に紐線文が貼り付けられ、体部には上下 2 条の帯縄文区画内に逆「の」の字状の磨消縄文が施される。6 は体部に櫛歯状の工具により施文される。7 は縄文のみ施文される。8 は浅鉢で、内面に文様が施文される。第 43 図 9～12 は加曾利 B 式である。9 は波状口縁で口縁に沿って帯状に刻みが施され、刻み下に縄文が施文される。10 は体部がソロバン玉形に屈曲する鉢で、トの字、つの字状の磨消縄文が施文される。11、12 は粗製土器である。縄文、条線文の順に施文後、紐線文が貼り付けられる。

2 トレンチ

第 49 図 25 は晩期前葉の関西地方の樞原式文様を有する鉢である。口縁部が大きく外反し胴部でくの字状に屈曲する形態を呈する。口縁部内面に 1 条の沈線が巡る。外面は頸部に 2 条、胴部屈曲部に 3 条の横位沈線が施文され、沈線区画内に菱形の各頂点に相当する箇所円孔文が施され、円孔文間を 2～3 条 1 対の沈線で結ぶ菱形状を呈する。さらに菱形の中央部に横位沈線を施文する。胴部屈曲部には横位に連続する刻みを施す。



第70図 土製品組成グラフ

に顔部と乳房を貼り付ける。顔部上半は斜めに欠損し、腕の先端部及び胴部以下は欠損する。顔がやや上方を向く可能性がある。山形土偶以前の板状土偶であろうか。2は山形土偶の頭部から胴部である。頭部と胴部は接合する。頭頂部は欠損するが、おそらく尖頭状を呈すると思われる。表面は、鼻、口が剥落し、右目の一部、眉、顎部分の貼付の一部、周辺の沈線が残存する。裏面の貼付は剥落する。胴部も表裏面とも全体的に剥落し、腕部の沈線が残存する。裏面の一部に単節LR縄文が残存する。3は山形土偶の頭部である。左端部以外は残存する。頭頂部は円形を呈し、端部に刻みが施される。眉の左右、顎部の左側の貼付は剥落する。裏面中央には山状の突起が貼り付けられる。2、3とも頸部が窪むような形で欠損している。4は山形土偶の頭部である。左側半分が欠損している。頭頂部は円形を呈し、後頭部には不明瞭ながら縄文を施文し、突起が貼り付けられない。右耳には穿孔が施される。5は山形土偶の胴部から脚部である。腹部上半が著しく括れ、腰部で最も幅広くなり、その幅のまま脚部に至る。不明瞭ながら、全面に無節r縄文を施した後下腹部中央に胴部の形状に沿った貼り付けがなされ、貼り付け下の脚部との境界には不連続な線により2条の沈線が横位に描かれる。腹部上半の括れ部にも2条の沈線が描かれるようである。6～11は山形土偶の脚部と考えられる。6、9、10は地文に縄文を施文後、数条の横位沈線を施す。7、8は縄文を施さず、縦横位の沈線のみで施文される。11は胎土が著しく脆く、文様も施されない。土偶の脚部以外の可能性も考えられる。12はミニズク土偶の頭部から胴部である。頭頂部から右目にかけて斜位に欠損し、胴部上半以下も欠損する。頭部表面は連続する刻みを施した円形の粘土紐を貼り付け、その内側に目、口、鼻を貼り付ける。鼻は剥落している。裏面には横位沈線が密に施され、頸部付近には「人」字状の突起が貼り付けられる。13はミニズク土偶の左眼部分の破片である。14はミニズク土偶の腕部である。上方からみると、矢羽状の沈線が施される。15はミニズク土偶の胴部と腕部である。表面が剥落している部分が多いが、全体的に沈線により施文されているようである。16はミニズク土偶の腰部～脚部である。腰部は外側に張り出し、2条の横位沈線により脚部と区画される。脚部には単節RLが施される。17はミニズク土偶の脚部である。裏面だけに縄文施文し表面に縦位沈線施文後、表面に左右3条の横位沈線、裏面に2条の横位沈線を施す。18は山形土偶もしくはミニズク土偶の脚部である。表面から外側面にかけて単節LR縄文を施した後、5条の横位沈線を施す。19は晩期の土偶の胴部であろうか。手燭形土器の柄部の可能性もある。扁平な把手

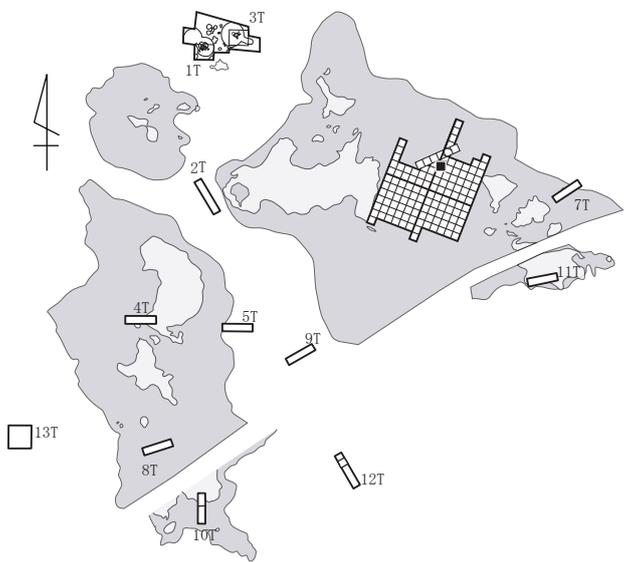
2 土製品

(1) 土偶・土版 (第75～77図)

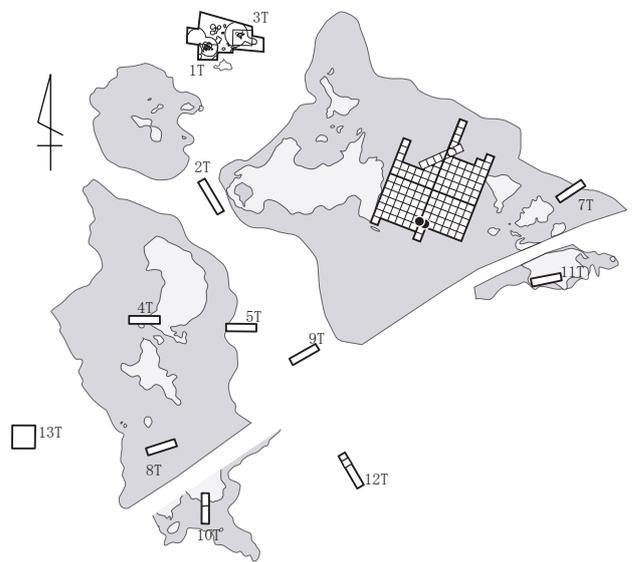
土偶は24点、土版は1点出土した。後期中葉以降に盛行する山形土偶、ミニズク土偶が主体となり、晩期の土偶も含まれる。

段階別の出土点数をみると、表土（耕作土）と不明を除いた16点中、I-2段階1点、II段階1点、III段階9点、IV-1段階1点、IV-2段階4点となり、第1次調査区の北東側でIII段階以降に多く出土する傾向にある。

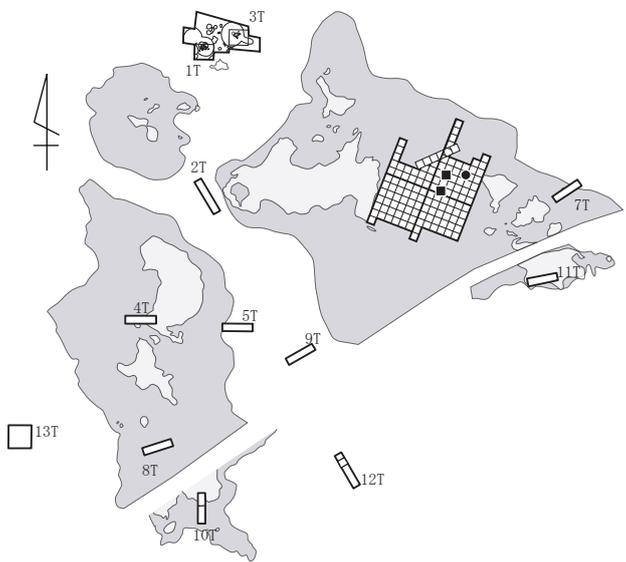
1は、板状の土偶である。板状の粘土



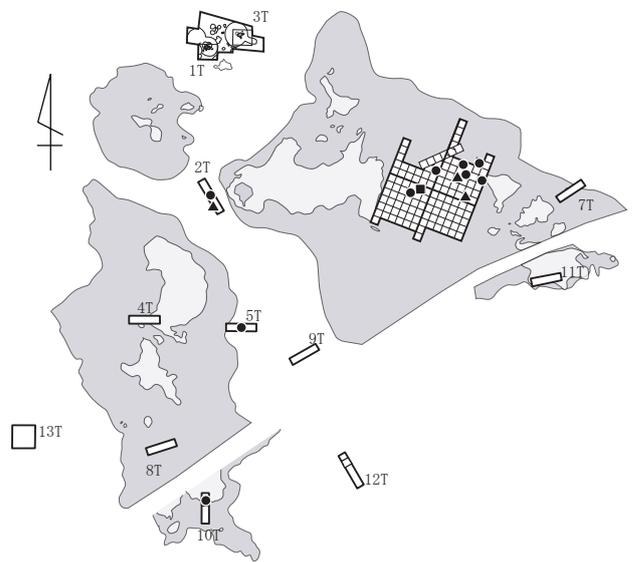
I-1 段階



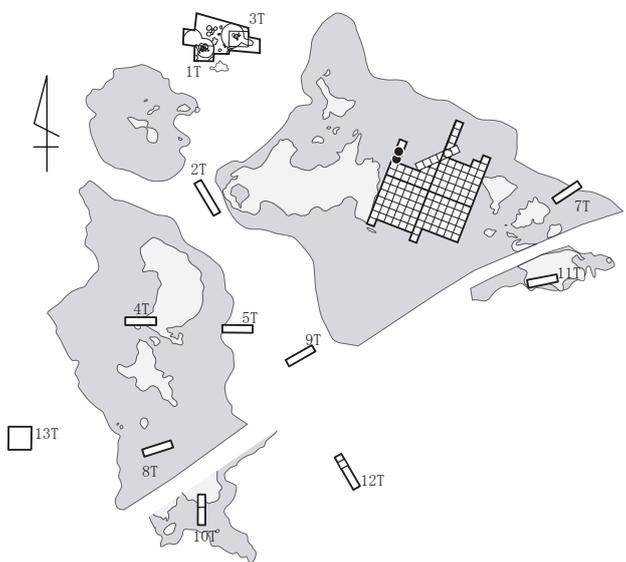
I-2 段階



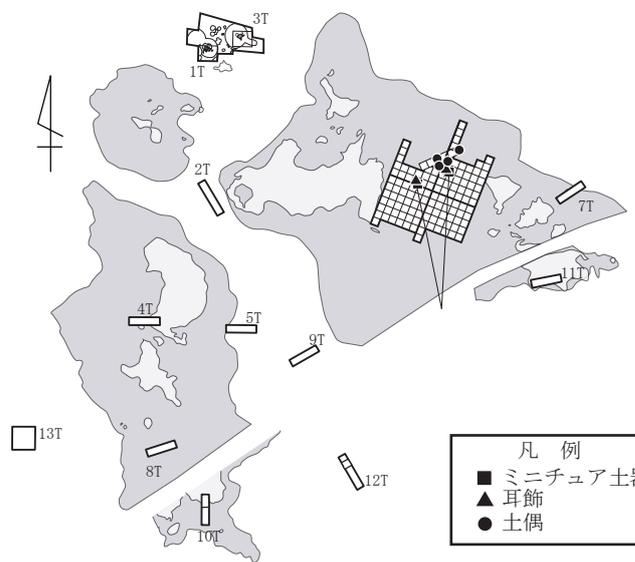
II 段階



III 段階



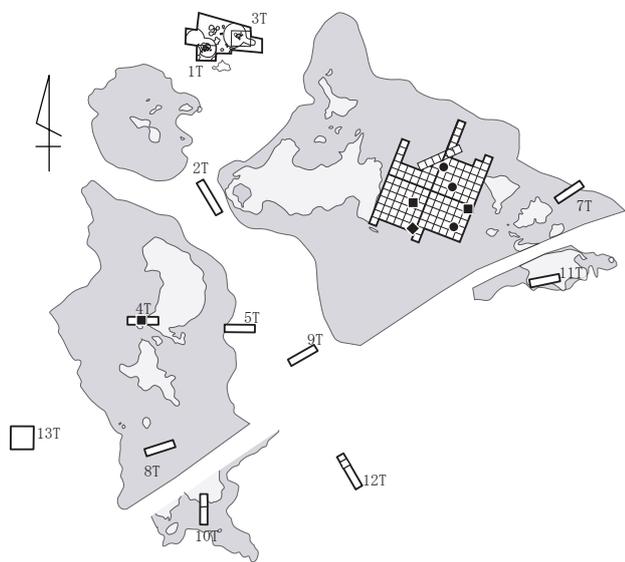
IV-1 段階



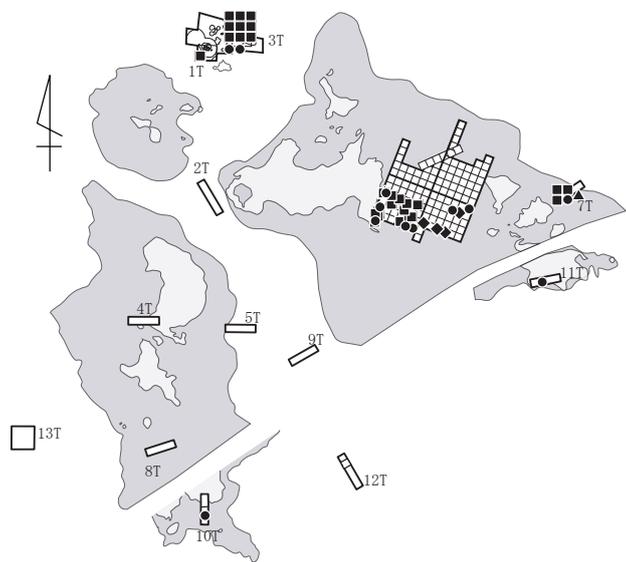
IV-2 段階

- 凡例
- ミニチュア土器
 - ▲ 耳飾
 - 土偶

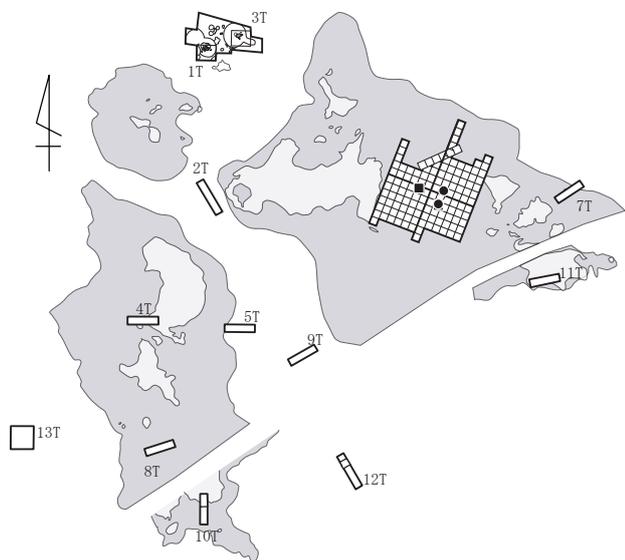
第71図 土偶、耳飾、ミニチュア土器分布図



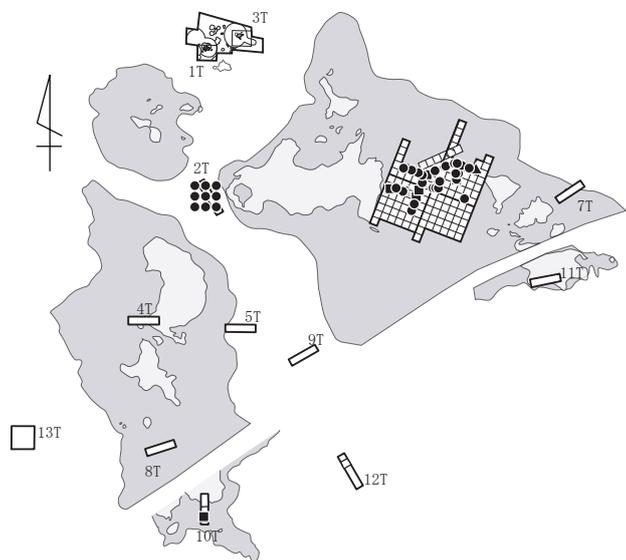
I-1 段階



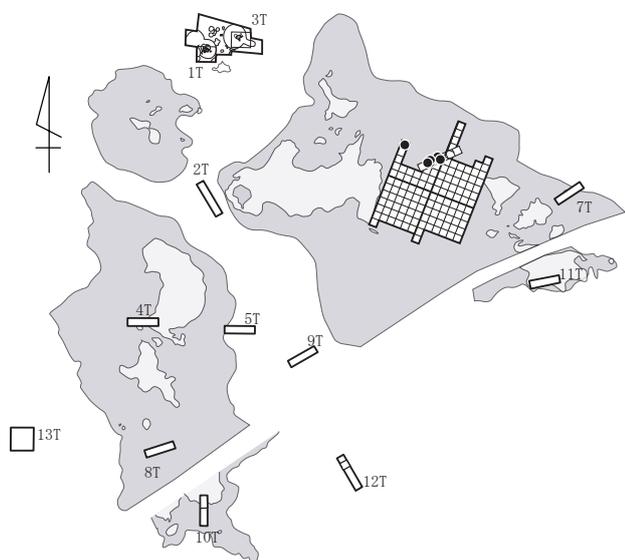
I-2 段階



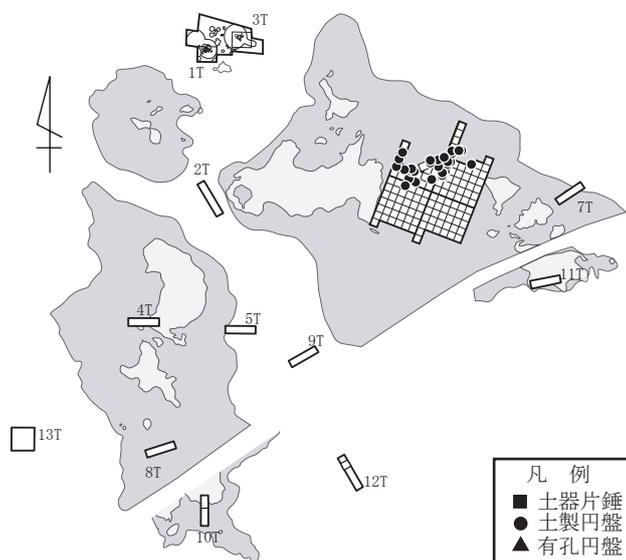
II 段階



III 段階



IV-1 段階



IV-2 段階

- | 凡 例 | |
|-----|-------|
| ■ | 土器片錘 |
| ● | 土製円盤 |
| ▲ | 有孔円盤 |
| ◆ | 蓋状土製品 |

第72図 土器片錘、土製円盤、有孔円盤、蓋状土製品分布図

状を呈し、側面から見ると裏面に方向に突き出す弧状を呈する。上部両端が円形状に欠損しているため、腕部がついていたも可能性も考えられる。表面は2条の円形沈線を中心に左右と下部に弧線文、上部に直線状の沈線が施される。裏面は無節縄文施文後、中央に渦巻き状の沈線を施文し、その左右に弧線文、上部に1条の横位沈線、下部に2条の横位沈線を施文する。E 40 グリッドの2層から出土しており、土器出土量の関係からI-2段階としているが、耕作土直下であり、攪乱を受けている可能性もある。20は晩期の土偶の胴部である。表面は胸部と腹部に刻みが施される円形の貼付を施し顔状を呈する。腹部の口状の貼付の左右及び腋部に三叉文が施される。裏面は、中央に入り組み三叉文が施文されその内側に単節RL縄文が充填されるようである。沈線はいずれも深く施される。胎土に雲母等の粒子を多量に含み、色調が淡褐色を呈することから、在地で製作されたものではない可能性もある。21は中空土偶の腕部あるいは肩部の破片であろうか。外面は隆帯を貼付後、単節RL縄文を施し、その後沈線や三叉文を施す。黒色を呈し、ごく一部に赤彩の痕跡が認められる。内面は粗い作りである。22は土版の破片である。表面に眉、目及び鼻を表現した隆帯を貼り付ける。

引用文献

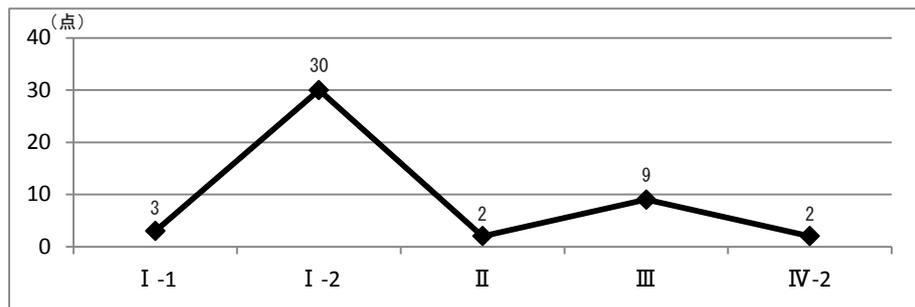
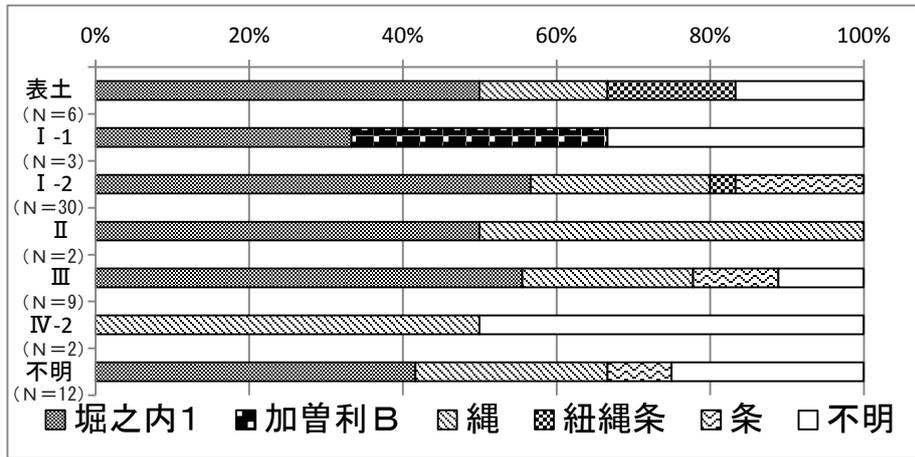
山本哲也 1989「君津地方の土偶」『君津郡市文化財センター研究紀要』Ⅲ（財）君津郡市文化財センター

（2）土器片錘（第73・78図）

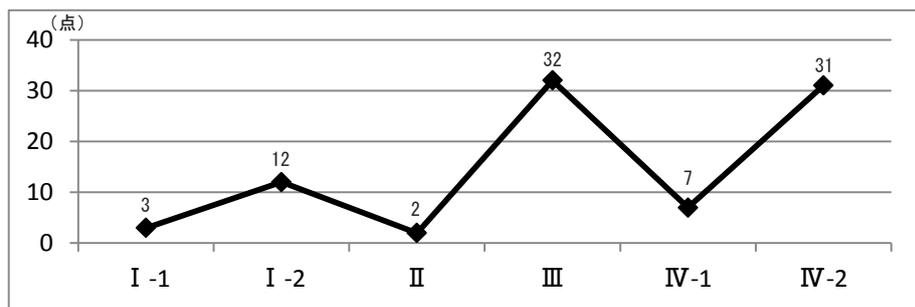
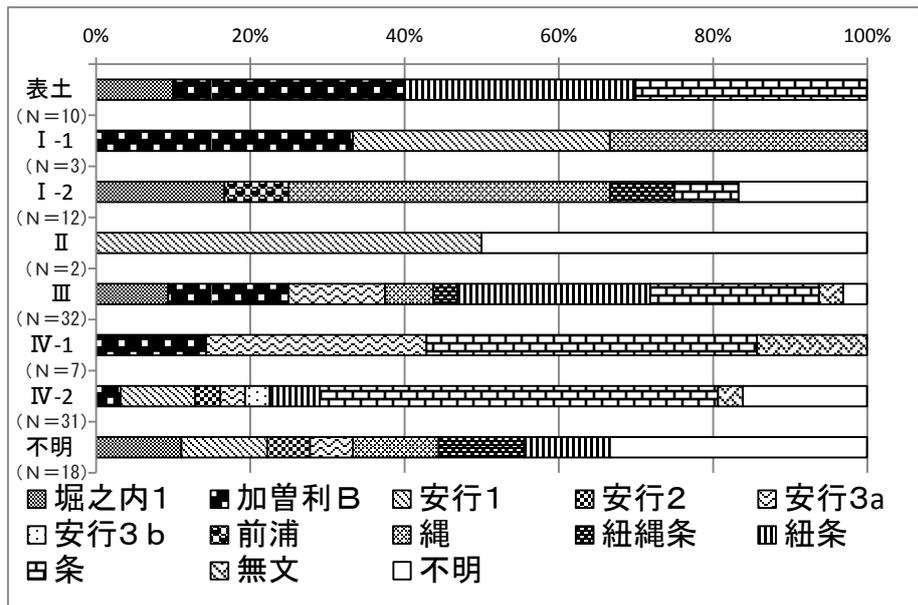
土器片に挟りがあるものを土器片錘とした。一部挟りが不明瞭なものも含む。合計64点出土した。段階別の出土点数をみると、表土（耕作土）と出土層位不明を除いた46点中、I-1が3点（6.5%）、I-2が30点（65.2%）、IIが2点（4.3%）、IIIが9点（19.6%）、IV-2が2点（4.3%）となり、I-2段階からの出土点数が圧倒的に多い。また、I-2段階では、SI 02とSI 06で多く出土し、第1次調査範囲ではAグリッドのみで出土している。全段階で利用される土器片の型式等をみると、堀之内1式32点（50%）、加曾利B式（1点）0.2%、縄文のみ15点（23.4%）、縄文+紐線文+条線文1点（0.2%）、条線のみ3点（4.7%）、不明12点（18.8%）となり、堀之内1式と縄文のみを合わせた後期前葉が7割以上を占めることとなる。挟りの位置をみると、対向する方向に1対が38点（59.4%）、対向する方向に2対が1点（0.2%）、1箇所のみ3点（4.7%）、対向する1対とその他1箇所が2点（3.1%）、その他・不明19点（29.7%）となる。完形資料の計測値をみると、重量の平均は26.74gで、15～35gが多く利用される傾向にある。最大長の平均は47.90cmで、40～55cmが多く利用される傾向にある。

（3）土製円盤（第74・79図）

土器片に2次加工が施され、主に円形及び隅丸方形状を呈するもので、土器片錘を除く。合計115点出土した。段階別の出土点数をみると、表土（耕作土）と出土層位不明を除いた87点中、I-1が3点（3.4%）、I-2が12点（13.8%）、IIが2点（2.3%）、IIIが32点（36.8%）、IV-1が7点（8.0%）、IV-2が31点（35.6%）となり、III、IV-2段階が多くなる。平面分布をみると、III段階に2トレンチから多量に出土しているのが特徴的である。全段階で利用されている土器片の時期をみると、堀之内1式7点（7.0%）、加曾利B式11点（9.6%）、安行1式7点（6.1%）、安行2式2点（1.7%）、安行3a式8点（7.0%）、安行3b式1点（0.9%）、前浦式1点（0.9%）、縄文のみ10点（8.7%）、縄文+紐線文+条線文4点（3.5%）、紐線文+縄文15点（13.0%）、条線のみ30点（26.1%）、無文3点（2.6%）、不明15点（13.0%）となり、精製土器と粗製土器を合わせると後期後葉以降の割合が高くなる。利用する土器片の部位をみると、口縁部が23点（20%）、胴部が90点（78.3%）、底部が2点（1.7%）となる。これを時期別でみると、口縁部は後期前葉2点（8.7%）、後期中葉2点（8.7%）、後期後葉14点（60.9%）、晩期5点（21.7%）で、胴部は後期前葉15点（16.7%）、後期中葉12点（13.3%）、後期後葉10点（11.1%）、晩期38点（42.2%）、不明



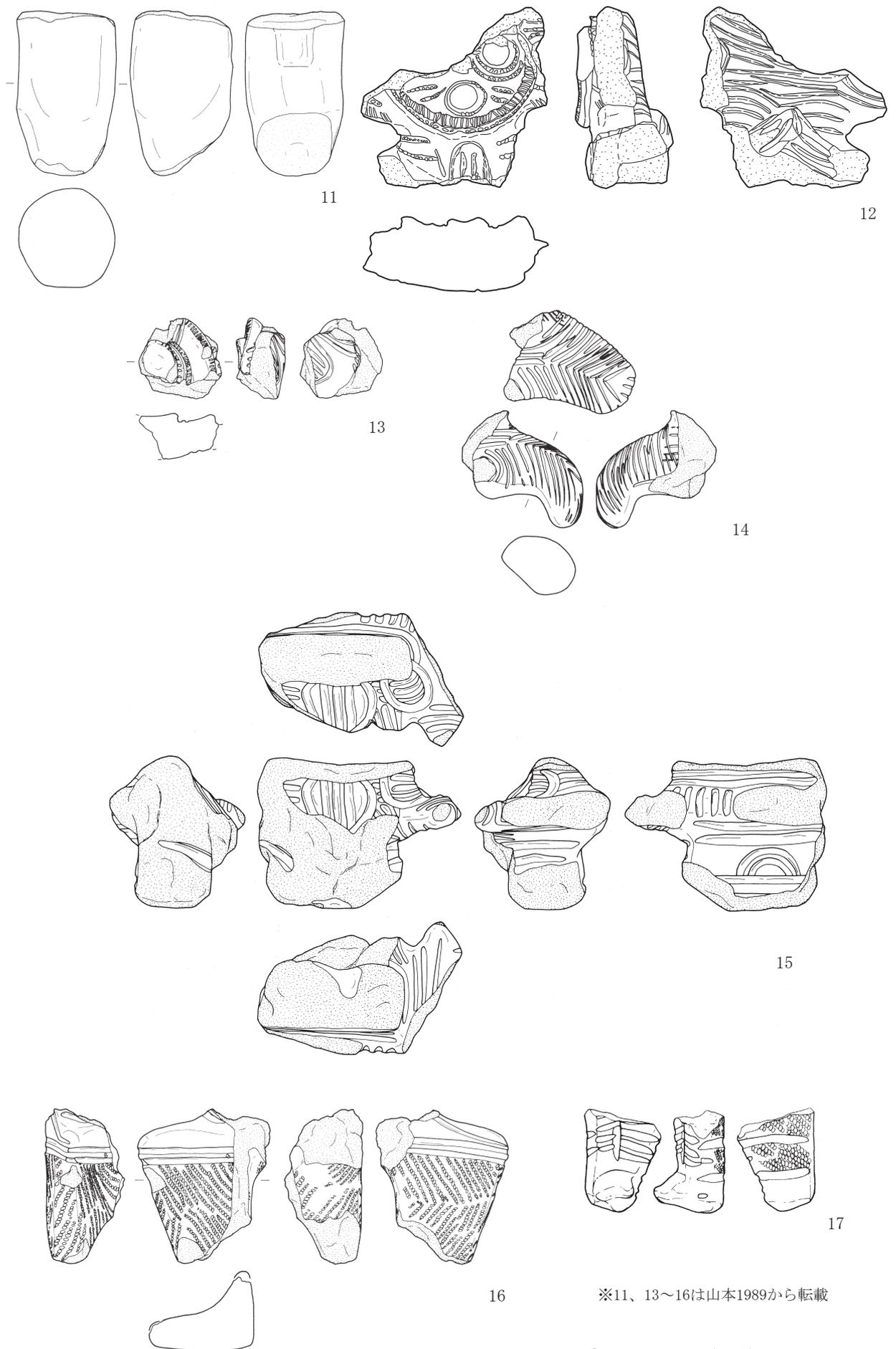
第73図 土器片錘段階別利用土器片および、出土量点数比



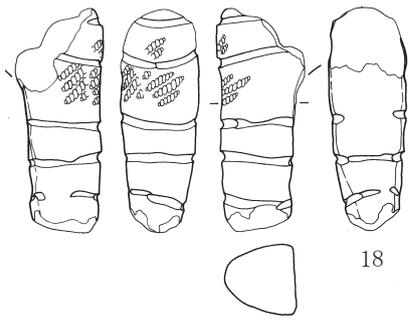
第74図 土製円盤段階別利用土器片および、出土量点数比



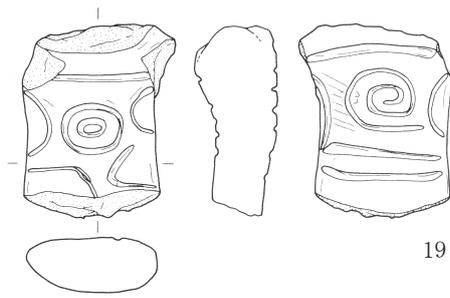
第75図 土偶実測図(1)



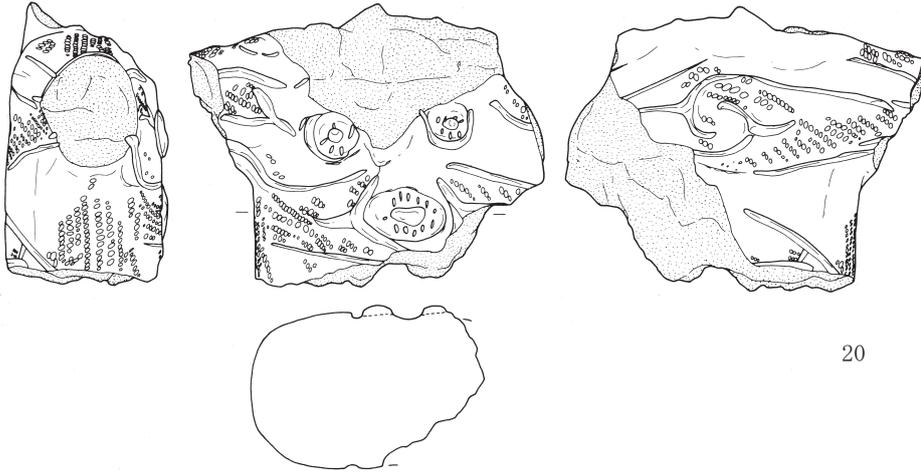
第76図 土偶実測図(2)



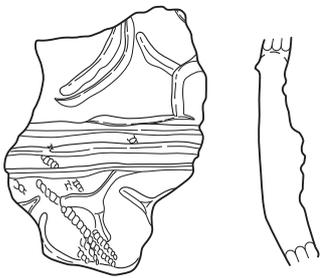
18



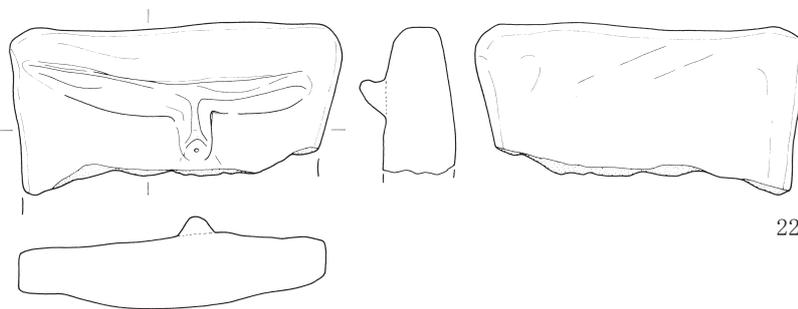
19



20

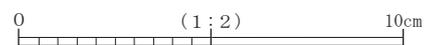


21

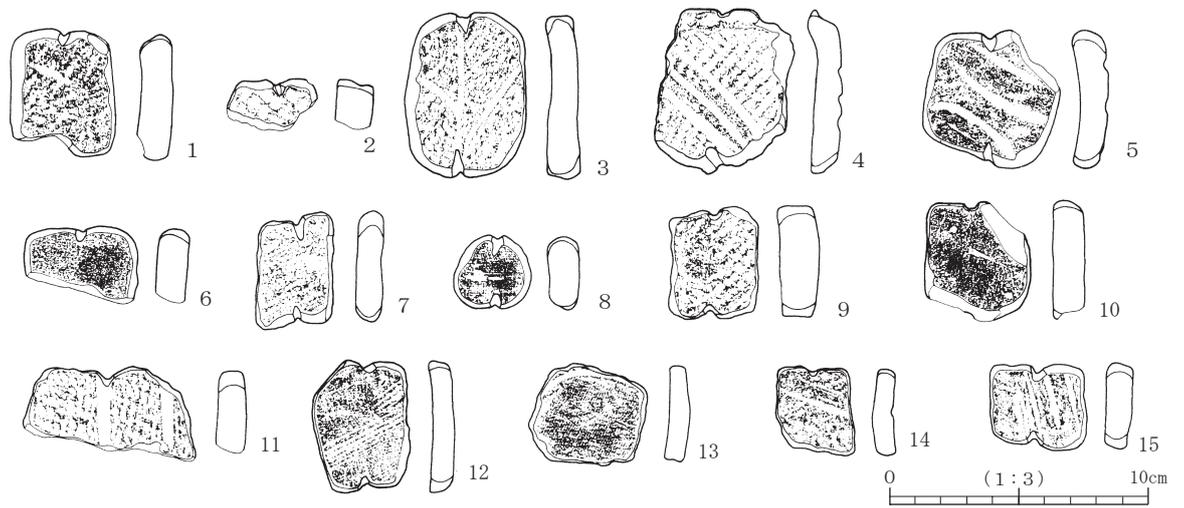


22

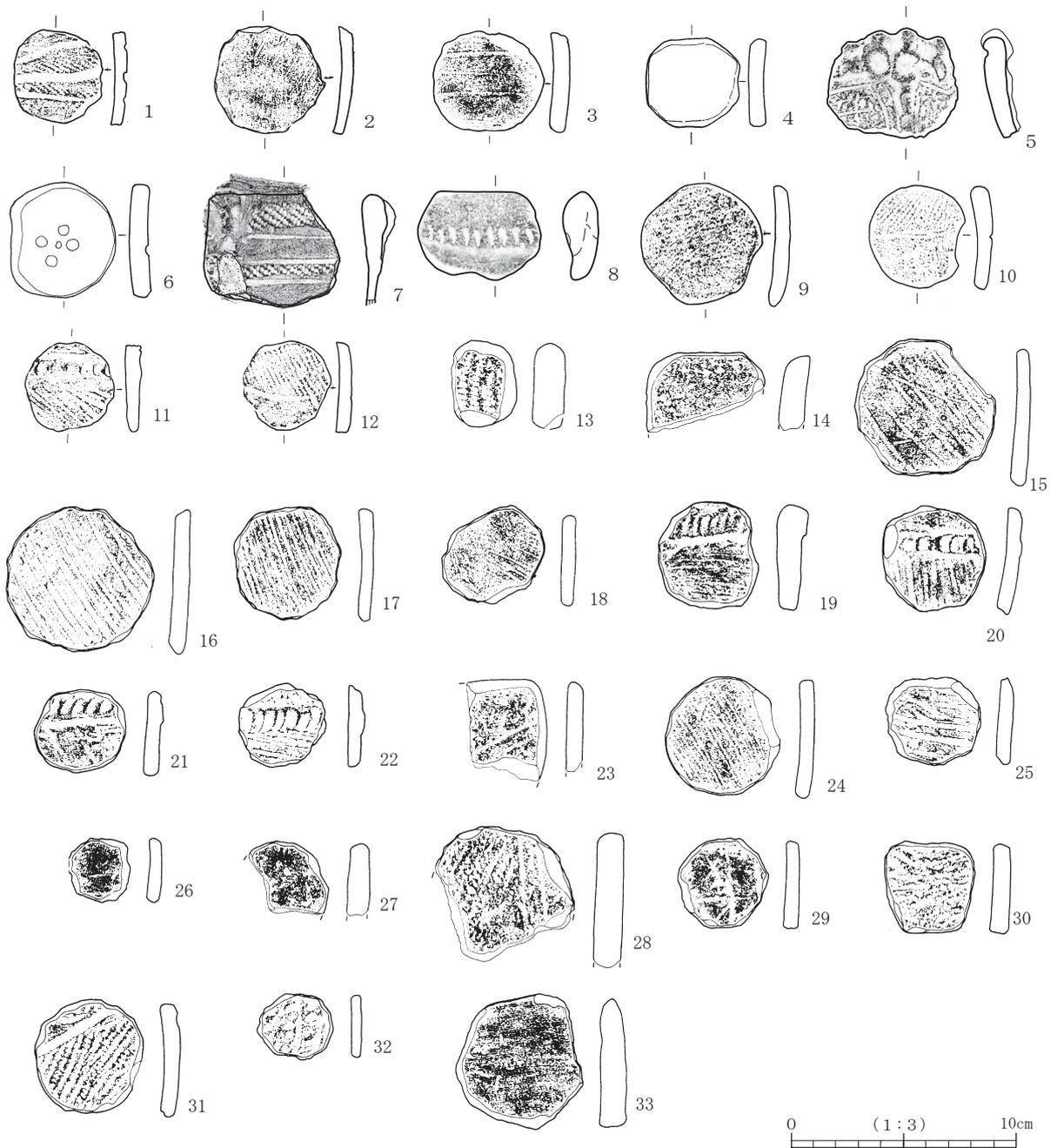
※19、20、22は山本1989から転載



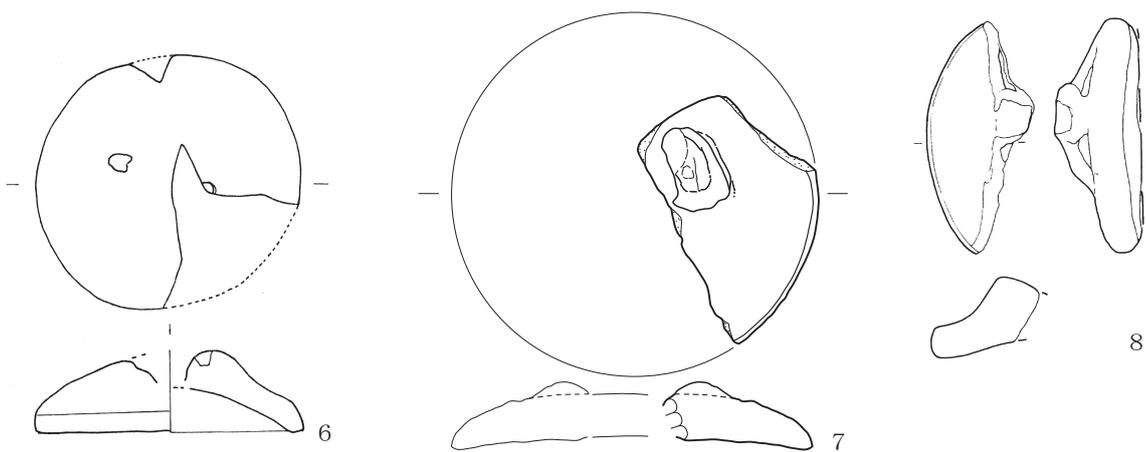
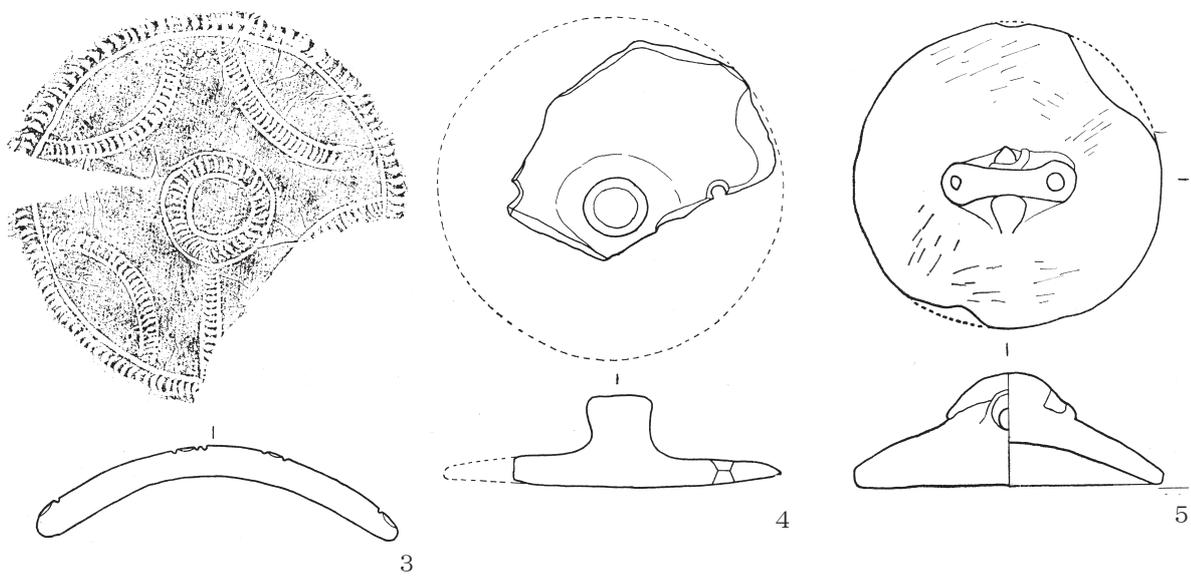
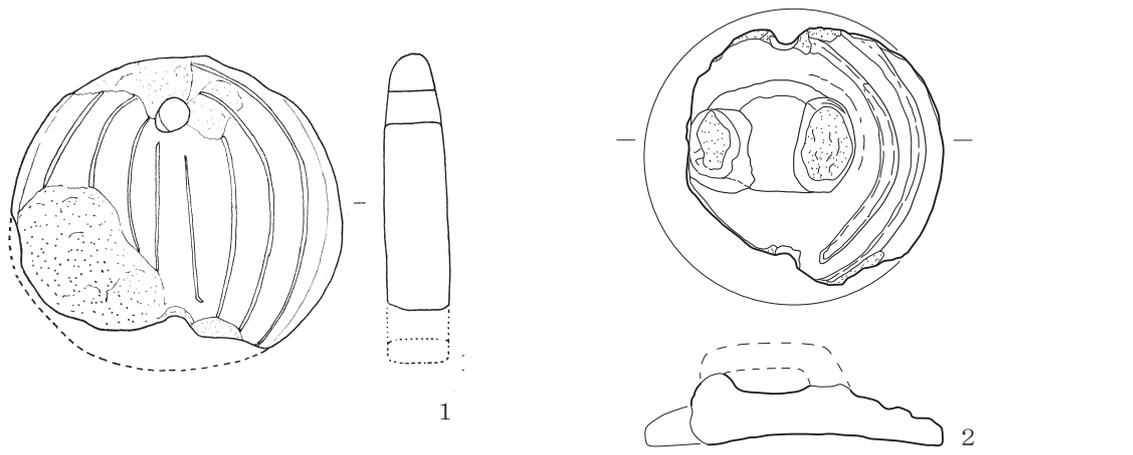
第77図 土偶実測図(3)、土版実測図



第78図 土器片錘実測図



第79図 土製円盤実測図



0 (1:2) 10cm

第80図 蓋状土製品実測図

15点(16.7%)、底部は後期中葉と不明が1点ずつである。基本的には全体の利用傾向と同様に後期後葉～晩期の割合が高くなるが、特に口縁部を利用するものが多い傾向にある。これらは第79図7、8のように比較的厚い口縁部を打ち欠き、隅丸形状に整形する。完形資料の計測値をみると、重量の平均は21.20gで、10～20gが多く利用される傾向にある。最大長の平均値は45.65cmで、35～55cmが多く利用される傾向にあるが、40～45cmと50～55cmに2つのピークがある。

(4) 蓋状土製品(第80図)

蓋状土製品は9点出土した。3のみⅢ段階で出土しているが、他の段階不明以外の6点はⅠ～Ⅱ段階以前に出土している。断面形態が平坦なもの(1、4)と碗形を呈するもの(2、3、5、6～8)に大きく形態が分かれ、つまみ状の突起を有するもの(2、4、5、6～8)とないものもみられる。また、1、2、4は中心を挟んだ対向する位置に穿孔が施される。3は、表面の円形及び弧線区画内、縁辺部に連続する刻みが施され、表面の一部に赤彩が残る。完形個体はないが、推定径の平均値は8.8cmとなる。

(5) 耳飾(第81図)

耳飾は環状形5点、耳栓形3点の合計8点出土した。表土(耕作土)と出土層位不明を除き、Ⅲ段階で3点、Ⅳ～Ⅱ段階で2点出土した。1～3は環状形で、表面に入り組み文状の文様が施される。2と3は類似した形状を呈するが、推定径が異なるため別個体と考えられる。4～6は耳栓形で、4は片面の縁辺が貼り付けにより波状を呈し、中央にも貼り付けにより突起状の焼成前の穿孔が施される。6は内外面に赤彩が施される。6以外は全体形状を把握できる個体はないが、環状形は3を除き推定径6.0cm以上になるのに対し、耳栓形は5.0cm以下の小型となる。

(6) 有孔円盤(第82図)

有孔円盤は3点出土した。Ⅰ～Ⅱ段階で1点、Ⅲ段階で1点、出土層位不明1点出土している。1、2は中央に1つと縁辺に沿って複数の焼成前の穿孔が施される。いずれも推定径が8.0cm以上となる。

(7) ミニチュア土器(第83図)

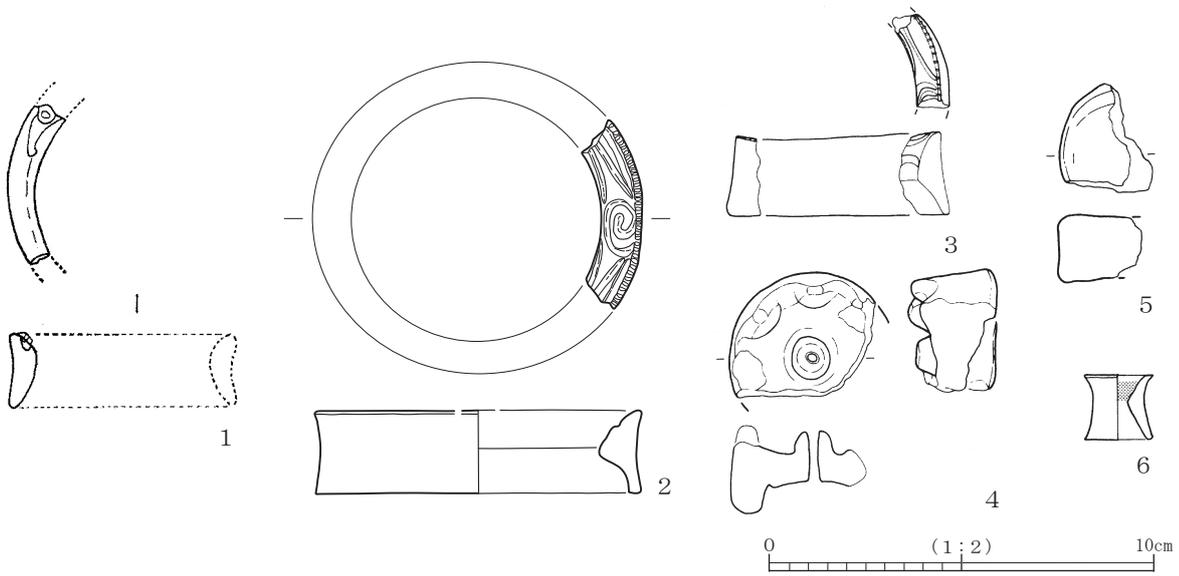
手づくね状の土器の他、ごく小型の土器と思われるものも含めた。Ⅰ～Ⅰ+Ⅱ段階で1点、Ⅱ段階で1点、Ⅲ段階で1点、Ⅳ～Ⅱ段階1点、出土層位不明2点の合計6点出土した。1-1は条線文のみ施文される粗製深鉢のごく小型の土器である。C97、D20、D60グリッドのローム質黄褐色土中から出土したものがグリッド間で接合している。図示していないが、1-4は安行2式の台付鉢を小型化したものと考えられる。

(8) その他の土製品(第83図)

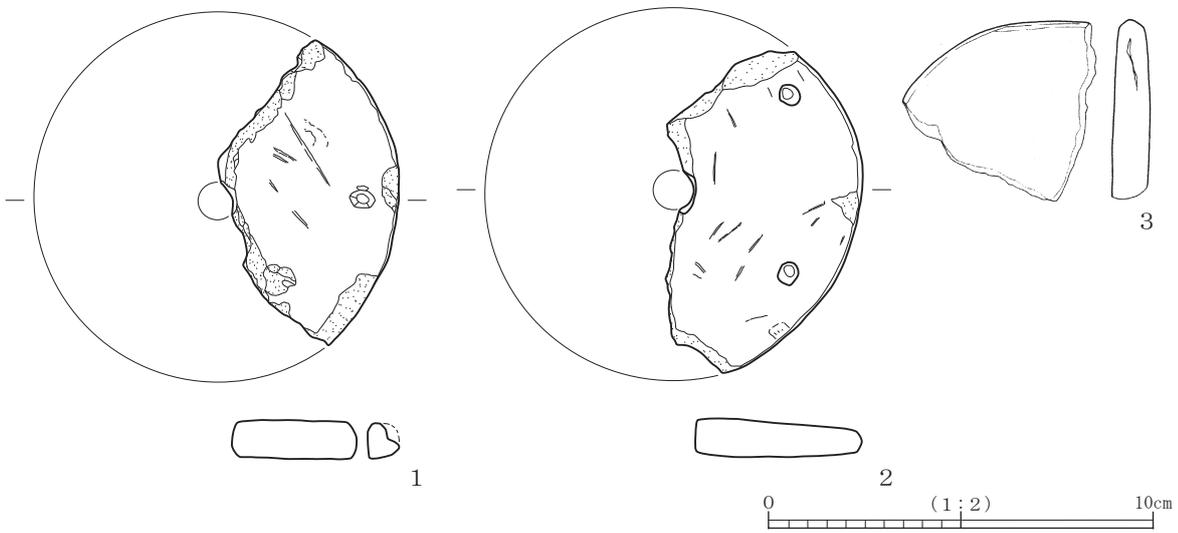
上記(1)～(7)に該当しない土製品をその他の土製品とした。2-1、3は二次利用土器片で、欠損面の一部を著しく研磨に利用している。いずれも堀之内1式土器の土器片を利用し、Ⅰ～Ⅱ段階出土である。2-2は臼形を呈する土製品である。

3 石器・石製品

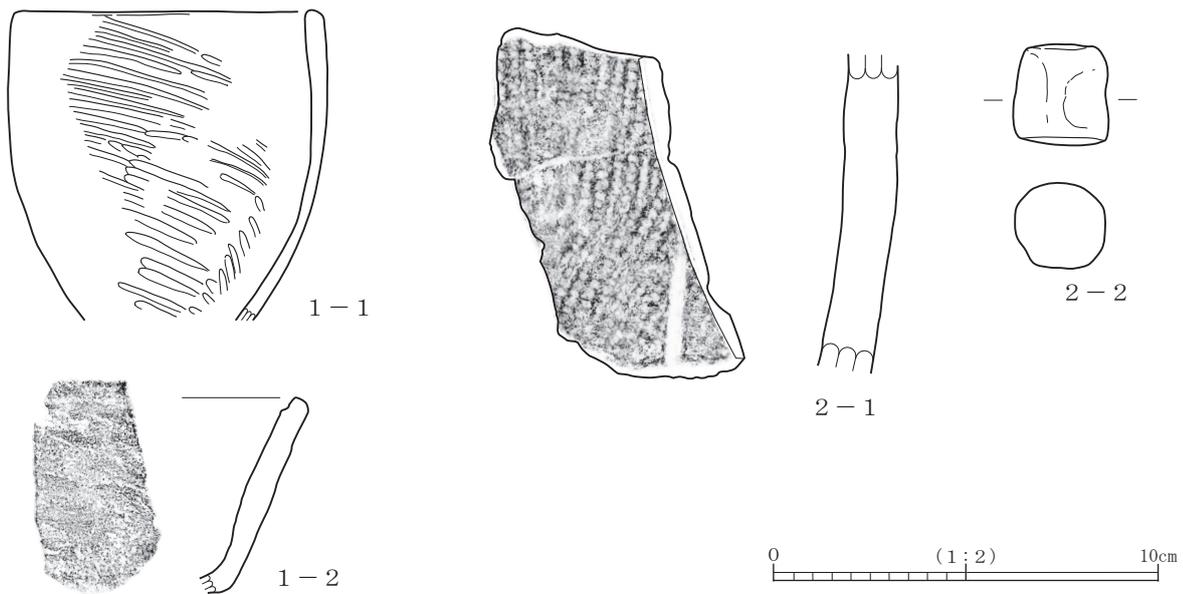
石器は643点出土した。内訳は尖頭器1点、石鏃33点、石鏃未成品1点、石匙1点、石錐4点、削器1点、二次加工ある剥片26点、剥片49点、碎片1点、楔形石器3点、石核51点、打製石斧17点、磨製石斧19点、磨石・敲石211点、石皿49点、砥石87点、軽石製品47点、石棒32点、石剣3点、独鈷石1点、垂飾4点、その他・不明2点である。表採等で出土層位が不明なものが299点と46.5%を占めるが、剥片石器170点、礫石器471点と礫石器が多く、その中でも磨石・敲石、石皿、砥石の加工具が主体となる。個別の観察につ



第81図 耳飾実測図



第82図 有孔円盤実測図



第83図 ミニチュア土器・その他の土製品実測図

表4 土偶・土版属性表

種図 No.	遺物 No.	調査 次数	旧補図 No.	遺構 グリッド	取上 層位 No.	層備考	段階	器種	遺存	土器型式等	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	観察事項	備考
75	1	1	89-3	A29	0002	2 混土具	不明	土偶	顔～胴	山形以前?	64.0	72.3	24.9	88.2	円形の貼付により顔部を表現、右乳房は剥落、左乳房は磨滅している	山本哲也1989「君津地方の土偶」『君津都市文化財センター研究紀要』III (財)君津都市文化財センター 第2図10より転載
75	2	1		D63	0009	4 混土具	II	土偶	顔～胴	山形	71.4	64.5	3.2	96.8	頸部で接合。表面の貼付の大部分剥落するが、右目と眉の表現はわずかに残る。	
75	3	1		D65	0012	3 混土具	III	土偶	顔	山形	41.1	59.8	29.3	37.1	肩と頸部に横断面三角形の貼付を施した後、円形の目と口が知り付けられる。後頭部には高い円形の突起を貼付。	
75	4	1		E42	0007	3	不明	土偶	顔	山形	(85.9)	(29.0)	15.3	14.8	顔の右半分が遺存。肩と頸部に突帯貼付後縦長の目を貼付。目の中央は窪む。耳には穿孔が施される。裏面には腫文が施される。	
75	5	1		C74			不明	土偶	脚～脚	山形	64.0	55.0	40.0	105.1		
75	6	1	89-4	D61	0002	1 混土具	表土	土偶	腕	山形	41.2	27.3	25.5	29.9	内側以外、車筋LR施文後腋部と手首部に沈線施文。	山本哲也1989「君津地方の土偶」『君津都市文化財センター研究紀要』III (財)君津都市文化財センター 第1図4より転載
75	7	1	89-5	C79	0007	3 S1 純土	III	土偶	左脚	山形	39.4	21.3	17.2	14.9	表面中央に縦位沈線施文後、横位の複数の沈線施文。	山本哲也1989「君津地方の土偶」『君津都市文化財センター研究紀要』III (財)君津都市文化財センター 第1図2より転載
75	8	1	89-7	A17	0005	3 混土具 (茶褐色)	III	土偶	左脚	山形	45.8	23.8	16.3	15.7	腕部分は表面から側面にかけて複数の縦位沈線施文。膝下部分は表面に横位沈線施文後縦位沈線施文。	山本哲也1989「君津地方の土偶」『君津都市文化財センター研究紀要』III (財)君津都市文化財センター 第1図3より転載
75	9	1	89-6	D44	0010	5 上	III	土偶	左脚	山形	55.9	35.5	37.2	75.2	内側以外に車筋LR施文後、足首部分に2条の沈線を施す。	山本哲也1989「君津地方の土偶」『君津都市文化財センター研究紀要』III (財)君津都市文化財センター 第1図6より転載
75	10	7	H26 12-39	I0T			III	土偶	左脚	山形	(62.5)	30.0	33.5	52.3	つま先部分に細かな沈線のみが施される。	
76	11	1		E40	0009	2 S3	I-2	土偶	脚	山形?	59.9	35.5	37.2	81.5	胎土赤褐色を呈し、非常に粗い。足裏表面が剥落か。	山本哲也1989「君津地方の土偶」『君津都市文化財センター研究紀要』III (財)君津都市文化財センター 第1図8より転載
76	12	1		C74	0004	4	IV-1	土偶	顔～胴	ミズク	66.0	69.0	33.0	94.7		
76	13	1					不明	土偶	顔	ミズク					左眼部分の破片。資料行方不明。	
76	14	1	89-9	D50	0001	2 茶褐色	IV-2	土偶	脚・左腕	ミズク	56.5	76.0	52.0	112.7	表面の大部分が剥落。胸部に縦位3条の槽円形の貼付	山本哲也1989「君津地方の土偶」『君津都市文化財センター研究紀要』III (財)君津都市文化財センター 第1図1より転載
76	15	1	89-8	D63	0001	2 混土具	III	土偶	左腕	ミズク	36.0	48.2	37.3	33.7	上部に矢羽状の沈線施文。	山本哲也1989「君津地方の土偶」『君津都市文化財センター研究紀要』III (財)君津都市文化財センター 第2図11より転載
76	16	1					不明	土偶	右脚	ミズク	57.2	49.7	28.2	50.9	屈曲する腰部から胸部、腰部の最も張り出した部分に2条の縦位沈線施文後、車筋RLを表面に斜位、裏面に矢羽根状に施文。	山本哲也1989「君津地方の土偶」『君津都市文化財センター研究紀要』III (財)君津都市文化財センター 第1図5より転載
76	17	2	H4 31-1	2T	60		III?	土偶	左脚	ミズク?	35.5	29.2	25.9	20.2	横断面三角形を呈する。内側以外車筋RL施文後、表面に横位の3条の沈線を施し、その後縦位沈線を施文、表面内側よりには3条の短い横位沈線が充てられ、裏面には2条の沈線が施される。	山本哲也1989「君津地方の土偶」『君津都市文化財センター研究紀要』III (財)君津都市文化財センター 第1図7より転載
77	18	2	H4 31-2	5T	3		III?	土偶	脚	ミズク?	59.6	22.4	20.2	25.3	先頭部から2条目の沈線のみ全周	
77	19	1	91-26	E40	0003	2 混土具	I-2	土偶	胴	晩期	51.8	40.3	21.5	39.3	右手状を呈する胸部。表面中央に2条の円形沈線を施文し、その周囲に縦線文を配置する。裏面は車筋施文施文後、中央に溝巻き状の沈線を施文し、両側縁に弧線文、上部に1条の沈線、下部に2条の沈線を施す。	山本哲也1989「君津地方の土偶」『君津都市文化財センター研究紀要』III (財)君津都市文化財センター 第1図9より転載
77	20	1	89-1	C64	0003	4 黒褐色	IV-1	土偶	胴	晩期	75.8	98.4	42.8	210.8	胎土が灰褐色で、色調が淡褐色を呈し、非在地の土で製作された可能性あり。表面には複数の三叉文が施され、胸部と腰部に円形の粘土紐を貼付て面を表現しているものと思われ。背面には入組三叉文が施される。	山本哲也1989「君津地方の土偶」『君津都市文化財センター研究紀要』III (財)君津都市文化財センター 第2図12より転載
77	21	1		C69	0002	2 茶褐色	IV-2	土偶	肩?	中空	70.1	48.8	16.9	43.2	中空土偶の肩部か、腕部と思われる。車筋RL施文後、中央に沈線が施された隆帯を貼付。複数の三叉文が施される。	
77	22	1	89-2	B38	0007	3	IV-2	土版	破片	(42.2)	86.6	24.2	77.3			山本哲也1989「君津地方の土偶」『君津都市文化財センター研究紀要』III (財)君津都市文化財センター 第3図1より転載
23	1			B35	0010	3	IV-2	土偶	右脚	山形(?)	25.0	17.4	16.3	6.3	表面に沈線施す。腕の可能性あり。	
24	1			D52	0006	3 混土	III	土偶	顔?	ミズク	28.6	42.0	18.4	15.3	頸部の円形枠の一部が残存	
25	1			E12	0001	1	表土	土偶	顔?	ミズク?	1.9	3.7	14.3	8.2	頭部の一部か	

表5 土器片錘属性表 ※抉り A：対向する方向に1対 B：対向する方向に2対 C：1箇所のみ D：対向する方向に1対とその他1箇所 E：なし

挿図 No.	遺物 No.	調査 回数	旧挿図 No.	遺構 クリッド	取上 No.	取上 層位	層備考	段階	器種	遺存	土器型式等	部位	調整	形	抉り	最大長 (mm)	重量 (g)	備考
78	1	2	33-11	SI-2	414			I-2	土器片錘	完形	縄	胴	研磨	隅丸方形	A	49.0	34.3	片方の抉り欠損
78	2	2	33-13	SI-2	465			I-2	土器片錘	欠損	縄	胴	打ち欠き、研磨	不明	不明	(2.0)	10.3	一端欠損
78	3	2	33-4	SI-2	104			I-2	土器片錘	完形	堀之内1	胴	打ち欠き、研磨	隅丸方形	A	65.0	48.8	
78	4	2	33-5	SI-2	468			I-2	土器片錘	完形	堀之内1	口縁	研磨	隅丸方形	A	64.0	46.3	
78	5	2	33-10	SI-2	128			I-2	土器片錘	完形	堀之内1	胴	研磨	隅丸方形	A	54.0	36.7	
78	6	2	33-14	SI-2	468			I-2	土器片錘	欠損	堀之内1	胴	研磨	隅丸方形	不明	(45.0)	16.5	一端欠損
78	7	2	33-3	IT	3	貝層内		I-2	土器片錘	完形	縄	胴	打ち欠き、研磨	隅丸方形	A	45.0	17.6	
78	8	2	33-2	IT	1	一括		表土	土器片錘	完形	堀之内1	胴	研磨	円形	A	31.0	11.9	
78	9	2	33-1	IT・3T拡	1	拡張部		不明	土器片錘	完形	縄	胴	打ち欠き、研磨	隅丸方形	A	44.0	30.0	
78	10	2	33-7	IT・3T拡	1	拡張部		不明	土器片錘	完形	堀之内1	胴	打ち欠き、研磨	隅丸方形	A	42.0	28.1	抉りの一端大部分欠損
78	11	2	33-12	IT・3T拡	1	拡張部		不明	土器片錘	欠損	堀之内1	胴	打ち欠き、研磨	隅丸方形	不明	(6.8)	33.6	一端欠損
78	12	2	33-8	3T	1	一括		表土	土器片錘	完形	堀之内1	胴	打ち欠き、研磨	隅丸方形	A	52.0	22.9	
78	13	2	32-17	4T	20	3		I-1?	土器片錘	完形	加曾利B	胴	打ち欠き、研磨	隅丸方形	E	46.0	18.5	
78	14	2	33-9	9T	1	表土		表土	土器片錘	完形	紐縄索	胴	打ち欠き、研磨	隅丸方形	A	35.0	10.9	片方の抉り不明瞭
78	15	2	33-6	10T	4	2 貝層上面		III	土器片錘	完形	縄	胴	打ち欠き、研磨	隅丸方形	A	39.0	17.4	
	16	1	A08		0008	3 混土		III	土器片錘	完形	縄	胴	研磨	不整形	E	47.0	23.5	
	17	1	A08		0017	5 混土		II	土器片錘	欠損	縄	胴	研磨	不整形	E	(45.7)	20.1	
	18	1	A15		0007	3 混土		III	土器片錘	欠損	不明	胴	研磨	不整形	不明	(38.8)	12.1	一端に抉りあり。一端欠損
	19	1	A15		0021	5		III	土器片錘	欠損	堀之内1	胴	研磨	不整形	不明	47.2	19.1	一端に抉りあり。一端欠損
	20	1	A16		0014	4		III?	土器片錘	完形	堀之内1	胴	打ち欠き、研磨	隅丸方形	B	50.2	29.4	
	21	1	A17		0010	不明		不明	土器片錘	完形	不明	胴	研磨	隅丸方形	A	53.0	36.4	
	22	1	A18		0005	3		III	土器片錘	完形	堀之内1	胴	打ち欠き、研磨研磨	隅丸方形	A	71.3	57.8	
	23	1	A23		0007	不明		不明	土器片錘	完形	不明	頸	研磨	隅丸方形	A	34.2	12.6	
	24	1	SK15 (A24)		0033	5		I-2	土器片錘?	完形	条?	胴	研磨	隅丸方形	C	(48.9)	16.1	一端に不鮮明な抉りあり
	25	1	A24		0061	不明		不明	土器片錘	欠損	縄	胴	研磨	隅丸方形	不明	(45.5)	31.4	一端に抉りあり。一端欠損
	26	1	A24		0004	2 混土		I-2	土器片錘	欠損	堀之内1	胴	研磨	隅丸方形	不明	(62.0)	29.4	一端に抉りあり。一端欠損
	27	1	A25		0016	5 上面		I-2	土器片錘	完形	不明	胴	研磨	隅丸方形	A	45.2	17.1	
	28	1	A25		0041	A25北壁内		不明	土器片錘	完形	堀之内1	胴	打ち欠き、研磨	隅丸方形	A	61.5	46.9	
	29	1	A26		0010	4 純土		I-2	土器片錘	完形	堀之内1	口縁	研磨	隅丸方形	A	69.7	54.5	
	30	1	A27		0009	4 混土		I-2	土器片錘	完形	堀之内1	胴	研磨	円形	A	55.5	36.1	
	31	1	A28		0015	4 混土(褐色)		I-2	土器片錘	完形	縄	胴	研磨	隅丸方形	D	55.5	33.1	3辺に不明瞭な抉り
	32	1	A28		0015	4 混土(褐色)		I-2	土器片錘	完形	縄	胴	研磨	隅丸方形	A	53.7	35.7	
	33	1	A28		0011	5 黒色		I-1	土器片錘	完形	堀之内1	胴	研磨	隅丸方形	A	51.5	34.7	
	34	1	A29		0002	2 混土具		不明	土器片錘	完形	縄	胴	研磨	円形	E	49.1	22.1	抉りらしき部分があるが不明瞭
	35	1	A35		0022	6 混土		I-2	土器片錘	完形	堀之内1	胴	研磨	台形	A	46.8	28.4	
	36	1	A37		0017	4		I-2	土器片錘	完形	不明	胴	打ち欠き	隅丸方形	A	42.7	20.7	
	37	1	A48		0002	2		I-2	土器片錘	完形	堀之内1	胴	研磨	隅丸方形	A	37.2	16.8	
	38	1	A48		0021	4		I-2	土器片錘	完形	堀之内1	胴	研磨	隅丸方形	A	51.7	30.3	
	39	1	A54		0016	4 S5		I-2	土器片錘	欠損	堀之内1	胴	研磨	方形	不明	(41.2)	16.1	一端に抉りあり。一端欠損
	40	1	A54		0003	1		I-2	土器片錘	完形	不明	胴	研磨	円形	E	31.1	8.9	
	41	1	A54		0023	4 S5		I-2	土器片錘	欠損	不明	胴	研磨	隅丸方形	不明	(28.8)	7.7	一端に抉りあり。一端欠損
	42	1	A54		0017	4 S5		I-2	土器片錘	完形	堀之内1	胴	研磨	隅丸方形	A	47.4	33.7	
	43	1	A57		0003	3 フロック 混土具		I-2	土器片錘	欠損	堀之内1	胴	研磨	隅丸方形	E	(36.3)	14.5	
	44	1	A64		0001	2		I-2	土器片錘	欠損	堀之内1	胴	研磨	円形	不明	55.2	28.3	一端に抉りあり。一端欠損

表5 (つづき)

挿図 No.	遺物 No.	調査 次数	旧挿図 No.	遺構 グリッド	取上 No.	取上 層位	層備考	段階	器種	遺存	土器型式等	部位	調整	形	決り	最大長 (mm)	重量 (g)	備考
	45	1	B34	0031	不明			不明	土器片鏟	欠損	不明	胴	研磨	不整形	A	43.6	12.2	
	46	1	C78	注記なし				不明	土器片鏟	完形	条	胴	研磨	円形	D	49.2	20.4	3辺に不明瞭な決り
	47	1	C88	0009	4	混貝		III	土器片鏟	完形	堀之内1	胴	研磨	隅丸方形	A	55.0	26.4	
	48	1	C98	0004	3			III	土器片鏟	完形	条	胴	研磨	円形	C	53.1	27.0	1辺に不明瞭な決り
	49	1	D30	0001	1	R1		表土	土器片鏟	完形	不明	胴	研磨	円形	C	42.1	17.7	
	50	1	D60	0015	2	褐色 R5		IV-2	土器片鏟	完形	縄	胴	研磨	不整形	A	58.3	44.2	
	51	1	D70	0002	3	混貝		IV-2	土器片鏟	完形	不明	胴	打ち欠き、研磨	円形	A	41.9	12.8	
	52	1	D81	0001?	1			表土	土器片鏟	完形	縄	胴	研磨	隅丸方形	A	42.4	19.7	2辺に不明瞭な決り
	53	1	E05	0011	4	褐色		I-1	土器片鏟	欠損	不明	胴	研磨	隅丸方形	不明	(40.1)	17.5	一端に決りあり。一端欠損
	54	1	E11	0004	2	混貝		II	土器片鏟	完形	堀之内1	胴	研磨	隅丸方形	A	49.0	21.7	
	55	2	SI-2	143				I-2	土器片鏟	完形	堀之内1	胴	打ち欠き	隅丸方形	A	49.3	24.4	
	56	2	SI-2	143				I-2	土器片鏟	完形	堀之内1	胴	研磨	隅丸方形	A	44.2	18.1	
	57	2	SI-2	1				I-2	土器片鏟	欠損	堀之内1	胴	研磨	隅丸方形	不明	44.9	22.7	一端に決りあり。一端欠損
	58	2	SI-6	173				I-2	土器片鏟	完形	縄	胴	研磨	不整形	A	37.9	16.6	両端に不明瞭な決り
	59	2	SI-6	173				I-2	土器片鏟	完形	不明	胴	研磨	不整形	A	42.8	23.5	両端に不明瞭な決り
	60	2	SI-6	173				I-2	土器片鏟	欠損	堀之内1	胴	研磨	不整形	A	53.9	35.0	両端に不明瞭な決り
	61	2	IT・3T拡	1	拡張部			不明	土器片鏟	完形	堀之内1	胴	研磨	隅丸方形	A	48.5	18.5	
	62	2	7T	1	一括			不明	土器片鏟	欠損	堀之内1	胴	打ち欠き、研磨	隅丸方形	不明	64.4	47.9	一端に決りあり。一端欠損
	63	2	8T	2	1			表土	土器片鏟	完形	堀之内1	胴	研磨	隅丸方形	A	44.2	25.8	
	64	1	D72	0013	4	暗黒色		III	土器片鏟	欠損	縄	胴	研磨	隅丸方形	A?	(58.0)	66.7	一端に決りあり。もう一端は欠損のため不明

表6 土製円盤属性表 ※決り A：対向する方向に1対 B：対向する方向に2対 C：1箇所のみ D：対向する方向に1対とその他1箇所 E：なし

挿図 No.	遺物 No.	調査 次数	旧挿図 No.	遺構 グリッド	取上 No.	取上 層位	層備考	段階	器種	遺存	土器型式等	部位	調整	形	決り	最大長 (mm)	重量 (g)	備考
79	1	1	191-18	B34	0019	4	褐色	IV-1	土製円盤	完形	安行3a?	胴	打ち欠き	円形	E	44.0	15.0	
79	2	1	191-19	B34	0016	4	褐色	IV-1	土製円盤	完形	条	胴	打ち欠き	円形	E	49.6	20.0	
79	3	1	191-25	B36	0003	2	黒褐色	IV-2	土製円盤	完形	条	胴	研磨	円形	E	49.7	28.0	
79	4	1	191-17	B38	0009	3	黄褐色	IV-2	土製円盤	完形	不明	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	44.5	20.0	
79	5	1	実測済	C79	0008	3	S1 純貝	III	土製円盤	完形	紐縄条	口縁	打ち欠き	円形	E	59.2	39.0	内面に5箇所の小さな窪み
79	6	1	191-20	C79	0003	2	茶褐色	IV-2	土製円盤	完形	不明	胴	研磨	円形	A?	53.5	25.0	
79	7	1	実測済	D44	0022	不明		不明	土製円盤	完形	安行1	口縁	打ち欠き	楕円形	E	61.6	38.0	
79	8	1	実測済	D50	0002	2	茶褐色	IV-2	土製円盤	完形	紐条	口縁	研磨	楕円形	E	55.3	32.6	
79	9	1	191-24	D51	0016	4	褐色	III	土製円盤	完形	条	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	55.8	29.0	
79	10	1	191-21	D53	0001	2	混貝	III	土製円盤	完形	安行3a?	胴	研磨	円形	A?	47.4	20.0	一部欠損。対になる両端に微妙に決りあり。
79	11	1	191-22	D80	0008	3	混貝 S1	III	土製円盤	完形	紐条	胴	打ち欠き	円形	E	42.4	11.0	
79	12	1	191-23	D90	0003	2	貝層 S1	III	土製円盤	完形	安行3a?	胴	打ち欠き	円形	E	41.2	11.0	
79	13	2	32-14	SI-2	462			I-2(S102)	土製円盤	完形	縄	胴	打ち欠き、研磨	隅丸方形	E	38.0	17.9	
79	14	2	32-22	SI-2	463			I-2(S102)	土製円盤	欠損	縄	胴	研磨	不整形	E	(53.0)	21.1	
79	15	2	32-4	2T	66	2		III?	土製円盤	完形	条	胴	打ち欠き	円形	E	63.0	33.4	
79	16	2	32-6	2T	17	6		III	土製円盤	完形	条	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	66.0	38.0	
79	17	2	32-10	2T	66	2		III?	土製円盤	完形	条	胴	打ち欠き	円形	E	50.0	17.4	
79	18	2	32-15	2T	66	2		III?	土製円盤	完形	条	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	46.0	13.6	
79	19	2	32-1	2T	65	1	表土		土製円盤	完形	紐条	口縁	打ち欠き、研磨	円形	E	47.0	28.2	

表6 (つづき)

挿図 No.	遺物 No.	調査 回数	旧挿図 No.	遺構 グリッド	取上 No.	取上層 位	層備考	段階	器種	遺存	土器型式等	部位	調整	形	挟り	最大長 (mm)	重量 (g)	備考
79	20	2	32-2	2T	20	2		III?	土製円盤	完形	紐条	胴	打ち欠き	円形	E	47.0	18.2	
79	21	2	32-3	2T	66	2		III?	土製円盤	完形	紐条	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	40.0	13.0	
79	22	2	32-9	2T	66	2		III?	土製円盤	完形	紐条	胴	打ち欠き	円形	E	40.0	11.3	
79	23	2	32-21	2T	66	2		III?	土製円盤	欠損	不明	胴	研磨	隅丸方形	E	(45.0)	16.5	欠損面を著しく研磨
79	24	2	32-5	2T	66	2		III?	土製円盤	完形	無文	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	53.0	23.1	
79	25	2	32-12	7T	1	一括		不明	土製円盤	完形	紐縄条	胴	打ち欠き	円形	E	41.9	13.1	
79	26	2	32-13	7T	1	一括		不明	土製円盤	完形	不明	胴	打ち欠き	円形	E	29.0	5.7	
79	27	2	32-20	7T	1	一括		不明	土製円盤	欠損	不明	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	(35.0)	11.5	
79	28	2	32-19	7T	1	一括		不明	土製円盤	完形	堀之内1	胴	打ち欠き、研磨	扇形	E	62.0	48.5	
79	29	2	32-8	9T	1	一括		不明	土製円盤	完形	不明	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	41.0	13.8	
79	30	2	32-16	10T	59	2c		I-2	土製円盤	完形	縄	胴	打ち欠き、研磨	隅丸方形	E	41.0	18.2	
79	31	2	32-7	11T	1	表土		表土	土製円盤	完形	加曾利B	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	50.0	25.4	
79	32	2	32-11	11T	50	A2下		I-2	土製円盤	完形	紐縄条	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	33.0	6.2	
79	33	2	32-18	11T	1	表土		表土	土製円盤	完形	堀之内1	口縁	打ち欠き、研磨	円形	E	60.0	44.4	
	34	1	A06		0003	2	混貝	IV-2	土製円盤	完形	不明	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	52.3	28.6	
	35	1	A15		0021	5		III	土製円盤	欠損	縄	胴	研磨	円形	E	36.0	12.9	大部分欠損
	36	1	A16		0019	5		III	土製円盤	欠損	堀之内1	胴	研磨	不整形	E	47.3	19.5	
	37	1	A18		000?	不明		不明	土製円盤	欠損	不明	胴	研磨	円形	E	44.2	10.4	
	38	1	A19		0001	2	混貝	不明	土製円盤	完形	不明	胴	研磨	円形	E	33.8	8.8	
	39	1	SK15 (A24)		0038	6	混貝	I-2	土製円盤	欠損	堀之内1	胴	研磨	円形	E	36.2	13.0	
	40	1	A26		0002	2	混貝土	不明	土製円盤	完形	紐縄条	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	38.4	9.8	
	41	1	A28		0003	3	混土	III	土製円盤	完形	堀之内1	胴	研磨	円形	E	43.7	16.3	
	42	1	A38		0005	3		III	土製円盤	完形	加曾利B	底	研磨	円形	E	65.5	32.9	網代痕
	43	1	A44		0004	2	混貝	I-2	土製円盤	欠損	縄	胴	研磨	隅丸方形	E	66.2	37.1	
	44	1	A44		0015	不明		不明	土製円盤	完形	堀之内1	口縁	研磨	円形	E	34.5	12.2	
	45	1	A58		0006	2		I-2	土製円盤	完形	縄	胴	研磨	円形	E	42.2	19.1	
	46	1	A59		0008	2	黒褐色	I-2	土製円盤	欠損	不明	胴	研磨	円形	E	33.6	6.0	
	47	1	A64		0001	2		I-2	土製円盤	完形	前浦?	胴	研磨	不整形	E	40.5	11.3	
	48	1	A74		0002	2		グリッドなし	土製円盤	完形	安行2	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	43.9	17.9	
	49	1	A84		0001	1		グリッドなし	土製円盤	完形	紐条	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	46.7	13.3	
	50	1	B34		0009	3		IV-2	土製円盤	完形	安行3a?	胴	研磨	隅丸方形	E	35.9	7.5	
	51	1	B34		0021	4		IV-1	土製円盤	完形	条	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	37.5	12.2	
	52	1	B34		0008	3		IV-2	土製円盤	完形	不明	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	37.8	9.1	
	53	1	B35		0009	3		IV-2	土製円盤	完形	加曾利B	胴	打ち欠き	円形	E	38.3	9.0	
	54	1	B35		0022	4		IV-1	土製円盤	完形	加曾利B	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	41.2	13.2	
	55	1	B35		0019	4下		IV-1	土製円盤	欠損	安行3a?	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	44.3	11.9	
	56	1	B35		0019	4下		IV-1	土製円盤	完形	無文	口縁	研磨	隅丸方形	E	51.0	37.4	
	57	1	B36		0007	3		IV-2	土製円盤?	完形	安行3b?	口縁	打ち欠き、研磨	イチョウ形?	E	75.9	48.9	欠損面の一部(胴部側)を弧状に加工し、 口縁側は加工しない。
	58	1	B36		0001	1		表土	土製円盤?	完形	紐条	口縁	打ち欠き	隅丸方形	E	53.5	34.3	
	59	1	B36		0002	表採		表土	土製円盤	完形	条	胴	研磨	不整形	E	41.5	17.0	
	60	1	B37		0011	3		IV-2	土製円盤	完形	条	口縁	打ち欠き、研磨	不整形	E	41.4	17.4	
	61	1	B37		0011	3		IV-2	土製円盤	完形	条	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	41.7	14.0	
	62	1	B38		0002	1		表土	土製円盤	完形	紐条	口縁	打ち欠き、研磨	隅丸方形	E	55.8	37.5	
	63	1	B38		0007	3		IV-2	土製円盤	完形	紐条	胴	研磨	隅丸方形	E	48.4	18.1	
	64	1	C54		0001	4		IV-1	土製円盤	完形	条	胴	研磨	円形	C	40.2	13.2	
	65	1	C64		0001	3		IV-2	土製円盤	完形	条	胴	研磨	円形	E	36.9	12.1	
	66	1	C74		0003	3	茶褐色	IV-2	土製円盤	完形	条	胴	研磨	円形	E	37.6	11.1	
	67	1	C78		0008	2	茶褐色	IV-2	土製円盤	完形	条	口縁	打ち欠き、研磨	隅丸方形	E	53.6	27.8	

表6 (つづき)

挿図 No.	遺物 No.	調査 次数	旧挿図 No.	遺構 グランド	取上 層位	層備考	段階	器種	遺存	土器型式等	部位	調整	形	検り	最大長 (mm)	重量 (g)	備考
	68	1		C79	0003	2 茶褐色	IV-2	土製円盤	完形	条	胴	研磨	半円形	E	58.3	19.8	
	69	1		C79	0001	2 茶褐色	IV-2	土製円盤	完形	無文	胴	研磨	円形	E	44.0	21.5	
	70	1		C84	0003	2 茶褐色	IV-2	土製円盤	完形	条	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	52.7	28.7	
	71	1		C85	0004	3 黒褐色	III	土製円盤	完形	縄	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	34.4	9.2	
	72	1		C85	0003	2 茶褐色	IV-2	土製円盤	完形	不明	胴	研磨	円形	E	33.3	7.0	
	73	1		C86	0019	3 暗褐色 上面	III	土製円盤	完形	加曽利B	胴	打ち欠き	円形	E	52.2	22.4	
	74	1		C86	0002	2	IV-2	土製円盤	完形	安行1	口縁	打ち欠き、研磨	隅丸方形	C?	50.5	20.9	短軸の一端に大きな抉り
	75	1		C86	0002	2	IV-2	土製円盤	完形	安行1	口縁	打ち欠き、研磨	隅丸方形	E	66.4	44.6	
	76	1		C86	0009	2 茶褐色	IV-2	土製円盤	完形	安行2	口縁	打ち欠き	隅丸方形	E	59.1	41.3	
	77	1		C87	0007	3 混貝 褐色	III	土製円盤	完形	条	胴	打ち欠き	円形	E	51.8	15.2	
	78	1		C88	0009	4 混貝	III	土製円盤	完形	条	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	53.5	21.5	
	79	1		C89	0001	2	IV-2	土製円盤	完形	条	胴	打ち欠き	円形	E	34.0	6.2	
	80	1		C96	0003	2 茶褐色	IV-2	土製円盤	完形	条	口縁	研磨	円形	E	55.2	28.5	
	81	1		C97	000?		不明	土製円盤	完形	安行3a?	胴	研磨	円形	E	43.4	16.5	
	82	1		C97	0002	2 茶褐色	IV-2	土製円盤	欠損	条	胴	研磨	円形	E	47.5	17.9	
	83	1		C98	0004	3	III	土製円盤	欠損	安行3a?	胴	研磨	円形	E	49.0	8.2	半分欠損。縁辺に面的な研磨痕
	84	1		D10	0001	1、2	表土?	土製円盤	完形	条	胴	打ち欠き	円形	E	54.2	16.4	
	85	1		D43	0002	2 茶褐色	IV-2	土製円盤	完形	安行1?	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	42.7	14.0	
	86	1		D43	0001	2 茶褐色	IV-2	土製円盤	完形	条	胴	研磨	円形	E	45.8	14.1	
	87	1		D50	0001	2 茶褐色	IV-2	土製円盤	完形	条	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	56.4	21.0	
	88	1		D50	0002	2 茶褐色	IV-2	土製円盤	完形	条	胴	打ち欠き、研磨	円形	C	47.0	15.7	一端に不明瞭な抉り
	89	1		D50	0004	2 茶褐色	IV-2	土製円盤	完形	条	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	65.8	32.9	
	90	1		D51	0016	4 褐色	III	土製円盤	欠損	加曽利B	胴	研磨	円形	E	39.2	12.0	
	91	1		D52	0018	不明	不明	土製円盤	完形	安行1	口縁	打ち欠き	隅丸方形	E	68.9	59.3	液状口縁の口縁部の形状をほぼ残し、隅丸方形形状に調整する
	92	1		D52	0006	3 混土	III	土製円盤	完形	紐条	口縁	打ち欠き、研磨	楕円形	E	52.5	25.2	
	93	1		D60	0044	6 純貝	I-1	土製円盤	完形	安行1	胴	研磨	円形	E	46.9	15.6	
	94	1		D60	0019	4 プロック貝 純貝 S4	III	土製円盤	完形	紐条	胴	打ち欠き	円形	E	78.9	52.2	
	95	1		D61	0030	不明	不明	土製円盤	完形	紐条	口縁	打ち欠き	隅丸方形	E	51.6	27.7	補修孔
	96	1		D62	0002	2 混貝	III	土製円盤	完形	加曽利B	胴	研磨	円形	E	42.1	14.2	
	97	1		D62	0002	2 混貝	III	土製円盤	完形	加曽利B	胴	研磨	円形	E	39.1	12.7	
	98	1		D70	0002	2 混貝	IV-2	土製円盤	完形	条	胴	研磨	円形	E	38.3	8.0	
	99	1		D72	0001	2 混貝	III	土製円盤	完形	堀之内1	胴	研磨	円形	E	40.8	22.6	
	100	1		D82	0006	4	I-1	土製円盤	完形	加曽利B	胴	打ち欠き	円形	E	59.8	32.3	
	101	1		D90	0007	2 混貝 S1	III	土製円盤	完形	安行3a?	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	60.1	26.3	
	102	1		D90	0007	2 混貝 S1	III	土製円盤	完形	紐条	口縁	研磨	隅丸方形	E	53.8	27.7	
	103	1		D90	0011	不明	不明	土製円盤	完形	不明	胴	研磨	円形	E	29.0	8.8	
	104	1		D91	0011	1	表土	土製円盤	完形	加曽利B	口縁	打ち欠き	円形	E	38.5	13.9	
	105	1		D91	0001	3 混貝(褐色)	II	土製円盤	完形	不明	胴	研磨	円形	E	38.3	14.2	
	106	1		D94	0005	3	III	土製円盤	完形	紐条	口縁	打ち欠き、研磨	隅丸方形	E	54.1	29.2	
	107	1		E05	0017	3	I-2	土製円盤	欠損	不明	底	打ち欠き、研磨	円形	E	37.5	11.1	中央部に焼成前の穿孔。片面網代痕
	108	1		E11	0002	2 混貝	II	土製円盤	完形	安行1	口縁	打ち欠き、研磨	隅丸方形	E	44.7	26.2	
	109	1		E13	0007	3 混貝(茶褐色)	I-2	土製円盤	完形	条	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	51.0	20.9	
	110	1		E34	0011	2	I-1	土製円盤	完形	不明(縄)	胴	打ち欠き、研磨	楕円形	E	49.5	19.7	
	111	2		S106	173		I-2(S106)	土製円盤	完形	堀之内1	胴	研磨	不整形	E	55.4	39.3	
	112	2		7T	1	一括	不明	土製円盤	完形	縄	胴	打ち欠き、研磨	楕円形	E	52.1	23.1	
	113	2		7T	1	一括	不明	土製円盤	欠損	縄	胴	研磨	隅丸方形	E	(54.8)	44.9	
	114	7		表採		表土		土製円盤	完形	加曽利B	胴	打ち欠き	円形	E	37.0	13.5	
	115	1		表採	0003		表土	土製円盤	完形	条	胴	打ち欠き、研磨	円形	E	43.1	16.3	

表7 蓋状土製品属性表

挿図 No.	遺物 No.	調査 回数	旧挿図 No.	遺構 グリッド	取上 No.	取上 層位	層備考	段階	器種	遺存	直径 (mm)	高さ (mm)	重量 (g)	備考
80	1	S48	90-10	E43	0003	3	混貝土	I-2	蓋状土製品	一部欠損	(88.0)	16.46	117.8	
80	2	S48		A59	0005	3	混土貝	I-1	蓋状土製品	一部欠損	(74.0)	2.0	61.0	
80	3	S48	90-12	C79	0005	3	純貝層	III	蓋状土製品	3/4	105.0	26.0	88.4	
80	4	S48	90-13	E14	0027	2		I-2	蓋状土製品	1/4	(90.5)	24.0	33.5	
80	5	S48	90-14	不明	不明	不明		不明	蓋状土製品	一部欠損	81.0	29.5	73.6	
80	6	S48	90-15	SK15 (A24)	0050	11	ハマグリ純貝	I-2	蓋状土製品	3/4	(72.0)	22.0	39.4	
80	7	S48		E40	0006	2	混貝土層	I-2	蓋状土製品	1/5	(96.0)	19.0	31.3	
80	8	H04	31-7	1T・3T拡	1	拡張部		不明	蓋状土製品	一部残存	(80.0)	28.0	17.7	
	9	S48		E42	0018	2	茶褐色	I-2	蓋状土製品	1/5	(104.0)	22.0	65.9	

表8 耳飾属性表

挿図 No.	遺物 No.	調査 回数	旧挿図 No.	遺構 グリッド	取上 No.	取上 層位	層備考	段階	器種	遺存	直径 (mm)	高さ (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
81	1	1	91-27	D60	0007	3	R5	IV-2	耳飾	1/6	(70.0)	19.2	8.3	8.2	
81	2	1		D72	0007	3		III	耳飾	1/6	(84.0)	22.7	10.7	9.8	
81	3	2	31-4	2T	66	2		III?	耳飾	1/6	(48.0)	21.9	7.5	4.3	
81	4	2	31-3	10T	2	1		表土	耳飾	1/2	(44.0)	22.8	20.4	22.5	
81	5	2	31-5	11T	2	1		表土	耳飾	1/4	(36.0)	18.1	(24.5)	9.5	
81	6	1	91-28	?	?	不明		不明	耳飾	一部欠損	(18.0)	17.1	5.0	3.2	内外面赤採
	7	1		D94	0003	2		III	耳飾	1/4	(60.0)	17.5	6.1	6.3	
	8	1		C97	0002	2	茶褐色	IV-2	耳飾	1/6	(64.0)	22.8	9.1	6.9	

表9 有孔円盤属性表

挿図 No.	遺物 No.	調査 回数	旧挿図 No.	遺構 グリッド	取上 No.	取上 層位	層備考	段階	器種	遺存	直径 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
82	1	1		D54	0006	2	混貝土	III	有孔円盤	1/3	(96.0)	10.5	39.6	
82	2	1		不明				不明	有孔円盤	1/3	(100.0)	10.5	50.2	
82	3	2	31-6	SI-06	173			I-2	有孔円盤	1/5	(86.0)	10.0	23.0	

表10 ミニチュア土器属性表

挿図 No.	遺物 No.	調査 回数	旧挿図 No.	遺構 グリッド	取上 No.	取上 層位	層備考	段階	器種	遺存	口径 (mm)	高さ (mm)	重量 (g)	備考
83	1-1	S48		C97 D60	C97-0002 D20-0004 D60-0011 D60-0012	2 3 3	茶褐色土 褐色土R5	IV-2	ミニチュア土器	破片	(78.0)	(82.0)	35.9	条線が施される粗製深鉢土器のミニチュア
83	1-2	S48		A08	0008	3	混貝	III	ミニチュア土器	破片	—	52.0	19.2	浅鉢。堀之内式期?
	1-3	S48		D60 D71	0044 0008	6 3	純貝層	I-1 II	ミニチュア土器	破片	—	(32.3)	17.6	浅鉢。加曾利B式期?
	1-4	S48		A29	0002	2	混土貝	不明	ミニチュア土器	破片	—	(33.4)	10.4	台付鉢口縁部か。安行2式
	1-5	S48		C78	一括			不明	ミニチュア土器?	破片	—	(20.5)	21.4	台付鉢台部か。加曾利B式期?
	1-6	S48		D91	0001	3	混貝(褐色)	II	ミニチュア土器?	破片	—	(27.8)	7.7	深鉢か。縦位沈線 →口縁部横位沈線 →縦位弧線

表11 その他の土製品属性表

挿図 No.	遺物 No.	調査 回数	旧挿図 No.	遺構 グリッド	取上 No.	取上 層位	層備考	段階	器種	遺存	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
83	2-1	S48		SK015 (A24)	0047,0055	0047-10層		I-2	二次利用土器片	破片	12	42.6	14.7	94.1	割れ口のうち1辺が著しく研磨される。堀之内1式
83	2-2	S48		B36	0011	不明		不明	不明	完形	26.8	25.7	24.4	17.8	臼形を呈する土製品
	2-3	S48		E12	0012	4		I-2	二次利用土器片	破片	50.7	35.5	11.8	2.3	長方形を呈し、割れ口の両長辺が研磨される。堀之内1式
	2-4	S48		D93	0001	1		表土	不明	破片	49.4	41.2	10.2	24.2	隅丸形状を呈すると想定され、片面が湾曲する

いは一覧表を参照いただき、ここでは主要器種ごとに概要を記載する。なお、石器石材については、(有考古石材研究所柴田 徹氏により鑑定、分析していただいた結果を次項に掲載する。

(1) 石鏃・石鏃未成品 (第88図2～10)

基部形態をみると、有茎4点、平基1点、凹基25点、アメリカ式2点、不明2点である。遺存状況をみると、完形19点、欠損14点である。段階別にみると、I-2段階4点、Ⅲ段階1点、IV-1段階1点、IV-2段階1点、表土(耕作土)・不明27点である。

(2) 石錐 (第88図11～14)

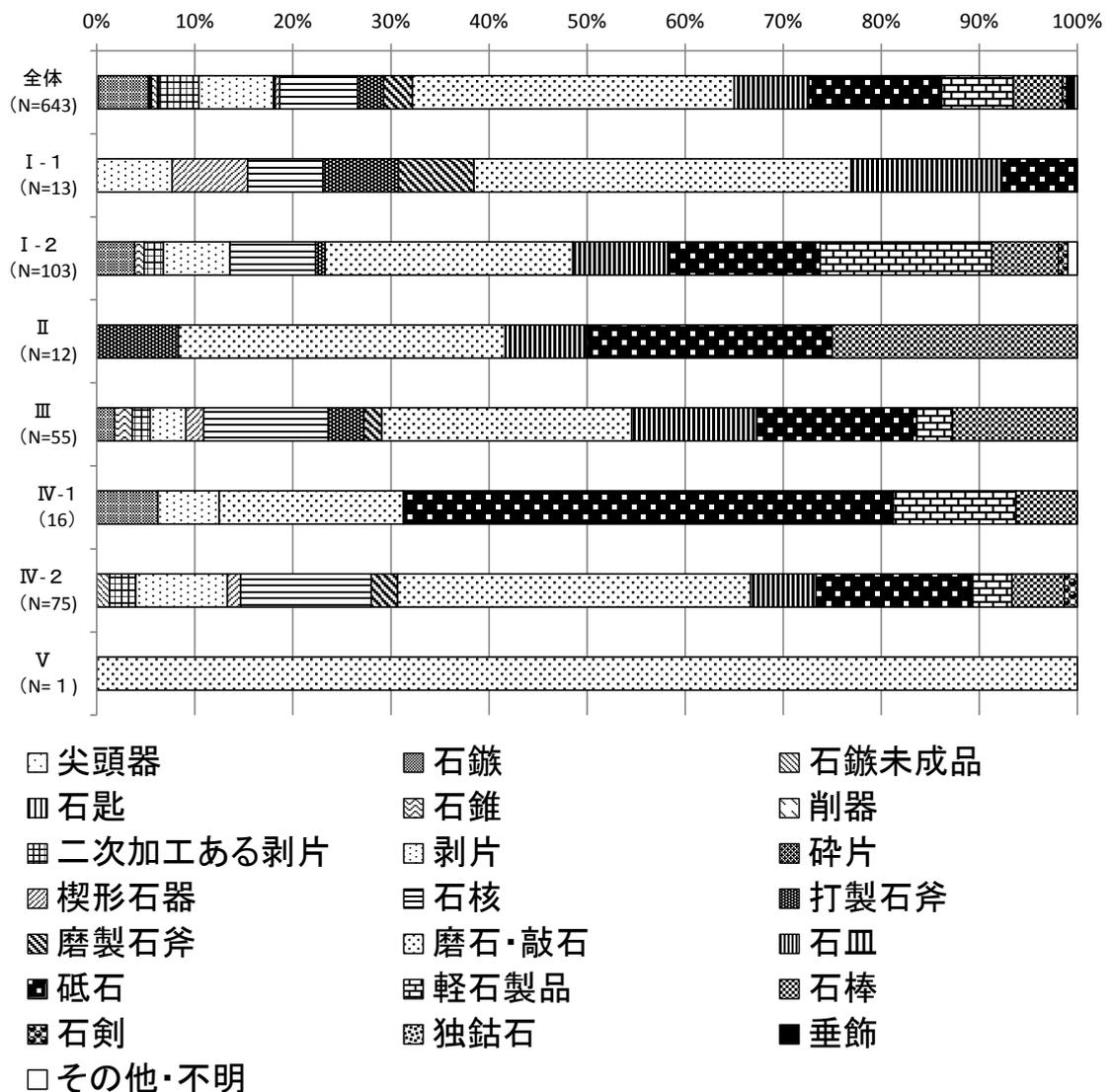
すべて完形で、段階別にみるとI-2段階1点、Ⅲ段階1点、表土(耕作土)・不明2点である。

(3) 二次加工のある剥片・剥片 (第88図15)

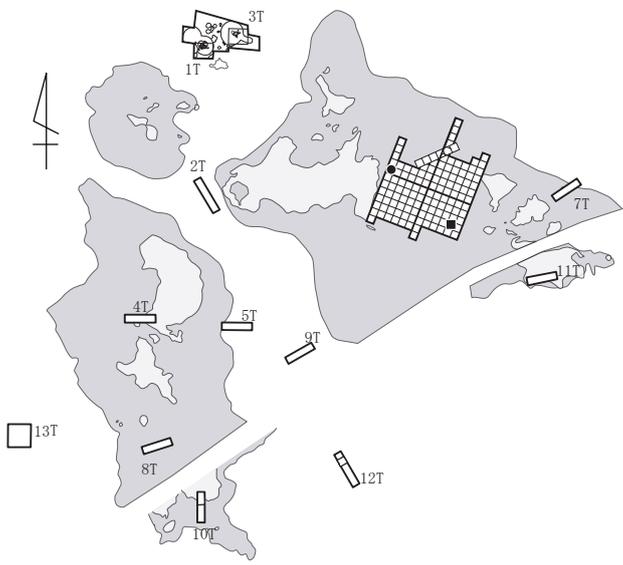
合わせて75点出土している。いずれかの面に礫面を残すものが多い傾向にある。段階別にみるとI-1段階1点、I-2段階9点、Ⅲ段階3点、IV-1段階1点、IV-2段階9点、表土(耕作土)・不明52点である。

(4) 石核 (第88図17、18)

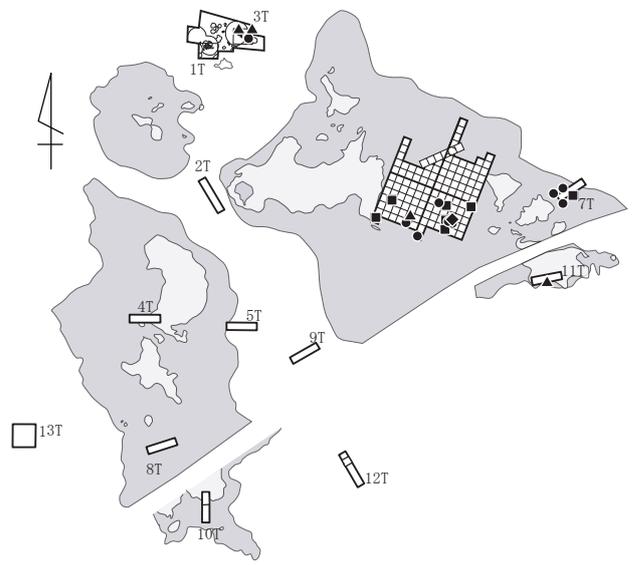
定形的に剥離されるものではなく、打面転移を繰り返し、一部に礫面を残すものが多い。剥離された剥片が小型になるものが多い傾向にある。段階別にみるとI-1段階1点、I-2段階9点、Ⅲ段階7点、IV-2段階10点、表土(耕作土)・不明24点である。前述の二次加工ある剥片・剥片を含めて、IV-2段階において第1次調査のC、Dグリッドに集中する傾向にある。



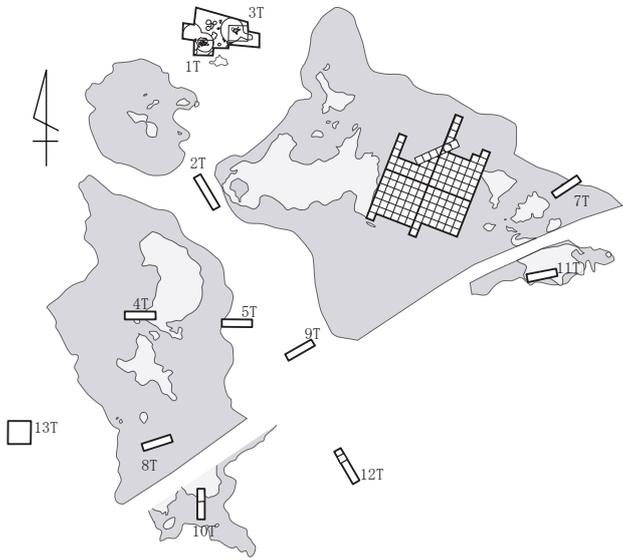
第84図 段階別石器出土点数比



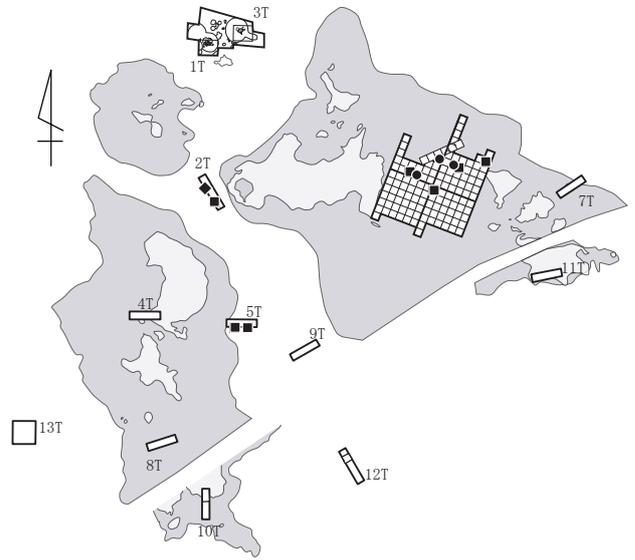
I-1 段階



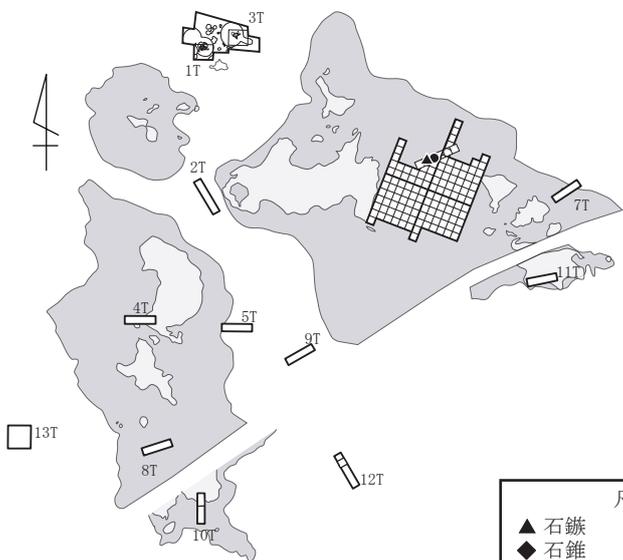
I-2 段階



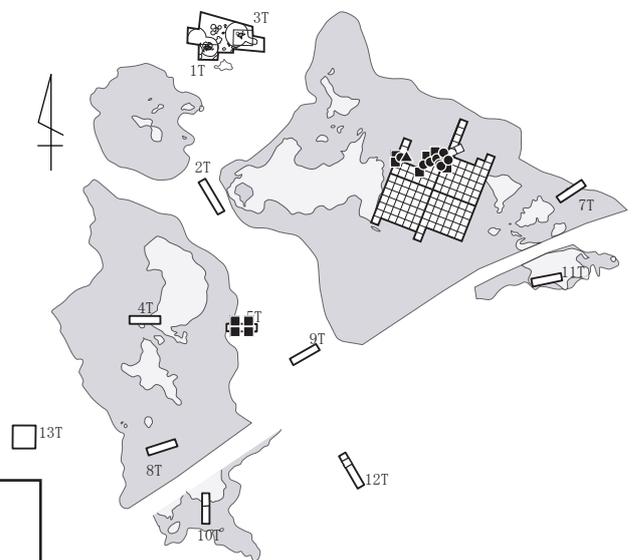
II 段階



III 段階



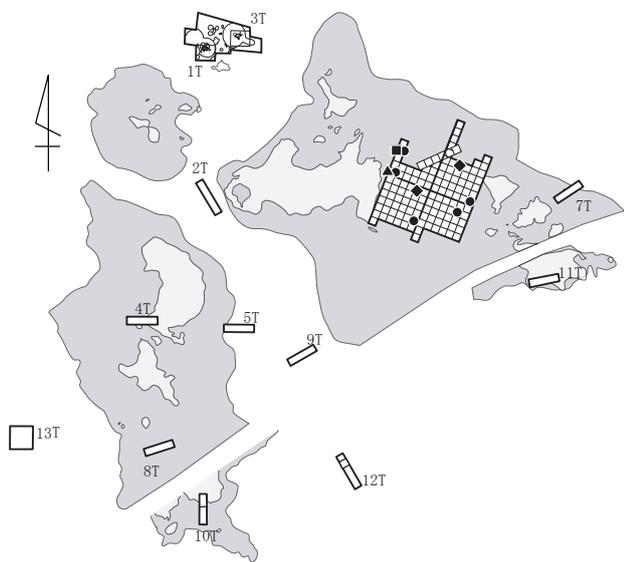
IV-1 段階



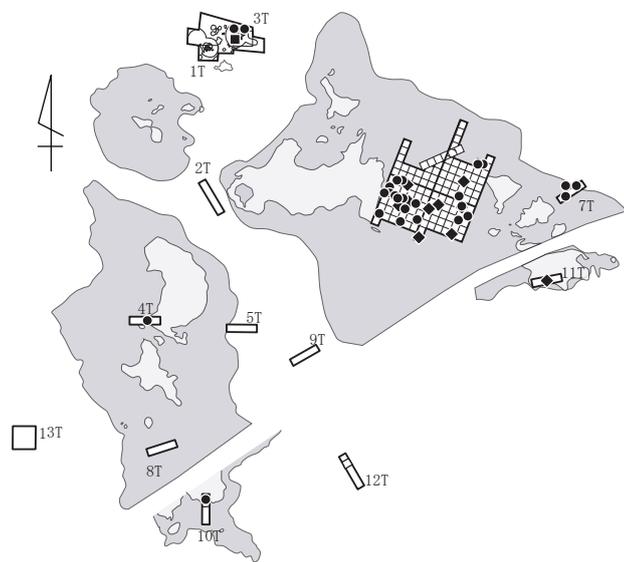
IV-2 段階

- 凡 例
- ▲ 石鏃
 - ◆ 石錐
 - 剥片・二次加工ある剥片
 - 石核

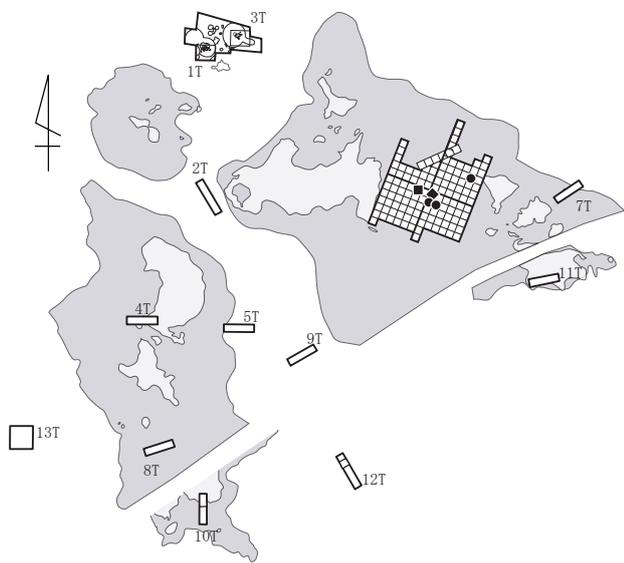
第85図 石鏃、石錐、剥片、石核分布図



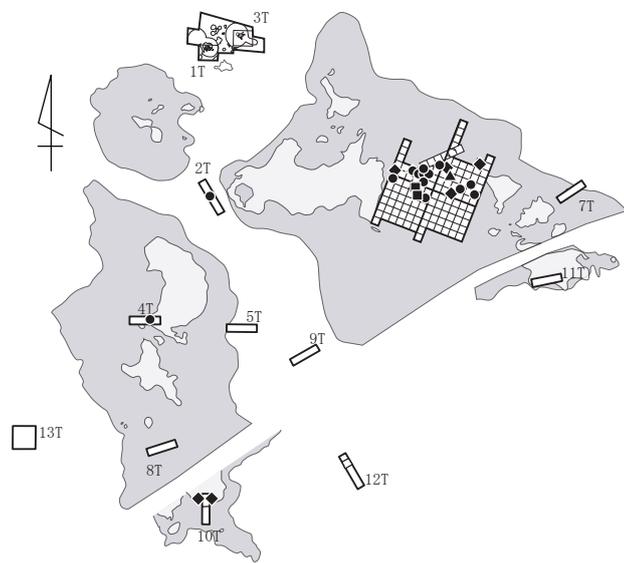
I-1 段階



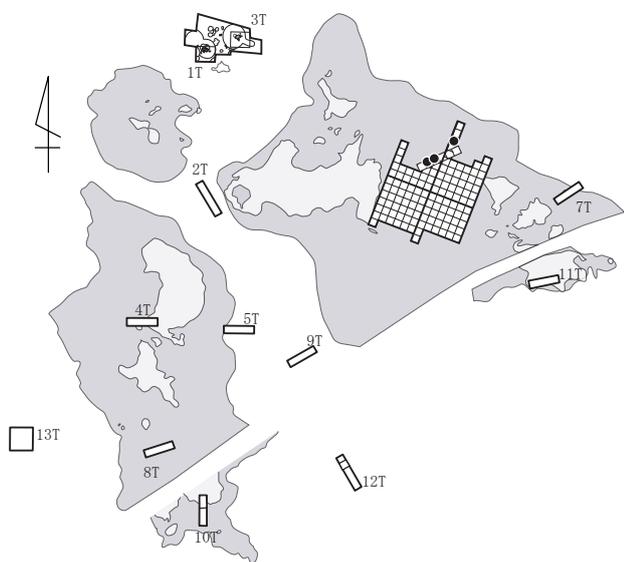
I-2 段階



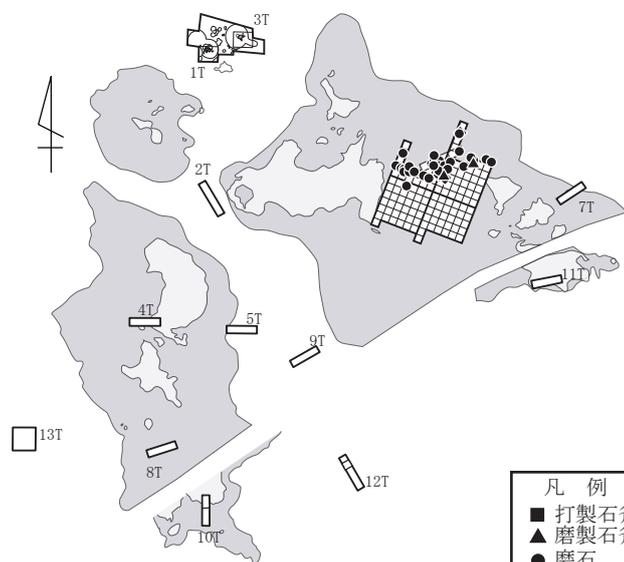
II 段階



III 段階



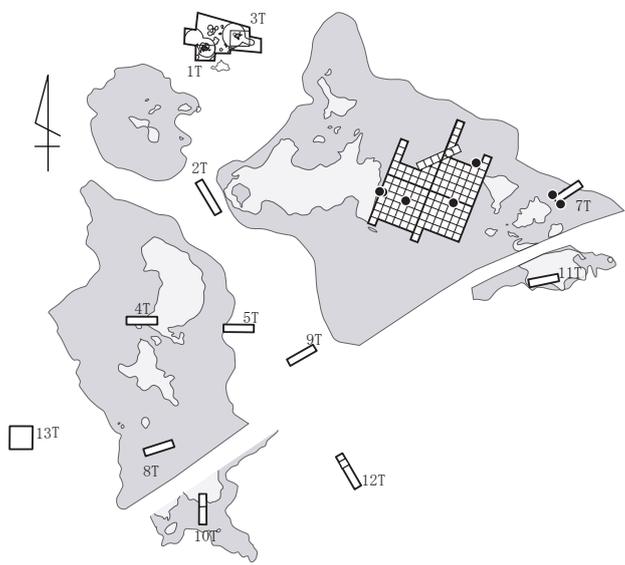
IV-1 段階



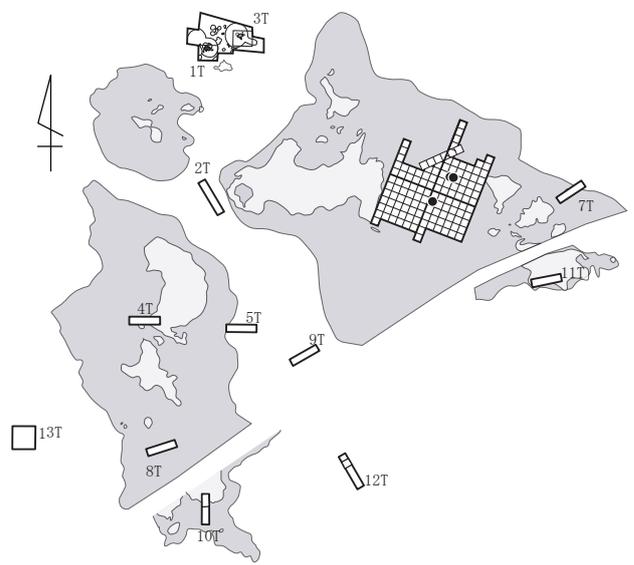
IV-2 段階

- | | |
|---|------|
| ■ | 打製石斧 |
| ▲ | 磨製石斧 |
| ● | 磨石 |
| ◆ | 石皿 |

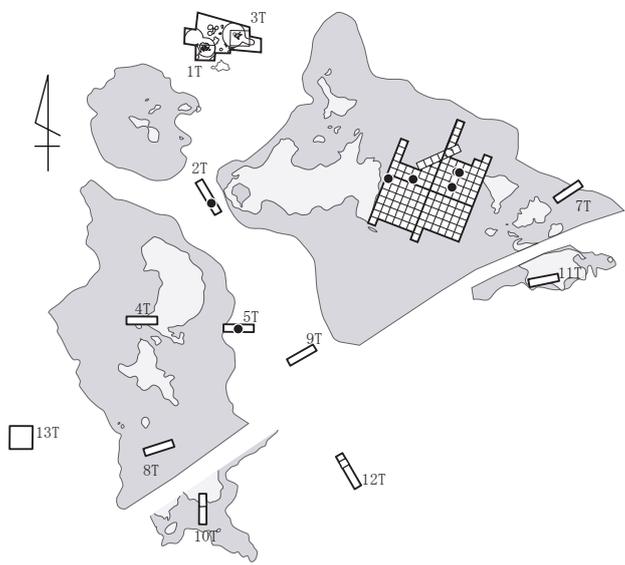
第86図 打製石斧、磨製石斧、磨石類、石皿分布図



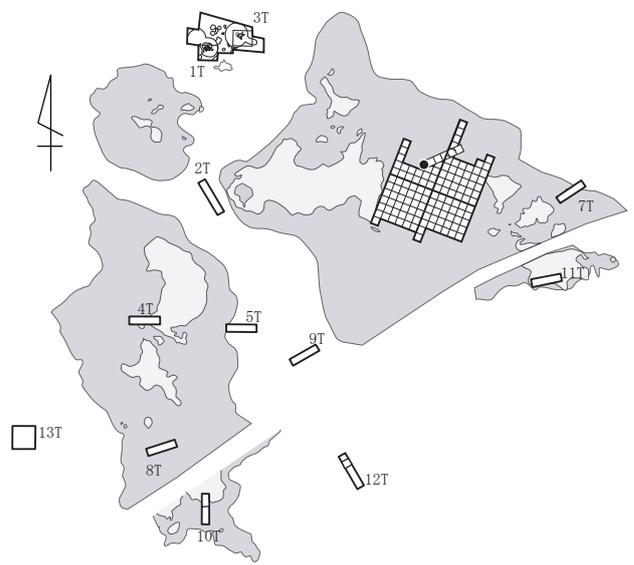
I-2 段階



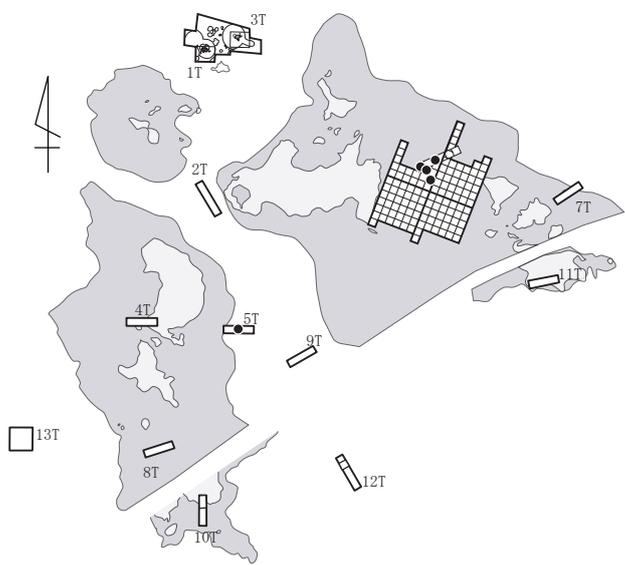
II 段階



III 段階



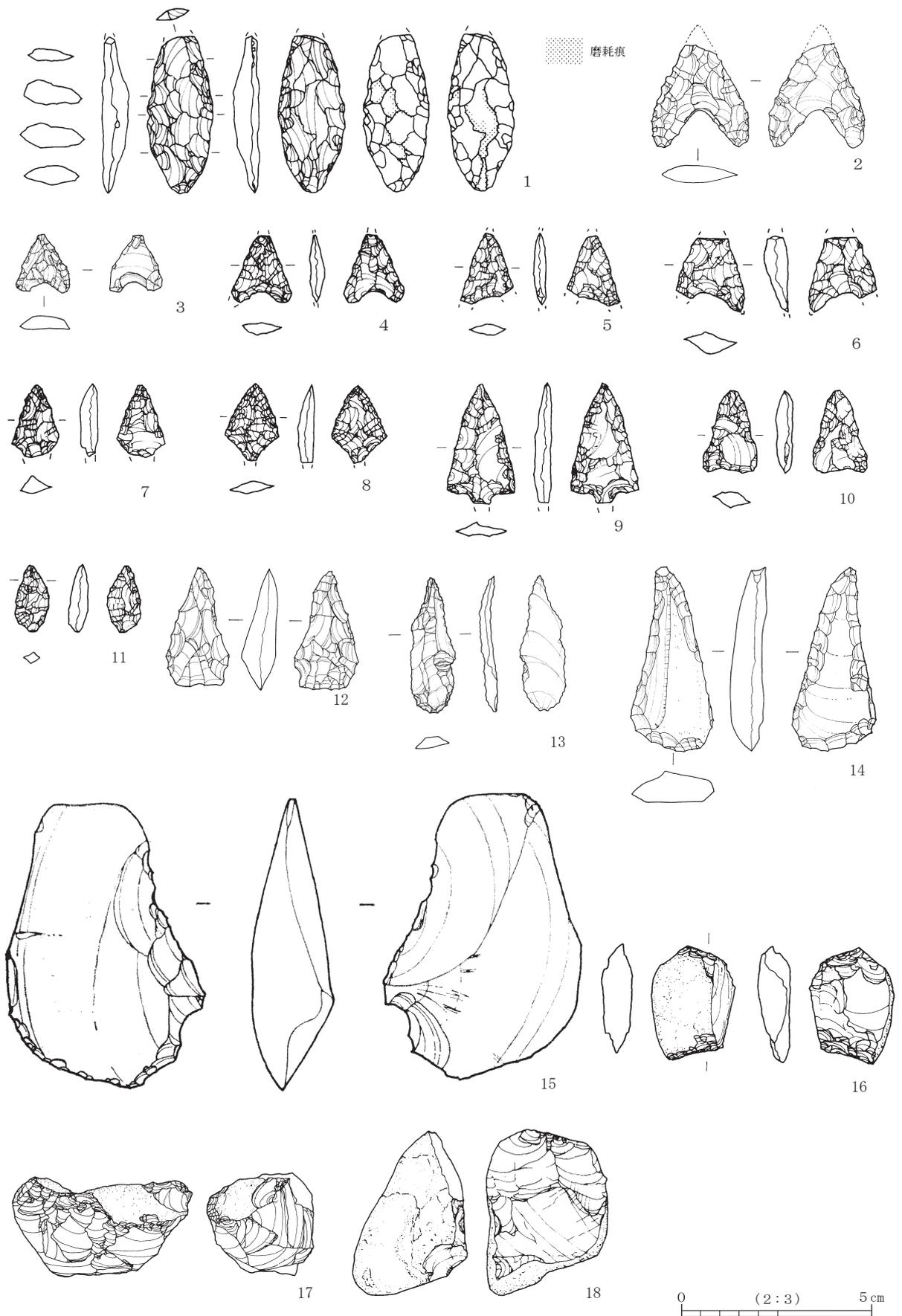
IV-1 段階



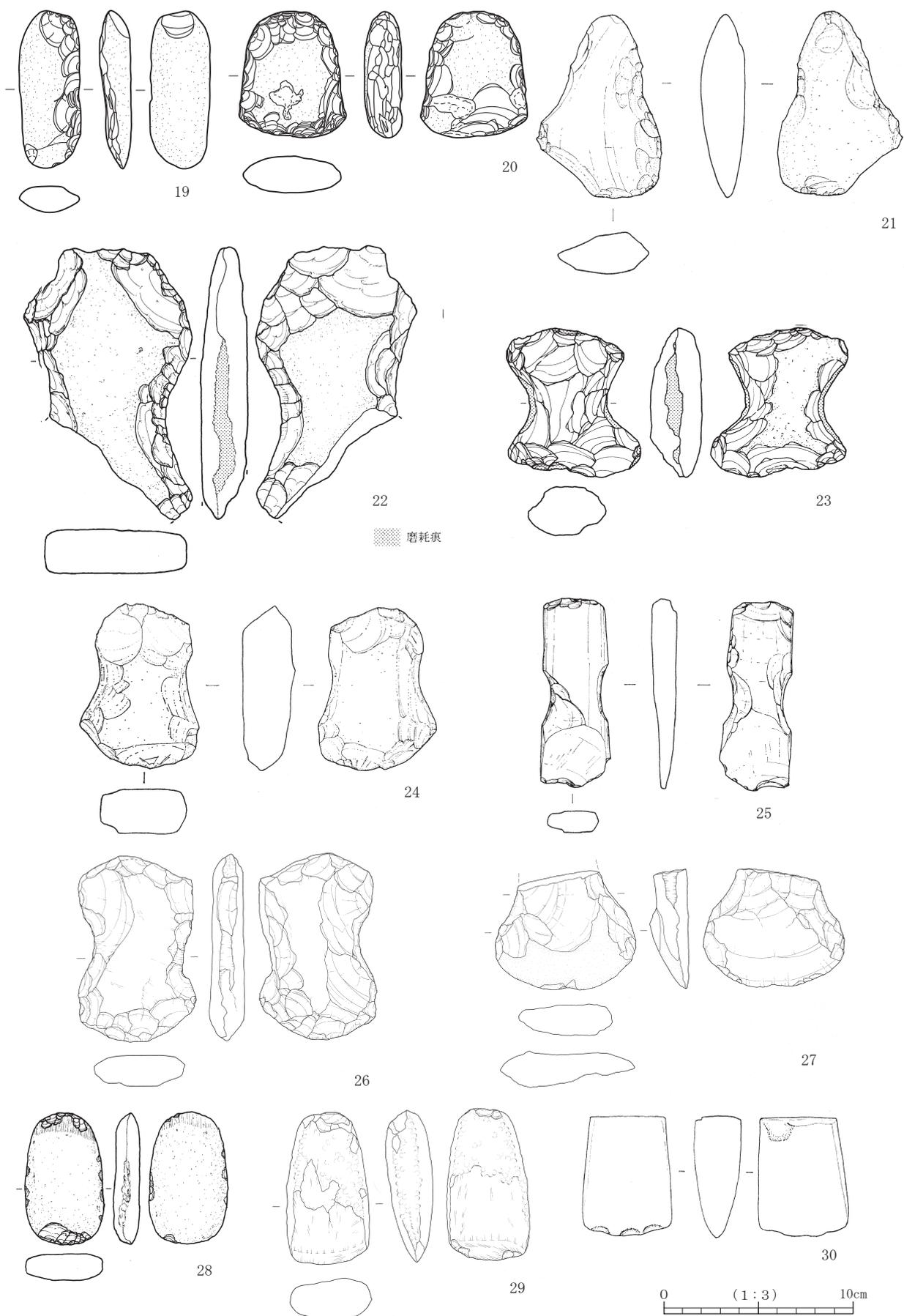
IV-2 段階

凡例
 ● 石棒・石剣
 ◆ 垂飾

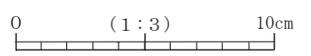
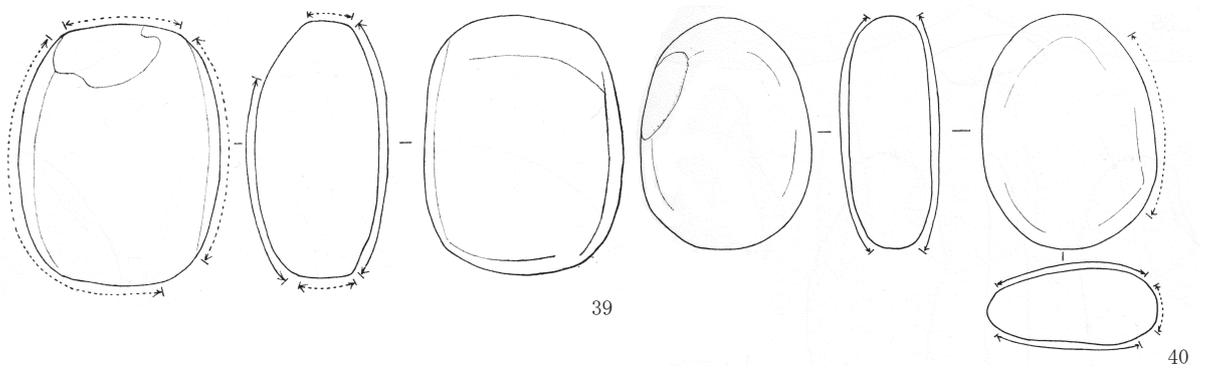
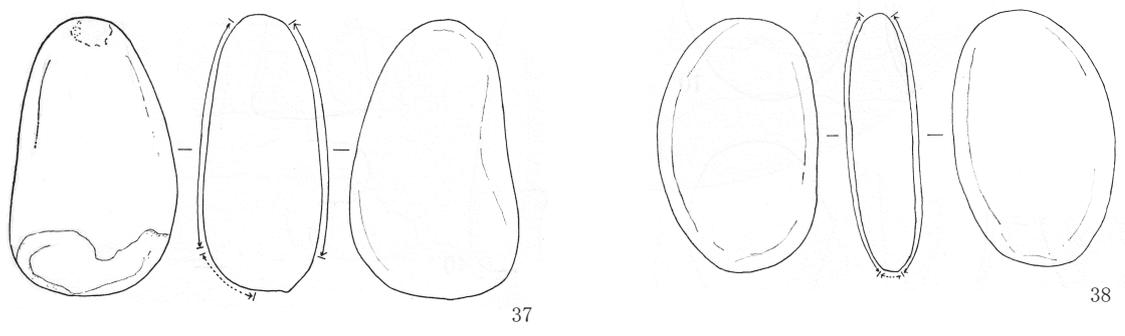
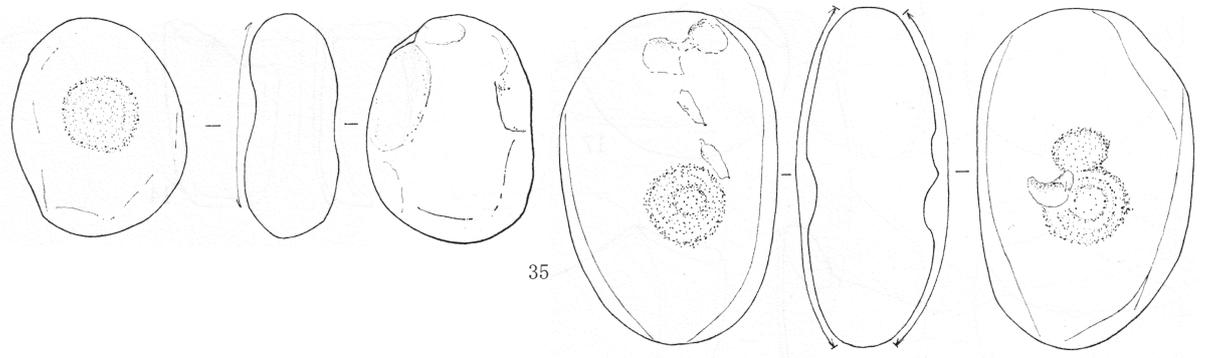
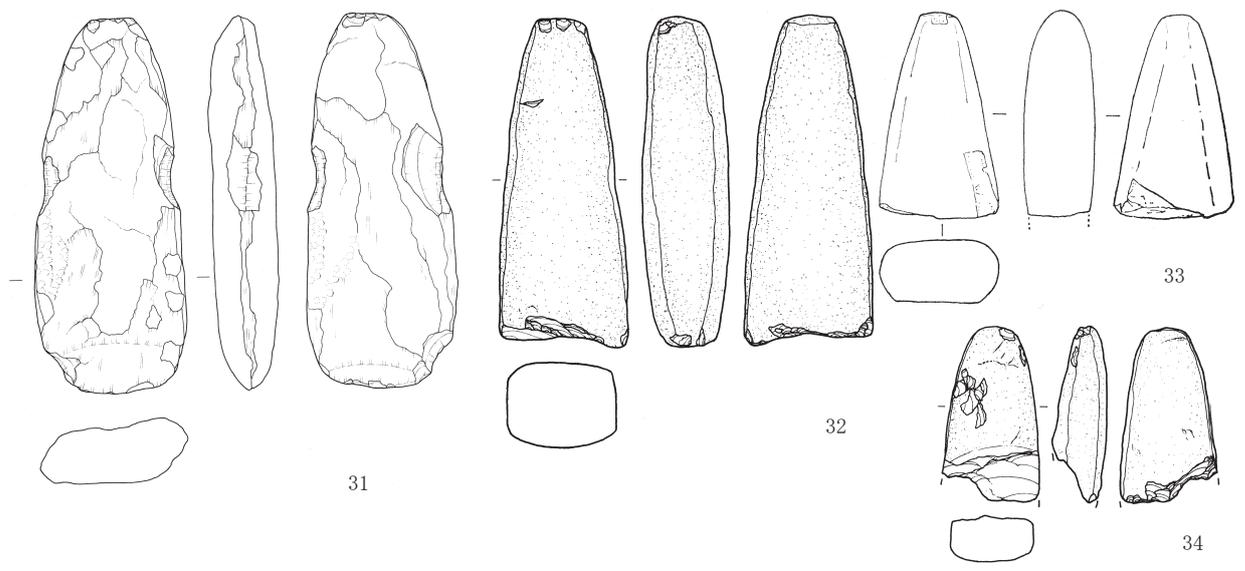
第87図 石棒・石剣、垂飾分布図



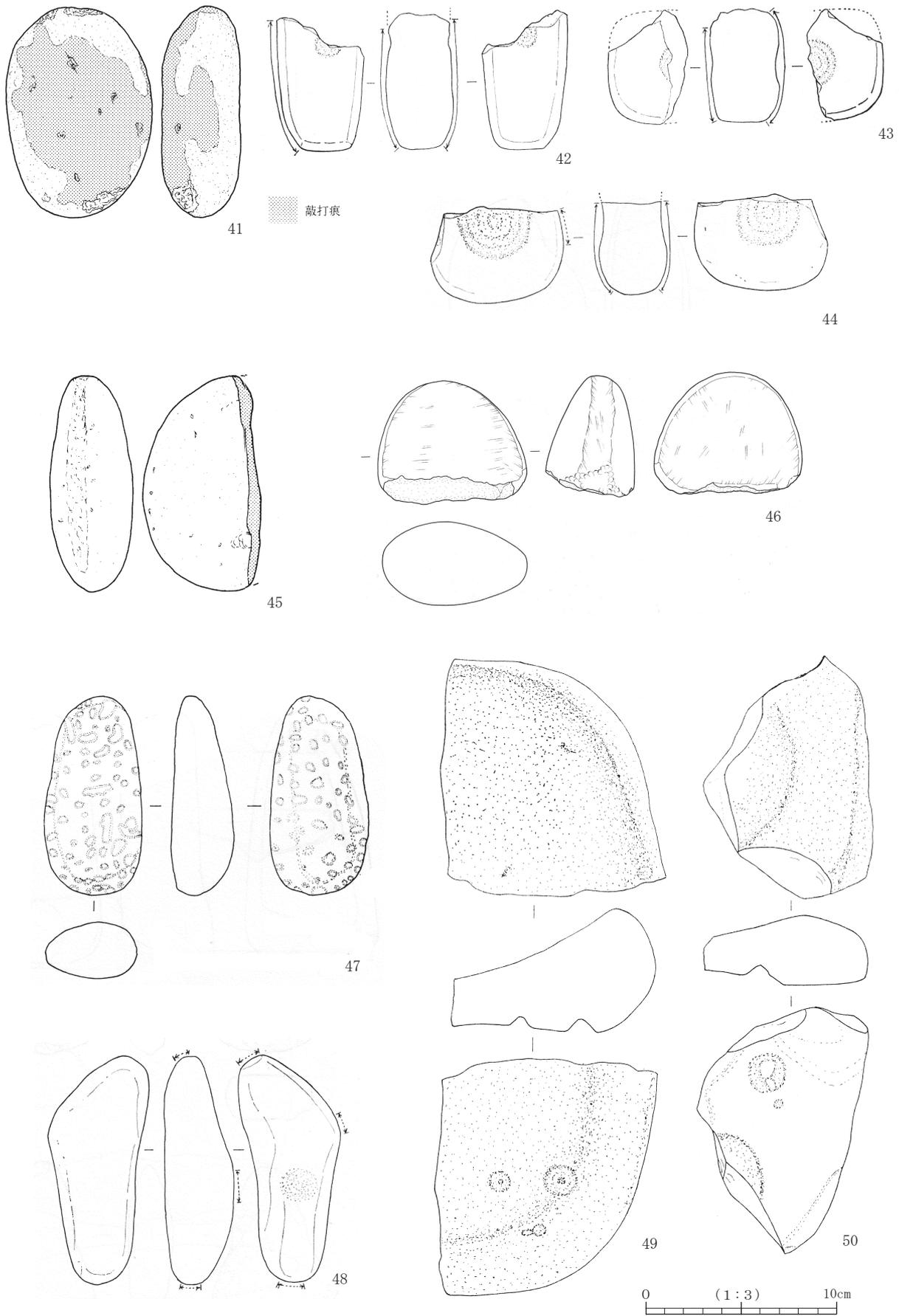
第88图 石器实测图(1)



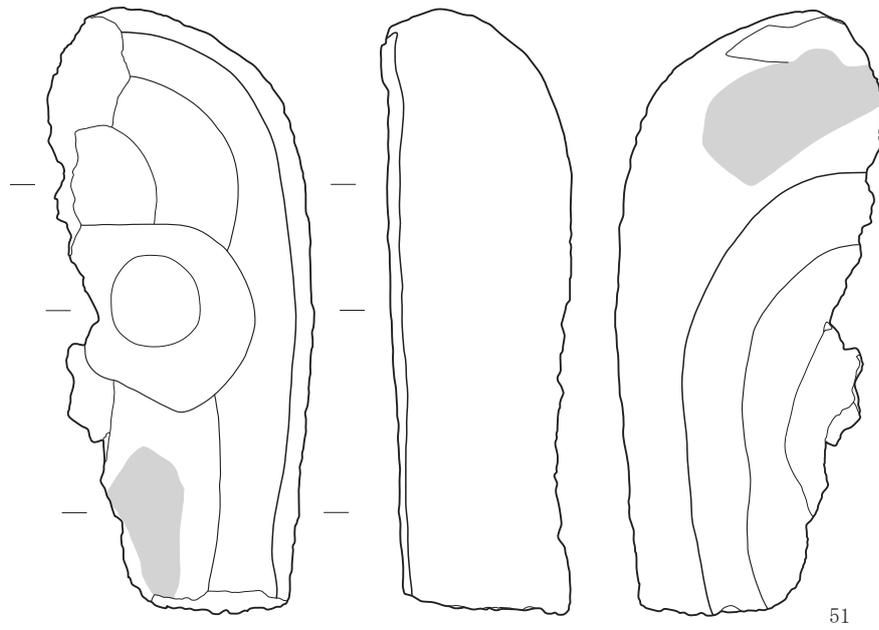
第89图 石器实测图(2)



第90图 石器实测图(3)

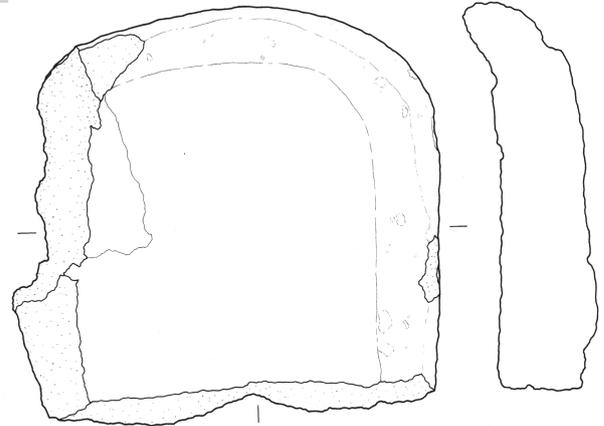
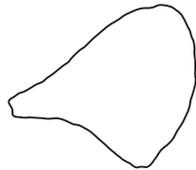
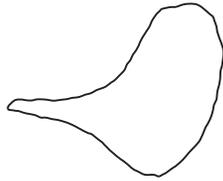
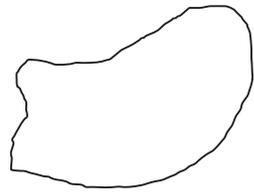


第91图 石器实测图(4)

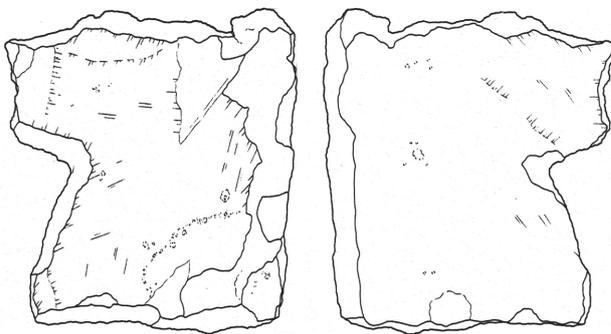
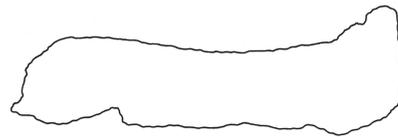


51

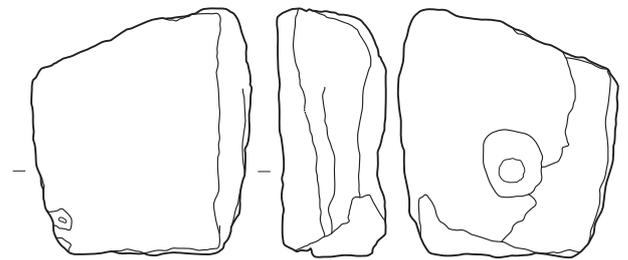
■ 著しく研磨された範囲 |



52



53

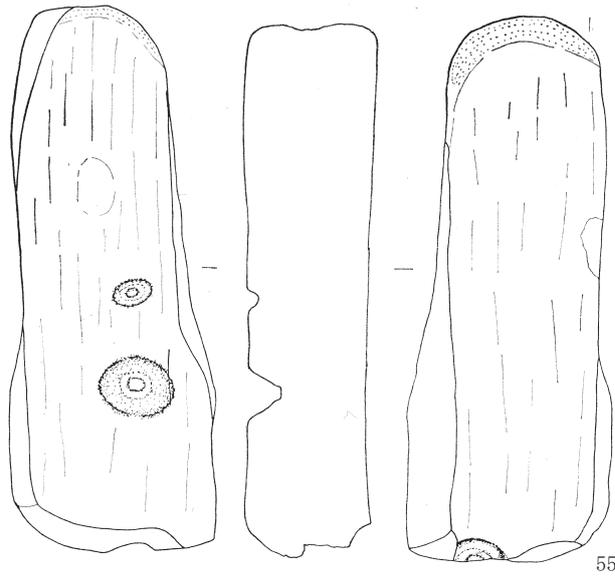


54

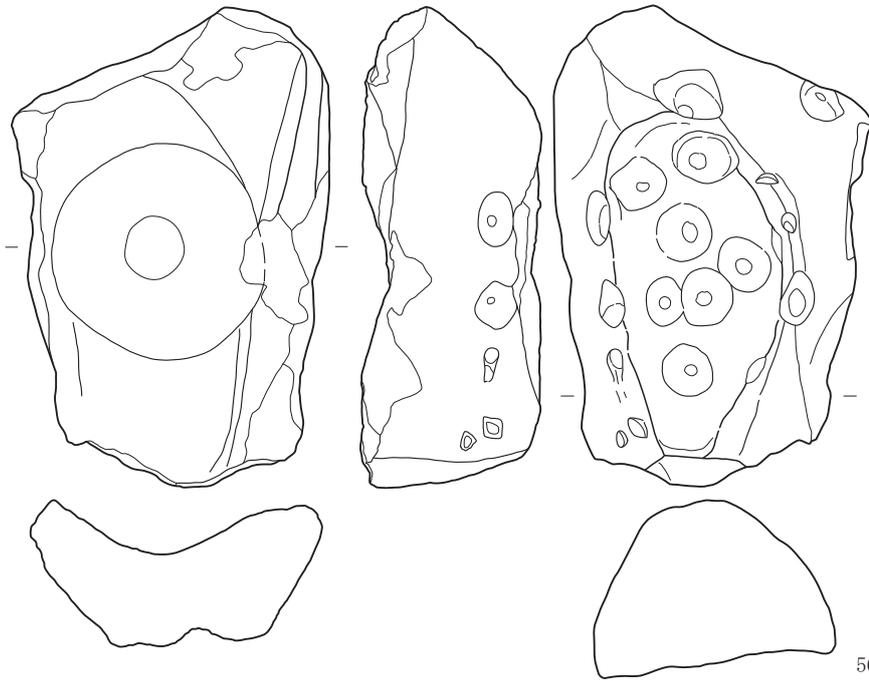


0 (1:3) 10cm

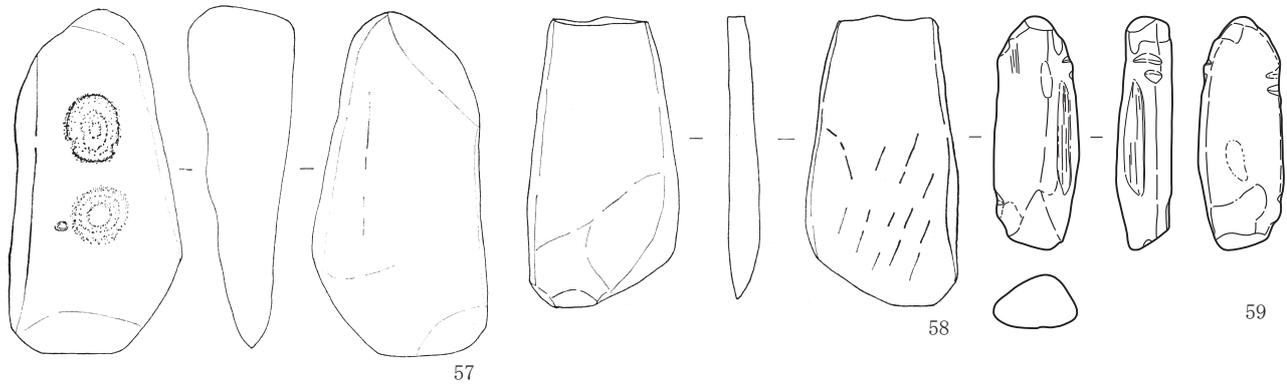
第92図 石器実測図 (5)



55



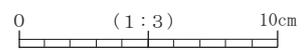
56



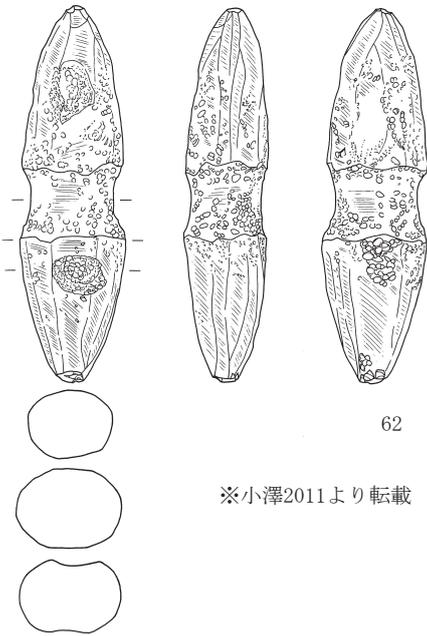
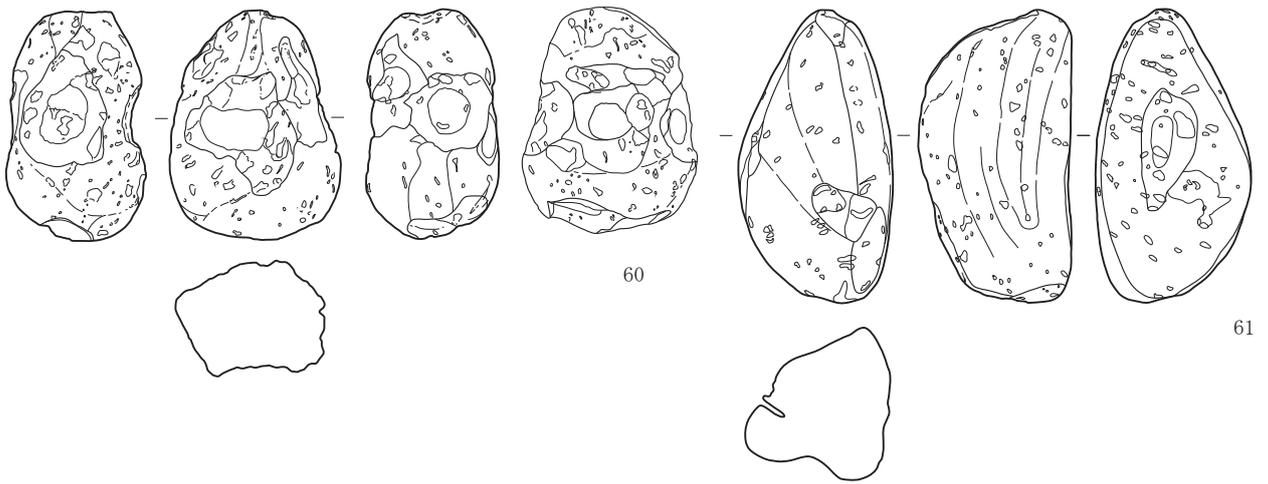
57

58

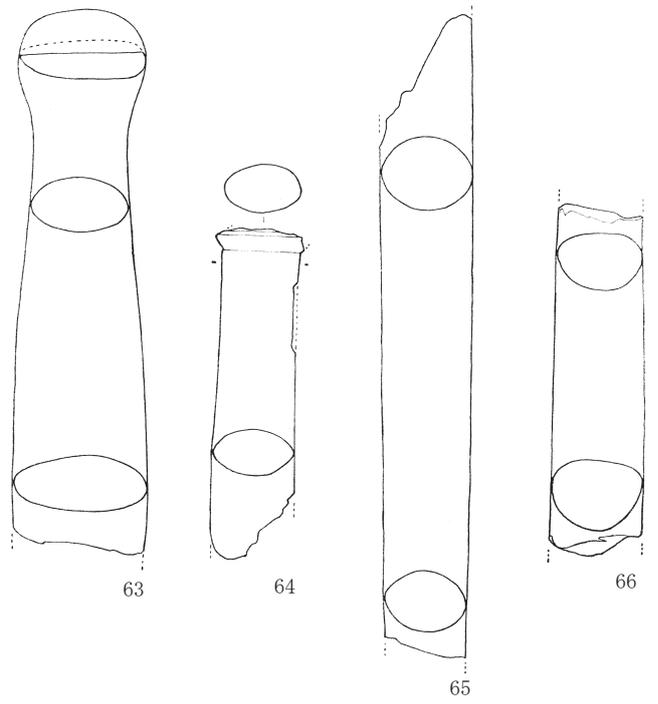
59



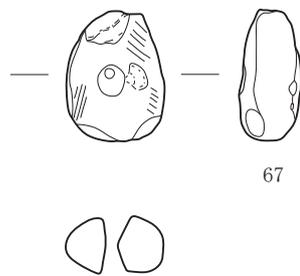
第93图 石器实测图(6)



※小澤2011より転載



0 (1:3) 10cm



0 (1:1) 2cm

第94図 石器実測図 (7)

(5) 打製石斧 (第89図19～27)

形態別にみると撥形3点、短冊形5点、分銅形8点、不明1点となる。段階別にみるとⅠ－1段階1点、Ⅰ－2段階1点、Ⅱ段階1点、Ⅲ段階2点、表土(耕作土)・不明12点となる。

(6) 磨製石斧 (第89図28～第90図34)

形態別にみると、短冊形1点、乳棒形2点、定角式16点となる。段階別にみるとⅠ－1段階1点、Ⅲ段階1点、Ⅳ－2段階2点、表土(耕作土)・不明15点となる。28、31、32、34の側面には研磨後の敲打痕が認められ、装着に関わる痕跡の可能性はある。

(7) 磨石・敲石 (第90図35～第91図48)

1点を除いて礫を素材とする。形態的にみると、素材礫の形状をそのまま生かすもの(A類)183点、加工を施して石巖形を呈するもの(B類)18点、石冠状を呈するもの(C類)4点、不明5点となる。形態と石材の関係をみると、A類は、砂岩が約40%、石英斑岩が約30%と両石材が主体となるのに対し、B類では安山岩を使用する割合が67%であり、形態と石材が密接に関係している。遺存状況を見ると、A類は完形83点、欠損100点、B類は完形5点、欠損11点、C類はすべて完形となる。B類は表面に大きな敲打痕を有するものが多く、それに伴い欠損しているものが多い可能性も考えられる。C類は欠損面を利用して結果的に石冠状を呈していることから、すべて完形となっている。段階別にみるとⅠ－1段階5点、Ⅰ－2段階26点、Ⅱ段階4点、Ⅲ段階14点、Ⅳ－1段階3点、Ⅳ－2段階27点、Ⅴ段階1点となる。すべての段階にA類が含まれ、Ⅳ－1、Ⅴ段階以外にB類が含まれていることから、これらの形態差は時期差を示していないと考えられる。

(8) 石皿 (第91図49～第93図56)

ほとんど破片資料であり全体形状を把握できるものは少ない。段階別にみるとⅠ－1段階2点、Ⅰ－2段階10点、Ⅱ段階1点、Ⅲ段階7点、Ⅳ－2段階5点、表土(耕作土)・不明24点となる。

(9) 砥石 (第93図57～59)

形態的にみると、立方体形10点、偏平板状39点、石包丁形10点、不整形22点、その他3点、不明3点となる。段階別にみるとⅠ－1段階1点、Ⅰ－2段階16点、Ⅱ段階3点、Ⅲ段階9点、Ⅳ－1段階8点、Ⅳ－2段階12点、表土(耕作土)・不明38点となる。偏平板状はⅠ－1段階以外、石包丁形はⅡ、Ⅳ－1段階以外、立方体形はⅠ－1、Ⅱ、Ⅳ－2段階以外でみられ、全時期を通して偏平板状を主要な形態として、その他の形態も含まれる。

(10) 軽石製品 (第94図60、61)

細かく分割していたり不整形なものが多いが、石冠状を呈するものが特徴的に認められる。段階別にみるとⅠ－2段階18点、Ⅲ段階2点、Ⅳ－1段階2点、Ⅳ－2段階3点、表土(耕作土)・不明22点となる。表土(耕作土)・不明を除くと、Ⅰ－2段階が圧倒的に多くなる。軽石製品は漁撈具の浮子として使用されたものもあると考えられ、土器片錘と同様に後期前葉に多く出土する傾向を示す。

(11) 石棒・石剣 (第94図63～66)

合わせて35点出土している。概ね、横断面が円形のものを石棒、楕円形あるいは凸レンズ状を呈するものを石剣としている。完形品は皆無である。段階別にみるとⅠ－2段階8点、Ⅱ段階3点、Ⅲ段階8点、Ⅳ－1段階1点、Ⅳ－2段階5点、表土(耕作土)・不明10点となる。

表12 石器属性表 ※「石材備考」の数値は比重を示す

採回 No.	遺物 No.	調査 次数	旧採回 No.	グランド 遺構	取上 No.	取上 層位	層備考	段階	種別	石材	石材備考	被熱	遺存	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	
88	1	2	34-1	西貝外	不明	不明			尖頭器	ガラス質黒色安山岩	大洗 2.67		基部一部欠損	41.7	16.7	6.9	5.0	
88	2	1	98-57	B34	0027	4			IV-1 石鏢	チャート			先端部欠損	92.0	24.8	4.5	2.6	
88	3	1	98-59	A48	0030	4	混貝、西壁		1-2 石鏢	黒曜石			完形	14.0	13.3	2.6	0.6	
88	4	2	34-2	SI-2	0003				1-2 石鏢	黒曜石			先端部一部欠損	(18.1)	15.8	4.3	0.7	
88	5	2	34-5	SI-2	0298				1-2 石鏢	チャート		○	両端部欠損	(18.9)	(12.1)	3.7	0.8	
88	6	2	34-4	11T	0004	2層貝層内			1-2 石鏢	チャート			先端部欠損、一端の逆刺の先端部欠損	(19.9)	(17.9)	6.6	1.7	
88	7	2	34-8	2T	0011	2			III 石鏢	黒曜石			基部欠損	(19.5)	12.5	5.0	0.9	
88	8	2	34-7	東貝外		不明			石鏢	チャート			基部一部欠損	(20.6)	14.4	4.1	1.0	
88	9	2	34-6	2T	0064	層土中			不明	石鏢	チャート			基部欠損	(32.0)	(17.9)	9.9	(2.0)
88	10	2	34-2	西貝外		不明			石鏢	黒曜石			露ヶ峰	21.6	(10.1)	4.4	1.1	
88	11	2	34-9	2T	0068	貝層中			III 石鏢	硬質頁岩			完形	18.0	9.1	5.2	0.8	
88	12	1	98-60	D35	0003	1			表土 石鏢	硬質細粒凝灰岩			相模川	30.7	16.6	9.8	3.9	
88	13	3	9-1	表探		表土			石鏢	メノウ			完形	36.0	12.2	4.1	1.5	
88	14	1	98-61	E33	0006	3	混貝		1-2 石鏢	硬質頁岩			完形	47.8	21.8	8.9	9.0	
88	15	1	97-46	D61	0023	3	混土貝		II 二次加工ある剥片	頁岩			完形	75.4	51.9	19.4	67.6	
88	16	2	34-11	5T	0003	2c			IV-2 楔形石器	チャート			完形	30.8	22.5	9.0	7.3	
88	17	2	35-18	4T	0003	1			表土 石鏢	硬質頁岩			完形	36.0	63.4	37.5	76.6	
88	18	2	35-19	5T	0002	2			III 石鏢	チャート	2.65	○	完形	57.7	42.2	40.6	106.3	
89	19	1		A08	0018	4	混貝		II 打製石斧	ホルンフェルス			完形	84.0	33.2	15.4	55.3	
89	20	1		A16	0021	不明			不明	打製石斧	ホルンフェルス			完形	66.2	56.7	20.0	108.4
89	21	1	96-35	A07	0002	2	混貝		III 打製石斧	砂岩			完形	100.1	67.1	23.2	144.6	
89	22	2	35-20	SI-2	0168				1-2 打製石斧	砂岩			一端欠損	(58.1)	(92.7)	25.1	354.8	
89	23	2	35-21	東貝外	0002	不明			不明	打製石斧	砂岩			完形	79.7	72.4	31.6	161.9
89	24	1	96-34	A35	0005	2、下部			不明	打製石斧	安山岩	○		完形	89.2	63.6	29.7	220.0
89	25	1	96-28	C64	0007	5	黒色		I-1 打製石斧	粘板岩			完形	100.6	37.1	13.4	79.5	
89	26	3	11-1	表探		表土			表土 打製石斧	砂岩		○	完形	100.7	62.9	19.4	175.2	
89	27	3	11-2	表探		表土			表土 打製石斧	砂岩			基部以上の一端が欠損	84.1	75.6	20.6	114.6	
89	28	2	35-22	1T	0002	表土			表土 磨製石斧	砂岩			完形	70.1	41.7	13.9	64.1	
89	29	3	10-3	表探		表土			表土 磨製石斧	緑色岩	3.0(鉄父ではない)		完形	81.8	44.2	24.8	146.3	
89	30	1	97-45	D71	0003	2	混貝		III 磨製石斧	変質閃緑斑岩		○	基部側欠損	(64.7)	49.0	28.2	150.0	
90	31	3	10-4	表探		表土			表土 磨製石斧	緑色岩			完形	149.0	59.7	26.5	344.3	
90	32	2	35-23	表探		表土			表土 磨製石斧	変質ドレライト			完形	130.5	50.3	34.0	371.9	
90	33	1	96-42	D75	0005	1			表土 磨製石斧	緑色岩			完形	(80.4)	46.6	24.9	150.0	
90	34	2	35-24	5T	0001	表土			表土 磨製石斧	蛇紋岩	2.83	○	刃部側欠損	(69.6)	(37.9)	(20.8)	72.3	
90	35	1	93-9	A06	0005	2	混貝		IV-2 磨石	砂岩			一部欠損	87.6	68.6	38.7	330.0	
90	36	1	93-12	C64	0011	5	黒色		I-1 磨石	多孔質安山岩			完形	130.4	85.5	51.3	530.0	
90	37	1	95-28	C69	0008	2	茶褐色		IV-2 磨石	砂岩		○	完形	108.9	65.4	47.8	470.0	
90	38	1	94-16	C98	0018	4			III 磨石	砂岩			完形	102.1	64.0	26.9	320.0	
90	39	1	93-13	C88	0005	3			III 磨石・砥石	安山岩			完形	104.1	80.2	45.7	400.0	
90	40	1	95-26	D74	0005	2	混貝		III 磨石	石英斑岩			完形	90.9	66.3	31.5	300.0	
91	41	2	35-25	SI-6	0017	層土内			1-2 磨石	石英斑岩			完形	111.2	77.8	41.2	548.4	
91	42	1	94-14	B38	0006	3			IV-2 磨石	多孔質安山岩		○	1/2	(71.9)	48.0	37.1	180.0	
91	43	1	94-20	C84	0023	2、最下部			IV-2 磨石	安山岩			1/2	60.7	(41.1)	37.9	140.0	
91	44	1	94-15	D64	0008	3	混土貝		II 磨石	花崗岩		○	1/2	(73.6)	(53.0)	35.9	230.0	
91	45	2	35-26	5T	0003	表土			表土 磨石	変質ドレライト			完形	(113.3)	62.3	(43.7)	437.4	
91	46	3	19-2	15T		表土			磨石	変質安山岩			完形	(61.9)	79.3	47.0	342.2	
91	47	1	95-33	C94	0021	4			I-1 砥石	ホルンフェルス			完形	107.2	52.7	31.7	270.0	
91	48	1	95-20	E04	0004	2	黒色混貝		1-2 砥石	流紋岩		○	完形	122.5	48.1	37.6	300.0	
91	49	1	92-1	A08	0023	6	黒色土		I-1 石皿	多孔質安山岩			完形	(128.9)	(91.3)	67.1	1130.0	
91	50	1	92-2	E06	0010	3	混貝		II 石皿	軟質凝灰質砂岩			破片	(127.6)	(86.9)	46.6	528.0	
92	51	7	12-41	10T	0029	12層			III 石皿	多孔質安山岩			破片	(240.5)	(100.8)	79.5	1834.2	
92	52	3	10-2	表探		表土			表土 石皿	富士玄武岩			掻き出し部側欠損	164.8	168.0	50.3	1293.3	
92	53	3	19-1	16T		不明			不明	石皿	多孔質安山岩			破片	(127.9)	(113.9)	51.6	559.4
92	54	7	12-43	10T	0021	12層			III 石皿	軟質凝灰質砂岩			破片	(95.0)	(82.5)	40.2	280.5	
92	55	1	92-6	D43	0008	2	茶褐色		IV-2 石皿	白雲母石英片岩			完形?	214.5	77.8	52.0	1400.0	
92	56	7	12-42	表探	0028	表土			表土 石皿	多孔質安山岩			完形	192.0	125.9	69.0	1514.1	
92	57	1	97-43	E11	0011	4			1-2 砥石	軟質凝灰質砂岩			完形	137.0	69.9	42.5	460.0	
92	58	1	96-36	A39	0009	6			I-1 砥石	軟質凝灰質砂岩			一部欠損	(117.3)	59.2	12.7	100.0	
92	59	7	12-40	10T	0006	表土			表土 砥石	軟質凝灰質砂岩			完形	92.2	32.8	21.6	63.6	
94	60	1		A58	0008	3			1-2 軽石製品	軽石			完形	89.6	67.9	51.9	88.2	
94	61	1		B34	0030	4			IV-1 軽石製品	軽石			完形	110.7	61.3	54.2	48.4	
94	62	1	97-47	D75	0005	1			表土 砥石	緑色岩			完形	147.5	41.2	31.9	293.6	
94	63	1	97-49	E03-13-ベルト	0008	2	混貝(?)		1-2 石剣	緑泥片岩		○	一端欠損	218.5	53.0	23.0	421.3	
94	64	1	97-52	B33	0004	2	黄褐色		IV-2 石剣	緑色岩			両端部欠損	132.5	36.5	20.0	144.3	
94	65	1	97-50	D44	0009	5、上			1-2 石棒	緑色片岩		○	両端部欠損	(254.5)	35.9	30.3	450.0	
94	66	1	97-51	C89	0008	2	黒褐色		IV-2 石棒	点紋緑泥片岩			両端部欠損	(140.0)	36.7	28.4	290.0	
94	67	7		表探		表土			垂飾	ヒスイ			完形	13.9	10.0	6.0	1.6	
94	68	7		表探		表土			垂飾	メノウ			破片	(10.0)	(8.4)	(7.3)	0.5	
69	2	34-10	13T	0001	表土				表土 石鏢	チャート			完形	38.9	25.2	10.5	9.6	
70	2	西貝外		不明		不明			石鏢	黒曜石			完形	21.8	18.3	4.0	1.0	
71	1	98-58	表探		表土	石鏢			石鏢	黒曜石			先端部と逆刺一端欠損	(30.1)	(16.9)	4.3	2.4	
72	3	19-5	表探		表土	石鏢			石鏢	チャート			完形	21.2	17.3	5.0	1.5	
73	3	9-10	表探		表土	石鏢			石鏢	ガラス質黒色安山岩	大洗		完形	17.9	14.2	3.5	0.8	
74	3	9-11	表探		表土	石鏢			石鏢	水晶	2.6		完形	24.3	16.2	3.4	1.4	
75	3	9-12	表探		表土	石鏢			石鏢	黒曜石			逆刺の一端が欠損	19.1	16.0	2.5	0.6	
76	3	9-13	表探		表土	石鏢			石鏢	黒曜石			露ヶ峰	24.2	18.3	4.3	1.4	
77	3	9-14	表探		表土	石鏢			石鏢	黒曜石			露ヶ峰赤交じり	22.6	11.1	4.1	0.8	
78	3	9-15	表探		表土	石鏢												

表12 (つづき)

採掘 No.	遺物 No.	調査 次数	旧採掘 No.	グリッド 遺構	取上 No.	取上 層位	層備考	段階	種別	石材	石材備考	被熱	遺存	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	
101		2		IT.37E	0001	表土		表土	二次加工ある剥片	チャート			完形	32.4	39.5	15.1	35.3	
102		2			0064	表土		表土	二次加工ある剥片	黒曜石			完形	11.8	17.6	4.0	0.7	
103		2	34-13		2T	0065	表土	表土	二次加工ある剥片	チャート			完形	24.6	(25.0)	8.9	(4.1)	
104		2	34-12		2T	0066	表土	表土	二次加工ある剥片	チャート			東端部欠損	(10.1)	(21.6)	6.1	2.3	
105		2			7T	0002	一括	不明	二次加工ある剥片	チャート			一端欠損か	28.2	18.8	5.8	3.8	
106		2			7T	0003	一括	不明	二次加工ある剥片	チャート			完形	25.1	23.8	8.8	4.3	
107		2			9T	0001	表土	表土	二次加工ある剥片	チャート			打面側欠損小	19.4	14.1	7.1	1.8	
108		2			9T	0001	表土	表土	二次加工ある剥片	チャート	赤色		完形	27.3	14.5	6.0	1.9	
109		2			11T	0001	表土	表土	二次加工ある剥片	黒曜石			打面側欠損	19.5	8.6	5.3	0.7	
110		2	34-14		13T	0001-0003	表土	表土	二次加工ある剥片	玉髄岩			完形	11.1	17.8	4.0	0.7	
111		2	34-16		13T	0001	表土	表土	二次加工ある剥片	チャート			完形	31.1	37.6	14.0	13.6	
112		2	34-17		13T	0001	表土	表土	二次加工ある剥片	玉髄岩			東端部欠損	33.5	32.0	8.6	10.2	
113		2			13T	0001	表土	表土	二次加工ある剥片	珪質頁岩			完形	48.0	29.6	12.1	14.5	
114		2			SI-2	0461	表土	I-2	二次加工ある剥片	黒曜石	信州		完形	11.8	16.0	2.2	0.4	
115		2			西表		表土	表土	二次加工ある剥片	メノウ			完形	25.2	22.1	5.9	2.3	
116		2			西貝層		表土	表土	二次加工ある剥片	チャート			完形	24.0	23.3	8.6	4.7	
117		2			東貝外		表土	表土	二次加工ある剥片	メノウ			完形	28.4	11.9	5.7	1.3	
118		2			東貝外		表土	表土	二次加工ある剥片	チャート			完形	24.9	33.3	7.0	5.3	
119		2			表探		表土	表土	二次加工ある剥片	メノウ			完形	19.2	27.6	14.5	5.6	
120		3	10-1		表探		表土	表土	二次加工ある剥片	玉髄岩			完形	45.6	25.7	9.1	9.2	
121		2			11T	0004	表土	剥片	細粒緑色凝灰岩				完形	18.6	11.0	4.4	0.9	
122		2			11T	0018	表土	剥片	細粒緑色凝灰岩	2.64			東端部欠損	30.9	46.9	9.7	14.2	
123		2			13T	0001	表土	剥片	ホルンフェルス				東端部欠損	36.5	58.8	17.6	45.3	
124		2			13T	0002	表土	剥片	玉髄岩				完形	21.4	29.3	7.4	3.8	
125		2			13T	0003	表土	剥片	玉髄岩		白滝頁岩		打面側欠損	21.9	19.4	4.4	1.8	
126		2			13T	0003	表土	剥片	頁岩				完形	78.8	39.9	19.1	85.9	
127		2			1T	0001	表土	剥片	軟質細粒緑色凝灰岩	神奈川			完形	31.1	41.4	10.4	11.2	
128		2			2T	0065	表土	剥片	砂岩	2.9			完形	21.4	14.6	6.1	1.9	
129		2			2T	0067	表土	剥片	チャート				完形	18.6	26.1	4.4	1.5	
130		2			3T	0001	表土	剥片	ガラス質黒色安山岩	大滝			完形	39.5	54.1	11.2	22.0	
131		2			5T	0003	表土	剥片	珪質頁岩				打面側欠損	26.6	21.0	4.2	1.7	
132		2			5T	0003	表土	剥片	珪質頁岩				東端部欠損	22.9	33.8	11.2	8.3	
133		2			5T	0003	表土	剥片	玉髄岩				完形	41.4	46.9	15.8	22.0	
134		2			7T	0001	一括	不明	剥片	チャート			完形	25.4	13.6	7.0	2.0	
135		2			7T	0002	一括	不明	剥片	チャート			完形	20.0	24.3	6.9	2.7	
136		1			A05	0003	表土	混貝	剥片	チャート			打面側欠損	(37.3)	31.3	14.4	16.7	
137		1			A15	0003	表土	剥片	チャート				完形	27.0	38.4	7.5	6.4	
138		1			A26	0001	1	剥片	チャート				打面側欠損	(19.3)	39.7	27.5	11.7	
139		1			A29	0002	2	混土貝	剥片	チャート			打面側欠損	(15.0)	28.0	15.8	4.3	
140		1			A58	0002	2	I-2	剥片	チャート			完形	49.2	54.9	23.9	37.9	
141		1			A74	0004	2	不明	剥片	チャート			打面側欠損	(20.1)	31.8	9.7	4.3	
142		1			B33	0004	2	黄褐色	剥片	チャート			完形	15.8	33.8	25.6	9.3	
143		1			B34	0004	2	黄褐色	剥片	チャート			東端部欠損	45.4	26.7	14.2	12.4	
144		1			B35	0019	4,下部	下部	剥片	チャート			完形	26.4	31.5	12.5	6.3	
145		1			B36	0007	3	IV-2	剥片	玉髄岩			完形	41.4	35.1	18.4	15.8	
146		1			B36	0007	3	IV-2	剥片	玉髄岩			完形	35.5	35.1	14.4	11.6	
147		1			B36	一括	不明	不明	剥片	チャート			完形	22.9	20.2	10.0	2.6	
148		1			B37	不明	不明	不明	剥片	硬質頁岩			完形	66.3	67.5	18.1	32.6	
149		1			C69	0008	2	茶褐色	剥片	チャート			完形	32.9	28.7	12.4	7.2	
150		1			C69	0016	4	褐色	剥片	玉髄岩			東端部欠損	(25.2)	40.6	11.4	9.6	
151		1			C74	0011	3	茶褐色	剥片	チャート			打面側欠損	(34.8)	25.4	12.0	8.8	
152		1			C94	0021	4	S6	剥片	硬質頁岩			東端部欠損	(19.4)	28.5	7.7	3.9	
153		1			C97	0006	3	混貝	剥片	チャート			完形	35.8	43.1	16.7	18.9	
154		1			D50	0002	2	茶褐色	剥片	硬質頁岩			完形	39.2	30.7	6.9	9.4	
155		1			D81	0001	1	表土	剥片	玉髄岩			完形	30.0	36.5	9.6	13.1	
156		1			D85	0001	1	R1	剥片	硬質頁岩			完形	30.0	40.4	8.1	9.8	
157		1			E11	0006	4	I-2	剥片	珪質頁岩			完形	42.3	31.4	8.6	9.3	
158		1			E33	0002	2	I-2	剥片	チャート			完形	34.2	22.6	11.5	5.3	
159		1			E43	0001	1	表土	剥片	ホルンフェルス			完形	29.3	56.7	15.7	28.9	
160		1			E69	0002	2	暗褐色	I-2	剥片	玉髄岩		○	完形	47.6	24.6	17.4	11.6
161		2			SI-6	0070	覆土内	I-2	剥片	チャート			完形	38.9	24.4	14.4	7.2	
162		2			SI-6	0072	覆土内	I-2	剥片	チャート			東端部欠損	23.4	27.7	7.1	4.0	
163		2			SI-6	0173	一括	I-2	剥片	玉髄岩			○	22.8	30.7	3.3	2.1	
164		2			西表		表土	剥片	チャート				完形	16.6	33.0	9.2	3.8	
165		2			西表		表土	剥片	玉髄岩				完形	32.5	16.6	7.8	4.1	
166		2			西貝層		表土	剥片	チャート				完形	20.1	16.7	5.6	1.6	
167		2			東貝外		表土	剥片	黒曜石	霧ヶ峰			両端欠損	14.9	16.8	5.3	1.3	
168		3	19-4		表探		表土	剥片	玉髄岩	2.59			完形	40.4	23.5	10.8	11.9	
169		1			不明	0023	表土	剥片	玉髄岩				完形	71.6	41.5	30.0	74.0	
170		2			10T	0057	1	剥片	砂岩	チャート			完形	18.5	16.0	8.1	2.4	
171		1			A14	0009	2	混貝 S1	III	模形石器			○	完形	40.8	33.7	15.7	20.0
172		1			C64	0011	5	黒色	I-1	模形石器			完形	48.1	42.7	12.9	33.0	
173		1			A35	0017	5	混土	I-2	石核			完形	20.7	38.2	21.0	15.8	
174		1			A38	0003	2	混貝(黒)	不明	石核			○	16.0	19.1	46.0	18.3	
175		1			B34	0004	2	黄褐色	IV-2	石核			完形	20.8	26.8	34.3	12.3	
176		1			B35	0008	3	茶褐色	IV-2	石核	ガラス質黒色安山岩	利根川(円礫)2.63		36.4	34.6	28.9	41.0	
177		1			B36	0001	1	表土	石核	チャート			完形	57.7	57.5	27.4	63.2	
178		1			C74	0001	3	茶褐色	IV-2	石核	玉髄岩			33.0	54.5	32.5	99.5	
179		1			C84	0008	2	茶褐色	IV-2	石核	チャート		完形	24.8	57.8	34.2	42.1	
180		1			C87	0004	2	茶褐色	IV-2	石核	メノウ			45.8	42.1	19.1	32.9	
181		1			C96	0007	3	混土	III	石核	チャート			38.0	42.7	39.3	84.3	
182		1			D45	0005	2	混土	III	石核	チャート			28.6	19.5	33.5	15.0	
183		1			D60	0002	2	茶褐色 R4	IV-2	石核	碧玉	2.57		34.6	50.7	30.5	74.0	
184		1			D63	0005	2	混貝	III	石核	硬質細粒凝灰岩			54.6	65.3	26.6	75.2	
185		1			D75	0005	1	表土	石核	珪質頁岩			完形	27.9	50.2	31.2	48.3	
186		1			E00	0007	2	褐色	III	石核	チャート			44.5	40.2	25.8	56.1	
187		1			E05	0003	2	S2	I-2	石核	チャート			40.8	35.2	35.2	58.8	
188		1			E12	0013	4	I-2	石核	チャート			完形	22.3	54.2	23.3	36.6	
189		1			E33	0006	3	混貝	I-2	石核	玉髄岩			42.0	28.8	24.4	30.4	
190		1			E34	0010	2	S1	I-1	石核	チャート			28.2	38.2	37.4	50.5	
191		1			E43	0003	3	混貝	I-2	石核	チャート			23.9	36.0	36.5	35.4	
192		1			A64	0004	2	I-2	石核?	チャート			完形	30.5	32.3	33.0	35.0	
193		1			不明	0002	不明	不明	石核	チャート			○	69.0	66.0	43.7	275.2	
194		2			SI-6	0173	一括	I-2	石核	チャート			○	22.9	26.3	10.6	5.8	
195		2			2T	0064	覆土中	III	石核	チャート			完形	15.9	15.1	7.3	2.2	
196		2			2T	0065	1	表土	石核	硬質頁岩			完形					

表12 (つづき)

押込 No.	遺物 No.	調査 回数	旧押込 No.	グリッド 遺構	取上 No.	取上 層位	層備考	段階	種別	石材	石材備考	被熱	遺存	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)
201	2			5T	0003	2c		IV-2	石核	チャート				34.3	28.4	31.2	37.1
202	2			5T	0003	2c		IV-2	石核	チャート				40.6	44.6	33.1	75.0
203	2			5T	0003	2c		IV-2	石核	チャート				33.0	52.9	34.7	78.4
204	2			7T	0001	一括		不明	石核	チャート				21.0	23.3	20.8	22.7
205	2			7T	0001	一括		不明	石核	チャート		○		38.6	21.6	17.4	11.6
206	2			13T	0001	表土		表土	石核	チャート		○	完形	20.9	38.9	13.2	12.2
207	2			13T	0001	表土		表土	石核	チャート				40.1	52.3	25.7	57.2
208	2			13T	0001	表土		表土	石核	チャート				61.0	47.5	22.6	69.3
209	2			13T	0001	表土		表土	石核	ガラス質黒色安山岩	大滝海岸		完形	36.8	43.6	29.7	54.3
210	2			13T	0003	表土		表土	石核	チャート			完形	39.2	43.5	32.0	59.6
211	2			13T	0003	表土		表土	石核	チャート			完形	38.2	54.9	29.2	78.3
212	2			13T	0003	表土		表土	石核	ホルンフェルス		○	完形	64.2	38.2	25.2	68.0
213	2			8T	0001	表土		表土	石核	チャート				17.5	33.3	29.9	19.8
214	2			西表	表土	表土		表土	石核	細粒緑色凝灰岩				123.0	54.8	40.9	433.1
215	2			西表	表土	表土		表土	石核	チャート				29.3	45.4	32.7	49.1
216	2			西表	表土	表土		表土	石核	チャート	多摩川			23.0	29.3	12.5	8.1
217	2			西目層	不明	不明		1-2?	石核	チャート				30.5	21.5	18.6	10.8
218	2			西目層	不明	不明		1-2?	石核	チャート				27.2	26.2	15.6	10.9
219	2			東目外	不明	不明		不明	石核	チャート				18.1	34.1	14.9	7.3
220	2			東表	表土	表土		表土	石核	黒曜石				21.9	22.6	13.2	5.6
221	2			表探	表土	表土		表土	石核	石英				60.3	77.5	58.6	228.1
222	1			A18	0007	3		Ⅲ	打製石斧	ホルンフェルス				(60.1)	(51.3)	23.0	65.4
223	1	96-39		C39	0007	不明		不明	打製石斧	砂岩			完形	110.7	49.4	17.0	132.0
224	1	96-37		表探	0025	表土		表土	打製石斧	ホルンフェルス			完形	93.0	44.5	21.1	110.0
225	2			13T	0001	表土		表土	打製石斧	頁岩				(39.8)	(46.7)	(14.4)	(27.4)
226	2			13T	0001	表土		表土	打製石斧	安山岩				(71.3)	(58.8)	(32.3)	(199.7)
227	2			13T	0001	表土		表土	打製石斧	ホルンフェルス				(41.7)	(44.6)	(13.7)	(28.6)
228	2			13T	0003	表土		表土	打製石斧	中粒緑色凝灰岩			完形	78.3	44.5	22.6	105.3
229	2			東目内	不明	不明		不明	打製石斧	砂岩			完形	91.0	49.9	25.3	152.1
230	1			C94	0024	4	S6	Ⅰ-1	磨製石斧	ホルンフェルス				(29.4)	(34.8)	(11.2)	(14.3)
231	1			D43	0001	2	茶褐色	Ⅳ-2	磨製石斧	安山岩				(57.0)	(50.9)	(30.0)	(69.9)
232	1	99-63		D70	0001	2		Ⅳ-2	磨製石斧	細粒凝灰岩				43.4	27.5	9.5	20.0
233	2			1T	0002	表土		表土	磨製石斧	安山岩		○	完形	75.2	52.6	26.1	137.6
234	2			1T-3T部	0001	表土		表土	磨製石斧	安山岩	2.72			47.5	45.5	20.4	69.5
235	2			8T	0001	表土		表土	磨製石斧	安山岩	三浦			(106.5)	(69.1)	(46.4)	(97.2)
236	2			13T	0001	表土		表土	磨製石斧	安山岩	三浦			(12.4)	(28.0)	(9.0)	(3.8)
237	2			13T	0001	表土		表土	磨製石斧	安山岩	三浦			(74.2)	(47.7)	(29.7)	(169.2)
238	2			西目層外	表土	表土		表土	磨製石斧	安山岩	三浦			(59.2)	(48.5)	(31.9)	(149.0)
239	2			東目内	表土	表土		表土	磨製石斧	緑色岩				(67.3)	(34.2)	(28.0)	(65.2)
240	2			表探	10T付近	表土		表土	磨製石斧	砂岩		○	完形	116.9	69.6	31.3	307.8
241	7			表探	10T付近	表土		表土	磨製石斧	緑色岩	比叢2.96		完形	98.4	46.5	23.5	176.5
242	1		SK015(A24)		0030	5	黒色	Ⅰ-2	磨石	石英岩		○	完形	129.0	83.5	45.9	667.5
243	1	93-10	SK015(A24)		0031	5		Ⅰ-2	磨石	ホルンフェルス				111.4	72.7	41.7	530.0
244	1			A04	0006	2	滷貝	Ⅱ	磨石	砂岩		○	1/4	52.9	39.7	33.7	109.3
245	1			A05	0008	4		Ⅰ-2	磨石	安山岩				(61.3)	(37.5)	(30.6)	(63.1)
246	1			A05	0013	4	滷貝 褐色	Ⅰ-2	磨石	石英岩				(65.5)	(36.8)	(40.9)	(138.6)
247	1			A05	不明	不明		不明	磨石	ホルンフェルス				93.6	(65.7)	(65.4)	362.0
248	1			A14	0015	3	S5	Ⅰ-2	磨石	砂岩				(39.7)	(29.5)	(14.8)	7.1
249	1			A18	0004	2		不明	磨石	砂岩				(49.0)	(39.1)	(30.6)	59.0
250	1			A19	0003	2	滷貝	Ⅲ	磨石	砂岩				(52.8)	(52.5)	(31.3)	103.2
251	1			A26	0008	3	滷土	Ⅰ-2	磨石	砂岩			1/2弱	(96.6)	(58.8)	(59.0)	305.7
252	1			A26	0008	3	滷土	Ⅰ-2	磨石	石英岩		○	完形	(82.8)	(46.3)	(61.7)	184.0
253	1			A37	0007	3		Ⅰ-2	磨石	砂岩		○	完形	(59.1)	(60.2)	(45.3)	214.5
254	1			A49	0021	5	黒色	Ⅰ-1	磨石	石英岩			完形	102.5	71.9	49.1	513.0
255	1			A54	0017	4	S5	Ⅰ-2	磨石	安山岩		○	1/4弱	(64.8)	(46.5)	(33.6)	101.6
256	1			A57	0003	3	ブロック滷土	Ⅰ-2	磨石	砂岩				(56.8)	(40.6)	(70.8)	154.4
257	1			A58	表探	表土		表土	磨石	石英岩			完形	92.0	68.1	43.7	389.0
258	1	93-11		A94	0005	1		表土	磨石	石英岩			完形	75.5	55.9	43.3	260.0
259	1			A不明	不明	不明		不明	磨石	黒砂岩				100.5	91.1	41.3	472.5
260	1			B34	0003	2	黒褐色	Ⅳ-2	磨石	砂岩				(39.6)	(54.7)	(48.5)	73.7
261	1			B35	0011	3		Ⅳ-2	磨石	砂岩				83.2	55.2	28.9	183.1
262	1			B35	0023	4		Ⅳ-1	磨石	安山岩				(92.6)	(59.8)	(39.6)	301.3
263	1			C64	0002	3		Ⅳ-2	磨石	砂岩		○	完形	(29.1)	(12.9)	(43.4)	14.5
264	1			C69	0008	2	茶褐色	Ⅳ-2	磨石	安山岩				81.1	52.0	48.0	274.1
265	1			C78	不明	不明		不明	磨石	砂岩				(80.0)	(24.1)	(47.6)	105.1
266	1			C88	0009	4	滷貝	Ⅲ	磨石	石英岩				63.0	19.9	52.8	104.2
267	1	94-21		C87	0020	5		Ⅲ	磨石	石英岩				84.6	44.7	25.1	150.0
268	1	94-22		C96	0023	段層層		不明	磨石	砂岩				(36.9)	61.5	38.2	110.0
269	1			D30	0003	2	R2	V	磨石	安山岩	丹沢			32.5	56.7	30.2	77.0
270	1	94-19		D43	0004	2		Ⅳ-2	磨石	石英岩		○	完形	107.2	87.0	68.5	380.0
271	1	95-24		D44	0020	5		Ⅰ-2	磨石	チャート			完形	97.0	62.0	44.2	430.0
272	1			D52	0005	2	滷貝	Ⅳ-2	磨石	石英岩		○	1/2	99.0	87.0	55.1	565.5
273	1	99-64		D60	0042	5		Ⅱ	磨石	砂岩				34.3	19.3	9.3	6.8
274	1			D85	0006	2	S3	Ⅲ	磨石	砂岩		○	1/4	75.6	66.9	55.5	464.9
275	1	94-18		D89	0005	不明		不明	磨石	石英岩				(94.4)	83.0	55.7	530.0
276	1	95-27		D83	0006	2		Ⅲ	磨石	ホルンフェルス			完形	99.5	60.5	30.8	300.0
277	1			D93	0004	3	滷貝	Ⅰ-2	磨石	石英岩		○	一部欠損	111.3	81.8	50.5	589.1
278	1	94-17		D95	0009	3		Ⅰ-1	磨石	砂岩				(73.2)	92.4	35.5	340.0
279	1	95-32		E24	0013	4		Ⅰ-2	磨石	砂岩		○	完形	(94.3)	(48.6)	(37.5)	(160.0)
280	1	95-29		表探	0002	表土		表土	磨石	安山岩			1/2	(68.0)	61.8	31.3	200.0
281	1			不明	0004	不明		不明	磨石	安山岩		○	完形	81.8	57.4	42.5	346.9
282	1			不明	0006	不明		不明	磨石	多孔隙安山岩			1/2	(76.9)	(78.8)	31.9	192.3
283	1	94-23		不明	0021	不明		不明	磨石	石英岩		○	完形	(92.3)	84.2	43.4	530.0
284	2			SI-1	0142	表土		表土	磨石	安山岩		○	完形	(58.9)	(61.6)	40.1	204.5
285	2			SI-6	0005	層土内		Ⅰ-2	磨石	石英岩				42.8	(13.7)	72.9	41.5
286	2			SI-2	0161			Ⅰ-2	磨石	石英岩				(66.3)	63.4	33.0	193.1
287	2			SI-2	0236			Ⅰ-2	磨石	砂岩			1/2	(81.9)	77.2	44.5	309.9
288	2			1T-3T部	0001	砂層部		不明	磨石	石英岩				(44.4)	(26.7)	44.0	77.1
289	2			2T	0023	表土		表土	磨石	砂岩		○	完形	(52.8)	(76.8)	(51.8)	231.9
290	2			2T	0065	表土		表土	磨石	安山岩		○	完形	110.8	69.8	40.2	450.0
291	2			2T	0065	表土		表土	磨石	安山岩				(82.7)	(26.1)	(41.5)	114.3
292	2			2T	0066	表土		表土	磨石	砂岩		○	完形	(25.0)	(43.5)	(15.2)	12.0
293	2			2T	0066	表土		表土	磨石	凝灰岩				(58.6)	(31.0)	(26.8)	18.5
294	2			2T	0066	表土		表土	磨石	ホルンフェルス				35.3	60.5	49.8	124.0
295	2			2T	0067	表土	</										

表12 (つづき)

採掘 No.	遺物 No.	調査 次数	旧採掘 No.	グリッド 遺構	取上 No.	取上 層位	層備考	段階	種別	石材	石材備考	被災	遺存	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	
	301	2		8T	0002	表土		表土	磨石	石英斑岩		○	破片	(76.6)	83.9	(45.7)	374.5	
	302	2		10T	0002	表土		表土	磨石	石英斑岩			破片	73.9	(30.6)	41.9	91.4	
	303	2		10T	0002	表土		表土	磨石	流紋岩			完形	87.3	66.9	47.8	381.9	
	304	2		10T	0061	表土		表土	磨石	安山岩		○	破片	(45.5)	(22.0)	47.7	57.8	
	305	2		11T	0012	表土		表土	磨石	石英斑岩			完形	91.1	58.7	45.2	311.9	
	306	2		11T	0013	表土		表土	磨石	石英斑岩			破片	(78.2)	(41.7)	(59.8)	179.7	
	307	2		13T	0001	表土		表土	磨石	花崗岩		○	破片	(61.3)	(37.6)	(16.0)	40.1	
	308	2		13T	0001	表土		表土	磨石	石英斑岩			約1/2	(48.8)	46.1	31.4	111.6	
	309	2		13T	0001	表土		表土	磨石	石英斑岩			破片	(53.0)	(63.4)	35.5	125.7	
	309	2		13T	0001	表土		表土	磨石	石英斑岩		○	約1/2	(61.8)	46.3	36.1	152.1	
	311	2		13T	0001	表土		表土	磨石	石英斑岩			一部欠損	78.6	58.6	34.3	244.7	
	312	2		13T	0001	表土		表土	磨石	砂岩			完形	83.9	57.3	35.8	269.8	
	313	2		13T	0001	表土		表土	磨石	砂岩		○	約1/3	(91.3)	(55.7)	(41.1)	279.6	
	314	2		13T	0001	表土		表土	磨石	石英斑岩		○	一部欠損	78.8	66.9	46.5	307.3	
	315	2		13T	0001	表土		表土	磨石	石英斑岩			完形	86.9	70.9	37.1	317.0	
	316	2		13T	0001	表土		表土	磨石	石英斑岩		○	約1/2	(80.1)	72.0	43.5	330.9	
	317	2		13T	0001	表土		表土	磨石	砂岩			約1/4	(96.0)	(53.4)	49.2	370.8	
	318	2		13T	0001	表土		表土	磨石	閃緑岩		○	縦位1/2	124.2	(61.1)	45.3	512.6	
	319	2		13T	0001	表土		表土	磨石	石英斑岩			完形	101.0	97.5	47.6	673.9	
	320	2		13T	0002	表土		表土	磨石	安山岩			約1/2	(90.5)	(42.3)	44.6	224.9	
	321	2		13T	0002	表土		表土	磨石	石英斑岩			約1/2	(108.1)	111.0	58.3	1,137.4	
	322	2		13T	0002	表土		表土	磨石	花崗岩			破片	(44.8)	(25.4)	(40.0)	53.7	
	323	2		13T	0002	表土		表土	磨石	粗粒緑色凝灰岩			破片	(28.6)	(45.1)	(57.6)	99.5	
	324	2		13T	0002	表土		表土	磨石	安山岩			完形	66.4	48.5	29.9	142.6	
	325	2		13T	0002	表土		表土	磨石	砂岩		○	破片	(51.3)	(51.1)	(49.2)	188.0	
	326	2		13T	0002	表土		表土	磨石	砂岩			破片	(62.4)	(63.6)	(41.0)	203.3	
	327	2		13T	0002	表土		表土	磨石	変質ハンレイ岩			約1/2	(63.1)	65.7	38.0	242.1	
	328	2		13T	0002	表土		表土	磨石	砂岩		○	破片	(61.0)	83.6	(51.1)	250.7	
	329	2		13T	0002	表土		表土	磨石	砂岩			完形	90.5	63.8	37.4	298.2	
	330	2		13T	0002	表土		表土	磨石	石英斑岩			破片	(106.0)	(71.7)	34.2	325.9	
	331	2		13T	0002	表土		表土	磨石	安山岩			完形	98.4	72.1	37.4	441.7	
	332	2		北貝層		不明		不明	磨石	砂岩			破片	(61.2)	45.9	41.5	178.8	
	333	2		東貝内		不明		不明	磨石	石英斑岩			完形	101.1	54.0	37.1	285.4	
	334	2		西表		表土		表土	磨石	砂岩			破片	(57.6)	(45.9)	(25.0)	70.1	
	335	2		西表		表土		表土	磨石	砂岩			約1/2	68.4	58.1	(38.0)	200.3	
	336	2		西表		表土		表土	磨石	流紋岩		○	破片(両端欠損)	(63.0)	58.3	42.3	194.2	
	337	2		西貝層外		不明		不明	磨石	花崗岩			○	両面中央がやや窪む	(84.6)	(66.9)	46.7	354.2
	338	5	17-23	表採		表土		表土	磨石	石英斑岩			縁辺一部欠損	94.2	86.5	37.2	382.6	
	339	7		10T	0015	13層		1-2	磨石	多孔質安山岩			破片	(76.6)	(33.3)	(53.3)	147.1	
	340	1		A06	0003	表土		表土	磨石	石英斑岩		○	約1/2	(63.9)	36.6	32.2	102.5	
	341	1		A17	0012	表土		表土	磨石	砂岩			完形	96.9	41.6	39.7	230.1	
	342	1		A24~25		不明		不明	磨石	チャート		○	完形	85.1	61.1	38.4	316.5	
	343	1		A25	0018	5		1-2	磨石	軟質凝灰質泥岩			完形	57.4	56.4	(43.6)	106.1	
	344	1		A28	0017	4		1-2	磨石	砂岩			完形	70.0	57.6	27.4	147.4	
	345	1		A35	0008	2		1-2	磨石	ホルンフェルス			完形	60.6	25.5	22.2	45.8	
	346	1		A49	0013	3		1-2	磨石	石英斑岩			完形	75.6	63.7	33.6	233.0	
	347	1		B34	0023	4		IV-1	磨石	砂岩			完形	98.5	49.5	49.8	337.9	
	348	1		B34		不明		不明	磨石	石英斑岩		○	約1/2	(53.1)	40.1	29.4	97.2	
	349	1		B35	0010	3		IV-2	磨石	砂岩			完形	45.2	37.1	13.0	29.4	
	350	1		B35	0010	3		IV-2	磨石	砂岩			一部欠損	(47.5)	37.2	20.5	48.6	
	351	1		C69	0008	2		IV-2	磨石	砂岩			破片	87.2	(40.3)	39.6	174.3	
	352	1		C69	0008	2		IV-2	磨石	ホルンフェルス			一部欠損	120.2	(71.5)	74.5	727.0	
	353	1		C69	0016	4		III	磨石	安山岩		○	破片	(92.4)	66.5	51.6	322.0	
	354	1		C84	0008	2		IV-2	磨石	砂岩			完形	80.3	50.5	35.5	180.5	
	355	1		C85	0006	2		IV-2	磨石	変質ドレライト			破片	(55.7)	55.4	21.8	121.7	
	356	1		C85	0006	2		IV-2	磨石	石英斑岩		○	一部欠損	76.7	32.7	(33.4)	123.4	
	357	1		C85	0006	2		IV-2	磨石	石英斑岩		○	一部欠損	(95.9)	40.8	29.2	165.3	
	358	1		C85	0006	2		IV-2	磨石	石英斑岩			破片	94.5	78.6	(32.1)	291.3	
	359	1		C86	0003	2		IV-2	磨石	ホルンフェルス		○	完形	86.0	70.3	53.1	431.3	
	360	1		C86	0008	3		III	磨石	流紋岩			破片	(55.6)	60.0	66.7	207.4	
	361	1		C88	0003	3		III	磨石	ホルンフェルス			完形	78.8	55.2	51.0	314.6	
	362	1		C88	0006	2		IV-2	磨石	石英斑岩			完形	113.4	74.6	41.5	476.2	
	363	1		C88	0017	2		IV-2	磨石	安山岩		○	完形	88.7	74.5	58.8	552.0	
	364	1		C95	0004	1		表土	磨石	砂岩			一部欠損	(64.7)	47.8	21.6	97.2	
	365	1		C95	0004	1		表土	磨石	石英斑岩		○	一部欠損	105.5	71.1	32.2	330.4	
	366	1		D10	0003	3		IV-2	磨石	砂岩			完形	58.8	28.7	21.8	52.9	
	367	1		D20	0007	4		IV-1	磨石	砂岩			完形	96.4	74.0	38.6	365.3	
	368	1		D35	0006	3		IV-2	磨石	砂岩		○	完形	71.4	56.5	39.1	212.6	
	369	1		D44	0006	5		1-2	磨石	石英斑岩		○	破片	(53.0)	70.7	42.6	214.2	
	370	1	96-41	D43	0004	2		IV-2	磨石	安山岩		○	1/2	(65.8)	45.0	26.6	180.0	
	371	1		D50	0006	2		IV-2	磨石	砂岩			一部欠損	95.6	55.4	38.0	245.6	
	372	1		D60	0012	3		IV-2	磨石	砂岩		○	完形	73.4	43.7	26.9	158.9	
	373	1		D84	0002	1		表土	磨石	砂岩			約1/2	(59.9)	59.8	34.3	156.9	
	374	1		D91	0007	層位不明		不明	磨石	変質ドレライト	丹沢	○	一部欠損	(64.6)	81.4	42.0	371.1	
	375	1		E00	0012	不明		不明	磨石	石英斑岩			完形	111.2	59.8	37.7	311.7	
	376	1		E10	0009	3		II	磨石	中粒緑色凝灰岩		○	一部欠損	84.7	36.7	14.0	65.8	
	377	1	95-31	E11	0008	2		II	磨石	ホルンフェルス			完形	99.5	72.3	36.6	360.0	
	378	1		E14	0023	4		I-1	磨石	砂岩		○	破片	(44.0)	44.5	37.0	72.6	
	379	1		E15	0003	2		I-2	磨石	砂岩			完形	57.2	51.2	41.9	169.1	
	380	1		不明	0002	表土		表土	磨石	石英斑岩			完形	71.2	38.0	44.2	178.9	
	381	1		不明	表土			表土	磨石	砂岩			完形	71.8	28.6	26.2	81.2	
	382	2		SI-6	0014	層土内		I-2	磨石	流紋岩			完形	70.6	53.9	37.2	177.4	
	383	2		IT.37B	0001	採掘部		不明	磨石	ホルンフェルス			完形	94.9	49.0	33.2	197.7	
	384	2		IT.37C	0001	採掘部		不明	磨石	砂岩			完形?	61.4	34.1	21.6	52.6	
	385	2		2T	0066	2		III?	磨石	石英斑岩		○	完形	110.7	76.4	24.3	309.1	
	386	2		3T	0001	表土		表土	磨石	砂岩			完形	47.9	19.9	13.7	20.4	
	387	2		3T	0001	表土		表土	磨石	石英斑岩		○	一部欠損	90.8	37.5	30.2	141.5	
	388	2		3T	0001	表土		表土	磨石	砂岩		○	約1/2	(85.4)	49.0	45.6	224.8	
	389	2		3T	0001	表土		表土	磨石	砂岩			約1/2	97.0	47.6	35.7	229.8	
	390	2		4T	0001	1		表土	磨石	流紋岩		○	ほぼ完形	124.6	72.9	48.9	618.7	
	391	2		4T	0003	1		表土	磨石	チャート		○	完形	66.1	27.5	21.8	52.3	
	392	2		4T	0003	1		表土	磨石	頁岩			完形	59.7	30.3	14.2	32.7	
	393	2		4T	0003	1		表土	磨石	頁岩			完形	80.2	27.0	15.6	62.2	
	394	2		4T	0021	A貝層		I-2	磨石	中粒緑色凝灰岩			一部欠損	(71.9)	22.9	18.7	46.	

表12 (つづき)

押込 No.	遺物 No.	調査 回数	旧押込 No.	グリッド 遺構	取上 No.	取上 層位	層備考	段階	種別	石材	石材備考	被熱	遺存	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
401	2			11T	0001	1		表土	礫石	砂岩			一端のみ破打	57.2	25.9	21.8	48.8
402	2			13T	0001	表土		表土	礫石	ホルンフェルス			完形	58.3	15.2	14.3	19.1
403	2			13T	0001	表土		表土	礫石	砂岩			完形	58.7	17.0	14.3	20.5
404	2			13T	0001	表土		表土	礫石	流紋岩			完形	74.9	31.2	24.2	60.7
405	2			13T	0001	表土		表土	礫石	砂岩			完形	74.5	27.3	26.8	93.6
406	2			13T	0001	表土		表土	礫石	砂岩			○ 完形	76.2	64.9	22.2	159.7
407	2			13T	0001	表土		表土	礫石	石英斑岩			○ 完形	81.7	56.0	30.1	195.1
408	2			13T	0001	表土		表土	礫石	砂岩			完形	76.5	(51.6)	36.6	210.0
409	2			13T	0001	表土		表土	礫石	砂岩			○ 一部欠損	(104.7)	(43.6)	(40.8)	246.5
410	2			13T	0001	表土		表土	礫石	砂岩			完形	93.5	65.8	45.5	390.5
411	2			13T	0001	表土		表土	礫石	石英斑岩			完形	140.7	62.5	44.6	617.6
412	2			13T	0002	サブトレ		不明	礫石	砂岩			○ 破片	(64.5)	(56.1)	(45.2)	139.6
413	2			13T	0002	サブトレ		不明	礫石	変質ドレラト	丹沢		約1/2	(52.7)	59.6	20.1	104.9
414	2			13T	0002	サブトレ		不明	礫石	変質ドレラト	丹沢		破片	(52.0)	(79.0)	(37.4)	154.2
415	2			13T	0002	サブトレ		不明	礫石	砂岩			完形	101.8	53.9	27.3	174.1
416	2			13T	0002	サブトレ		不明	礫石	ホルンフェルス			完形	62.1	60.8	44.3	231.0
417	2			13T	0002	サブトレ		不明	礫石	砂岩			○ 約1/2	(75.9)	83.7	57.5	568.2
418	2			13T	0003	表土		表土	礫石	砂岩			完形	67.2	51.1	42.1	191.4
419	2			13T	0003	表土		表土	礫石	チャート			○ 完形	61.2	46.4	32.0	128.4
420	2			13T	0003	表土		表土	礫石	砂岩			一部欠損	47.7	25.9	14.0	24.6
421	2			13T	0003	表土		表土	礫石	石英斑岩			完形	79.0	28.5	17.5	51.9
422	2			13T	0003	表土		表土	礫石	砂岩			○ 完形	54.5	48.5	19.4	66.1
423	2			13T	0003	表土		表土	礫石	砂岩			○ 破片	(38.8)	(57.0)	(29.7)	70.8
424	2			13T	0003	表土		表土	礫石	砂岩			完形	95.8	34.9	22.7	88.6
425	2			13T	0003	表土		表土	礫石	石英斑岩			○ 一部欠損	(68.1)	42.3	30.5	109.9
426	2			13T	0003	表土		表土	礫石	砂岩			完形	76.0	46.0	26.9	128.5
427	2			13T	0003	表土		表土	礫石	石英斑岩			完形	57.9	54.5	33.2	149.5
428	2			13T	0003	表土		表土	礫石	石英斑岩			破片	(71.6)	(43.7)	48.2	222.7
429	2			13T	0003	表土		表土	礫石	砂岩			○ 破片	(68.6)	56.8	(51.1)	231.8
430	2			13T	0003	表土		表土	礫石	石英斑岩			完形	80.1	53.5	38.3	245.6
431	2			13T	0003	表土		表土	礫石	流紋岩			一部欠損	(82.2)	67.1	39.0	277.6
432	2			13T	0003	表土		表土	礫石	チャート			完形	88.8	73.8	34.7	331.8
433	2			13T	0003	表土		表土	礫石	石英斑岩			○ 破片	(51.2)	(94.8)	(56.6)	338.9
434	2			13T	0003	表土		表土	礫石	石英斑岩			完形	87.9	64.3	47.7	367.0
435	2			13T	0003	表土		表土	礫石	石英斑岩			完形	129.2	63.2	49.9	518.3
436	2		北貝層			表土		表土	礫石	石英斑岩			完形	75.2	44.4	36.4	175.0
437	2		表桜			表土		表土	礫石	石英斑岩			○ 完形	102.4	62.6	32.1	317.8
438	7		表桜			表土		表土	礫石	砂岩			完形	107.7	59.9	52.6	451.5
439	1		A06	0020	5	暗褐色		I-2	石皿	軟質凝灰質砂岩	房総		○ 完形?	96.8	94.2	93.0	770.5
440	1		A27	0013	5	黒色		I-2	石皿	多孔質安山岩			破片	(72.1)	(51.7)	(46.3)	164.4
441	1		A36	0026	5	黒		I-2	石皿	多孔質安山岩			破片	(42.6)	(40.2)	(51.5)	112.5
442	1		A46	0005	1	表土		表土	石皿	安山岩			○ 破片	(47.0)	(36.4)	(65.6)	119.9
443	1		C86	0016	3	茶褐色 下面		Ⅲ	石皿	安山岩	板状		破片?	123.9	(69.9)	29.8	363.7
444	1		C94	0006	3			Ⅲ	石皿	安山岩			○ 破片	(97.8)	(66.9)	43.8	271.6
445	1		D10	0003	3	R5		IV-2	石皿	砂岩			破片	(62.7)	(84.5)	65.4	550.0
446	1		D44	0022	4	鈍貝		Ⅲ	石皿	安山岩			○ 破片	(88.5)	(80.4)	(54.5)	488.2
447	1		D52	0010	5			I-1	石皿?	軟質火山凝灰岩	房総		破片	(58.3)	(69.0)	43.2	110.3
448	1		D60	0015	3	褐色 R5		IV-2	石皿	多孔質安山岩			破片	(39.1)	(37.0)	(22.6)	24.3
449	1		D60	鈍貝 不明				Ⅲ	石皿	アブライト			○ 破片	(98.8)	(22.9)	(69.7)	155.0
450	1		D70	0006	3	褐色 R5		IV-2	石皿?	石英斑岩			○ 破片	(49.2)	(25.5)	(73.4)	98.5
451	1		D70	0009	3	濡貝 R5		IV-2	石皿?	砂岩			○ 破片	(36.3)	(81.6)	(49.4)	203.6
452	1		D73	0009	4	暗褐色 土		I-2	石皿	砂岩			○ 破片	(88.4)	(50.5)	54.2	280.0
453	1		D92	0008	2			Ⅲ	石皿	軟質凝灰質砂岩			○ 破片	(83.6)	(82.2)	43.8	313.4
454	1		E04	0008	4	褐色		I-2	石皿	安山岩			破片	(58.1)	(39.9)	(27.5)	76.7
455	1		E11	0009	4			I-2	石皿	多孔質安山岩			破片	(43.5)	(63.1)	(31.0)	56.4
456	1		E20	0012	3			I-2	石皿	砂岩			○ 破片	(39.1)	(86.4)	(62.7)	91.6
457	1		E40	不明				不明	石皿	多孔質安山岩	房総		○ 破片	(39.8)	(68.7)	31.6	66.2
458	1		E41	0019	1			不明	石皿	砂岩			○ ほぼ完形	(226.8)	(149.0)	103.0	2,943.5
459	1		E44	0006	3			I-2	石皿	砂岩			○ 破片	(132.8)	(89.9)	(88.9)	1,452.2
460	1		E60	0004	2			I-2	石皿	多孔質安山岩			破片	(80.0)	(102.3)	45.5	350.0
461	1		不明	不明	不明			不明	石皿	多孔質安山岩			破片	(80.5)	(83.8)	80.8	430.0
462	1		不明	不明	不明			不明	石皿	軟質凝灰質砂岩	房総		破片	(115.9)	(82.4)	39.5	422.9
463	1		不明	不明	不明			不明	石皿	軟質凝灰質砂岩			破片	88.0	74.4	42.0	281.5
464	2		1T,3T,6T	0001	砂室部			不明	石皿	多孔質安山岩			破片	(84.8)	(40.0)	68.3	179.8
465	2		2T	0065	1			表土	石皿	砂岩			破片	(49.6)	(38.0)	17.1	32.0
466	2		3T	0002	表土			表土	石皿	安山岩			破片	(51.1)	(44.2)	25.2	47.2
467	2		5T	0001	表土			表土	石皿	軟質凝灰質砂岩	房総半島		破片	(45.5)	(45.6)	20.9	52.4
468	2		11T	0037	A2下			I-2	石皿	多孔質安山岩			破片	(49.0)	(66.9)	51.9	140.4
469	2		13T	0001	表土			表土	石皿	安山岩			破片	(29.2)	(17.9)	(25.8)	14.1
470	2		13T	0001	表土			表土	石皿	多孔質安山岩			破片	(79.1)	(47.6)	44.2	142.2
471	2		13T	0001	表土			表土	石皿	安山岩			破片	(64.9)	(56.3)	(55.0)	233.7
472	2		13T	0001	表土			表土	石皿	砂岩			破片	(69.2)	(59.2)	(40.4)	241.2
473	2		13T	0001	表土			表土	石皿	多孔質安山岩			破片	(88.5)	(100.8)	68.6	491.6
474	2		13T	0001,0003	表土			表土	石皿	チャート			破片	(167.5)	(82.9)	127.5	1,967.6
475	2		13T	0002	サブトレ			不明	石皿	多孔質安山岩			破片	(104.7)	(72.0)	55.8	333.6
476	2		13T	0002	サブトレ			不明	石皿	安山岩			破片	(91.6)	(111.0)	78.0	894.1
477	2		13T	0003	表土			表土	石皿	安山岩			破片	(48.1)	(53.5)	60.2	231.5
478	2		13T	0003	表土			表土	石皿	変質玄武岩	丹沢		破片	(85.5)	(126.5)	43.1	696.5
479	2		北貝層	不明				不明	石皿	多孔質安山岩			破片	(73.3)	(73.2)	53.1	250.2
480	1		SK015(A24)	0048	10			I-2	砥石	砂岩			完形	82.4	38.9	19.5	66.0
481	1		A04	0012	表土			表土	砥石	軟質凝灰質砂岩			完形	73.8	51.7	26.3	62.2
482	1		A04	0022	表土			表土	砥石	砂岩			完形	66.8	30.1	25.9	63.1
483	1		A05	0006	表土			表土	砥石	砂岩			破片	(39.9)	49.1	10.7	23.5
484	1		A07	0012	表土			表土	砥石	砂岩			○ 完形	112.2	94.8	22.4	249.8
485	1		A08	0010	表土			表土	砥石	砂岩			○ 破片	36.3	32.7	25.6	35.0
486	1		A08	0018	表土			表土	砥石	砂岩			破片	(45.5)	57.4	30.7	101.9
487	1		A16	0021	表土			表土	砥石	頁岩	2,64		完形	71.1	21.8	24.4	52.8
488	1		A17	0005	表土			表土	砥石	緑泥片岩			○ 破片	56.2	45.9	6.9	20.0
489	1		A18	0004	表土			表土	砥石	砂岩			完形	50.2	36.1	34.2	70.4
490	1		A24	0010	3	S3		I-2	砥石	軟質凝灰質砂岩			破片	48.2	(29.2)	12.7	20.5
491	1		A24	0051	不明			不明	砥石	砂岩			○ 完形	112.0	71.0	15.5	166.0
492	1		A24	不明	不明			不明	砥石	安山岩			○ 破片	(107.0)	75.6	17.8	184.1
493	1		A25	0029	5	黒色(混貝)		I-2	砥石	砂岩			破片	(67.5)	(39.8)	15.3	59.4
494	1	</															

表12 (つづき)

挿入 No.	遺物 No.	調査 次数	旧挿入 No.	グリッド 遺構	取上 No.	取上 層位	層備考	段階	種別	石材	石材備考	被熱	遺存	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
	501	1		A39	不明	不明		不明	底石	砂岩				54.9	38.2	9.2	25.3
	502	1		A44	0008	2	産貝	不明	底石	砂岩				62.4	89.2	17.8	124.2
	503	1		A46	0003	1		不明	表土	砂岩				70.7	40.7	24.8	116.2
	504	1		A54	0021	4	S5	不明	底石	定山岩	板状			65.3	74.2	18.5	189.5
	505	1		A64	不明	表土		不明	表土	軟質凝灰質砂岩				55.4	29.9	21.3	21.6
	506	1		B33	0,0011,0013	4		不明	IV-1	底石	緑泥片岩			50.6	46.6	5.5	56.4
	507	1		B33	0018	4		不明	IV-1	底石	緑泥片岩			64.8	29.4	8.7	45.8
	508	1		B33	0024	4		不明	IV-1	底石	砂岩		○	44.9	35.5	33.6	54.0
	509	1		B33	0031	不明	sec壁中層位不明	不明	底石	砂岩		○	一部欠損	56.7	29.5	22.5	44.9
	510	1		B34	0004	2	茶褐色	不明	IV-2	底石	緑泥片岩			63.2	67.1	7.7	97.2
	511	1		B34	0023	4		不明	IV-1	底石	砂岩			69.4	35.5	20.3	63.9
	512	1		B35	0004	2	茶褐色	不明	IV-2	底石	緑泥片岩			66.7	26.8	10.4	15.7
	513	1		B35	0025	4		不明	IV-1	底石	砂岩			64.9	87.6	9.0	55.0
	514	1		B36	0007	3		不明	IV-2	底石	緑泥片岩			48.3	38.9	3.8	9.3
	515	1		B36	0010	4		不明	IV-1	底石	軟質凝灰質砂岩			78.0	56.5	12.0	43.2
	516	1		B38	0007	3		不明	IV-2	底石	角閃岩			100.7	56.9	15.1	146.8
	517	1		B38	0012	4		不明	IV-1	底石	砂岩			56.5	38.5	31.4	75.8
	518	1		C69	0003	2	茶褐色	不明	IV-2	底石	砂岩			91.1	53.8	37.4	221.8
	519	1		C69	0008	2	茶褐色	不明	IV-2	底石	砂岩			38.3	28.8	19.1	25.6
	520	1		C74	0009	4		不明	IV-1	底石	緑泥片岩			109.5	109.3	10.6	175.2
	521	1		C78	不明	不明		不明	底石	緑泥片岩		○		93.0	55.1	6.1	34.2
	522	1		C85	0004	3	黒褐色	不明	III	底石	軟質凝灰質砂岩			53.8	46.5	14.5	38.0
	523	1		C85	0004	3	黒褐色	不明	III	底石	ライオン			70.3	87.6	13.3	116.6
	524	1		C88	0006	2		不明	IV-2	底石	緑泥片岩			66.4	58.1	6.7	44.3
	525	1		C88	0011	4	産貝	不明	III	底石	砂岩			48.4	38.5	33.7	72.6
	526	1		C97	0002	2	茶褐色	不明	IV-2	底石	砂岩			83.1	55.7	24.7	123.3
	527	1		C99	0013	4		不明	II?	底石	砂岩			62.9	55.8	16.5	79.7
	528	1		D40	不明	不明		不明	底石	砂岩	鉄子?			67.7	43.9	40.2	166.3
	529	1		D43	0004	2	茶褐色	不明	IV-2	底石	砂岩			121.8	72.5	28.3	310.0
	530	1		D43	0005	2	茶褐色	不明	IV-2	底石	緑泥片岩			80.6	47.2	12.7	73.1
	531	1		D43	0009	4	暗褐色	不明	I-2?	底石	砂岩		○	54.6	39.8	30.8	68.8
	532	1		D54	0006	2	産貝	不明	III	底石	砂岩		○	51.4	49.9	35.6	100.2
	533	1		D60	0003	2	茶褐色 R4	不明	IV-2	底石	砂岩			39.6	32.2	15.4	22.3
	534	1		D61	0005	2	茶褐色	不明	IV-2	底石	砂岩			61.0	47.7	10.6	40.2
	535	1		D62	0008	2	産貝	不明	III	底石	砂岩		鉄子?	34.6	14.1	12.4	6.4
	536	1		D71	0007	3		不明	II	底石	白雲母石英片岩			66.2	28.6	14.2	25.5
	537	1		D81	0015	2		不明	III	底石	緑泥片岩			65.3	27.2	8.0	23.4
	538	1		D92	0002	1		不明	表土	砂岩			一部欠損	68.3	64.3	36.6	162.1
	539	1		D95	0002	2	S3 産貝	不明	III	底石	砂岩			31.1	31.5	10.6	12.3
	540	1		E02	0003	2		不明	III	底石	砂岩			34.7	31.3	16.1	22.8
	541	1		E03	0008	2	産貝(?)	不明	I-2	底石	砂岩			91.8	70.7	17.8	132.5
	542	1		E04	0012	2	S1	不明	I-2	底石	砂岩			68.4	43.1	40.9	148.0
	543	1		E12	0004	2	産貝	不明	III	底石	砂岩			90.2	56.7	32.9	289.8
	544	1		E12	0012	4		不明	I-2	底石	軟質凝灰質砂岩			75.5	69.7	28.8	154.1
	545	1		E12	0013	4		不明	I-2	底石	砂岩			50.9	29.3	23.6	60.9
	546	1		E21	0001	1		不明	表土	砂岩				24.9	31.2	13.1	14.4
	547	1		E30	0008	2	S2	不明	II	底石	軟質砂質凝灰岩			75.5	30.3	19.8	42.1
	548	1		E42	0019	2	茶褐色	不明	I-2	底石	砂岩			67.5	66.2	31.2	195.5
	549	1		E43	0003	3	産貝	不明	I-2	底石	砂岩			78.9	51.2	20.0	100.9
	550	1		0006	表土			不明	表土	砂岩				98.8	85.7	24.4	200.1
	551	1		不明	0005	表土		不明	表土	軟質凝灰質砂岩				34.8	20.5	21.6	30.1
	552	1		不明	0008	表土		不明	表土	軟質凝灰質砂岩				30.8	37.1	19.6	33.6
	553	1		不明	不明	表土		不明	表土	軟質凝灰質砂岩	層様			63.4	54.3	41.6	123.9
	554	2		SF-2	0476	表土		不明	I-2	底石	軟質凝灰質砂岩			72.8	61.4	33.8	131.8
	555	2		ST	0067	表土		不明	底石?	石英砂岩				18.7	20.1	3.4	2.0
	556	2		ST	0002	表土		不明	表土	砂岩		○		37.1	16.0	10.9	8.1
	557	2		4T	0001	1		不明	表土	角閃岩				76.8	51.2	9.1	50.3
	558	2		9T	0001	表土		不明	表土	細粒緑色凝灰岩				38.8	25.3	9.5	12.2
	559	2		12T	0001	表土		不明	表土	緑泥片岩				59.1	53.8	16.7	79.5
	560	2		13T	0001	表土		不明	表土	トコロ石				41.6	24.5	6.7	7.9
	561	2		13T	0001	表土		不明	表土	緑泥片岩				52.3	41.8	6.5	21.3
	562	2		13T	0002	表土		不明	表土	ホルンフェルス				66.6	48.3	19.3	109.2
	563	2		13T	0002	表土		不明	表土	流紋岩				56.3	40.0	30.4	119.8
	564	1		A24	0004	2	産貝	不明	I-2	軽石製品				36.4	29.7	12.3	1.9
	565	1		A24	不明			不明	軽石製品	軽石				26.2	20.8	18.5	2.7
	566	1		A26	0009	4	産貝	不明	I-2	軽石製品		○		72.2	38.7	24.7	11.2
	567	1		A27	0017	4	上面	不明	I-2	軽石製品				35.2	31.1	19.7	5.9
	568	1		A45	不明	不明		不明	軽石製品	軽石				25.4	22.3	16.5	1.6
	569	1		A54	不明	不明		不明	軽石製品	軽石				13.7	12.8	9.6	0.4
	570	1		A74	0001	1		不明	表土	軽石製品				58.4	28.5	26.7	4.9
	571	1		B33	0014	4		不明	IV-1	軽石製品				61.8	55.8	30.5	14.0
	572	1		B34	0032	不明		不明	軽石製品	軽石				65.5	52.7	56.4	36.2
	573	1		B34	0032	不明		不明	軽石製品	軽石				37.8	33.6	21.4	5.1
	574	1		B36	不明	不明		不明	軽石製品	軽石				53.0	52.8	39.7	24.8
	575	1		B37	不明	不明		不明	軽石製品	軽石				103.5	62.2	44.2	80.5
	576	1		C69	不明	不明		不明	軽石製品	軽石				34.4	25.4	23.0	3.7
	577	1		C74	不明	不明		不明	軽石製品	軽石				54.9	50.0	27.7	16.6
	578	1		C74	不明	不明		不明	軽石製品	軽石				80.3	38.1	33.8	18.9
	579	1		C96	不明	不明		不明	軽石製品	軽石				46.7	34.2	25.7	9.6
	580	1		C98	0001	2		不明	IV-2	軽石製品				38.6	37.4	23.3	6.2
	581	1		D30	0005	3	R4	不明	IV-2	軽石製品				133.0	69.9	57.9	75.8
	582	1		D43	0002	2	茶褐色	不明	IV-2	軽石製品				100.7	61.1	60.3	110.2
	583	1		D45	不明	不明		不明	軽石製品	軽石				86.5	45.1	42.5	17.6
	584	1		D60	不明	不明		不明	軽石製品	軽石				43.6	26.6	12.7	2.0
	585	1		D60	不明	不明		不明	軽石製品	軽石				25.0	17.4	12.6	0.7
	586	1		D62	0014	4	産貝	不明	III	軽石製品				93.6	69.2	38.8	36.1
	587	1		D64	0010	4	産貝	不明	I-2	軽石製品				46.7	28.8	20.0	3.4
	588	1		D94	0018	2		不明	III	軽石製品				99.6	59.8	44.2	50.0
	589	1		不明	不明	不明		不明	軽石製品	軽石				41.7	37.7	17.3	6.4
	590	2		SF-2	0029			不明	I-2	軽石製品				68.6	44.3	32.8	25.8
	591	2		SF-2	0061			不明	I-2	軽石製品				33.3	19.9	10.6	1.4
	592	2		SF-2	0310			不明	I-2	軽石製品				14.1	12.4	8.1	0.3
	593	2		SF-2	0461			不明	I-2	軽石製品				15.7	13.2	12.1	0.5
	594	2		SF-2	0468			不明	I-2	軽石製品				19.4	14.0	12.9	0.9
	595	2		SF-6	0107	層土内		不明	I-2	軽石製品				16.4	13.0	13.6	0.6
	596	2		SF-6	0107	層土内		不明	I-2	軽石製品				28.5	37.8	18.2	4.3
	597	2		SF-6	0114	層土内		不明	I-2	軽石製品				62.2	42.5	19.1	11.9
	598	2		SF-6	0173	一括											

表12 (つづき)

採掘 No.	遺物 No.	調査 回数	旧採掘 No.	グリッド 遺構	取上 No.	取上 層位	層備考	段階	種別	石材	石材備考	被熱	遺存	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
601	2			4T	不明	不明		不明	軽石製品	軽石		○	破片か	35.7	30.2	22.4	11.7
602	2			7T	0002	一括		不明	軽石製品	軽石		○	完形	135.8	74.3	55.6	97.2
603	2			10T	0002	1		表土	軽石製品	軽石			完形	71.8	57.9	50.1	51.0
604	2			11T	0006	不明		不明	軽石製品	軽石	シラス		完形	47.7	28.6	18.1	6.7
605	2			11T	0008	A2下		I-2	軽石製品	軽石			全体的に研磨され、一部皿状に窪む	45.9	24.6	14.6	2.8
606	2			11T	0053	A2下		I-2	軽石製品	軽石			破片	20.3	17.0	12.4	1.4
607	2			13T	0003	表土		表土	軽石製品	軽石	シラス		完形	46.5	42.7	32.2	13.7
608	2			13T	0003	表土		表土	軽石製品	軽石	シラス		完形	42.6	27.0	16.8	2.3
609	1			SK015(A2)	0023	5		I-2	石株	軟質凝灰質泥岩			一層欠損、中央部で折損	180.0	33.2	25.1	166.6
610	1			SK015(A2)	0075	18		I-2	石株?	軟質凝灰質泥岩			一層欠損	52.2	28.5	26.8	29.6
611	1	97-54		A64	0002	1		表土	石株	緑色片岩		○	両端部欠損	54.9	34.9	29.0	100.0
612	1			B33	0016	4		IV-1	石株	点紋緑泥片岩		○	両端部欠損、片面欠損?	55.8	49.6	16.7	74.9
613	1			B35	0004	2	黄褐色	IV-2	石株	緑泥片岩			両端部欠損	49.6	38.4	18.4	54.8
614	1			C68	0008	不明		不明	石株	白雲母石英片岩		○	両端、表面の一部以外欠損	134.6	84.4	46.1	771.3
615	1			C78	0006	2	茶褐色	IV-2	石株	白雲母石英片岩		○	両端、表面の一部以外欠損	103.5	53.2	42.2	277.2
616	1			D71	0029	3		II	石株	白雲母石英片岩		○	全面欠損	110.1	48.4	30.5	183.1
617	1	97-53		D71	0029	3		II	石株	点紋緑泥片岩		○	両端部欠損	82.3	48.6	47.0	310.0
618	1			D75	0013	2	茶褐～黒褐	III	石株	粘板岩		○	両端、表面の一部以外欠損	76.8	39.2	12.5	32.0
619	1	97-56		E10	0005	3		II	石株	緑色岩		○	両端部欠損	86.0	36.7	24.7	135.0
620	1			不明	0026	不明		不明	石株	白雲母石英片岩			両端、表面の一部以外欠損	63.5	23.4	12.5	20.6
621	1			A04	0003	2	黒貝	III	石株?	粘板岩		○	表面が剥落	120.1	38.2	6.5	37.0
622	1			A27	0013	5	黒色	I-2	石株?	軟質凝灰質泥岩			両端部欠損	66.2	44.6	41.7	124.2
623	1			A84	0002	2		不明	石株?	粘板岩	2.7		一部を除いて欠損	45.1	11.9	6.9	3.1
624	1			C97	0004	3	黒貝	III	石株?	粘板岩		○	全面欠損	49.3	36.2	6.2	8.5
625	1			D62	0005	2	黒貝	III	石株?	軟質凝灰質泥岩			一層欠損	66.2	27.0	25.9	59.0
626	1			D62	0012	4	黒貝	III	石株?	軟質凝灰質泥岩			一層欠損	61.4	25.7	22.4	38.6
627	1			D82	0002	2	黒貝 黒色	III	石株?	白雲母石英片岩			一層欠損、表面一部剥落	59.0	16.0	13.7	22.7
628	2			SI-6	0021	層土内		I-2	石株	白雲母石英片岩			一層欠損	71.1	27.1	26.1	89.0
629	2			SI-6	0147	層土内		I-2	石株	緑泥片岩			破片	51.2	31.6	12.8	24.4
630	2			1T	0001	表土		表土	石株	緑泥片岩			基部欠損	99.7	38.9	30.2	150.6
631	2			2T	0066	2		III?	石株	緑泥片岩			両端部欠損	63.4	16.2	7.0	11.7
632	2			3T	0002	2		III?	石株	緑色片岩			破片	24.1	14.9	5.1	1.9
633	2			3T	0003	2c		IV-2	石株	ホルンフェルス			破片	39.8	22.6	5.3	3.9
634	2			13T	0001	表土		表土	石株	点紋緑泥片岩			破片	38.7	14.3	12.2	16.1
635	2			13T	0003	表土		表土	石株	白雲母石英片岩		○	両端部欠損	127.9	36.6	28.3	238.8
636	2			西貝層	不明			I-2	石株	粘板岩			破片	39.2	24.5	4.8	5.3
637	2			西貝層外	不明			不明	石株	点紋緑泥片岩		○	両端と二側面欠損	180.5	67.0	61.8	1030.4
638	2			東表	表土			表土	石株	石英凝灰岩			両端と片面欠損	45.3	83.2	62.7	380.8
639	7			表桜	10T付近	表土		表土	石株	点紋緑泥片岩		○	両端部欠損	67.3	33.4	16.1	60.5
640	1	99-65		C85	不明	不明		不明	垂飾?	緑泥片岩			破片	33.3	25.4	3.4	4.4
641	2			13T	0004	サブトレ		不明	垂飾	透閃石岩	2.96		完形	27.2	15.8	7.7	4.8
642	1			A64	0004	2		I-2	原石	滑石				58.8	58.6	21.2	66.1
643	2			13T	1.3.北貝層	サブトレ		不明	硯	粘板岩				71.6	46.6	10.2	173.9

w (12) 独鈷石 (第94図62)

第1次調査D75グリッドの耕作土から1点出土した。小澤氏により再実測及び計測等の観察がなされており、その実測図を転載する(小澤2011)。緑色岩の礫を素材とし、敲打・研磨により上下対称形の形態を作出する。括れ部を挟んだ一方の端部(図の下側)の両面ともう一方の端部(図の上側)の片面に窪みが認められる。

引用文献

小澤清男 2011「千葉県の独鈷石・独鈷石形土製品(3)―追加報告ならびに形態分類と編年的予察―」『貝塚博物館紀要』第38号 千葉市立加曽利貝塚博物館

(13) 垂飾 (第94図67、68)

4点出土しているが、出土層位が明確なものはない。67、68は10トレンチ付近の表採資料である。67はヒスイ製の完形品である。68はメノウ製で穿孔部で欠損している。

4 石器石材分析

肉眼および実体顕微鏡(20倍)で観察し、岩石種名を判定した。また、一部石器については比重を計測し、岩石種の判定基準に利用した。比重の計測方法はアルキメデスの原理を用いた。

(1) 各岩石の判定基準

1. 砂岩: 石英粒を主とする砂粒(粒径1/16~2mm)から構成される。
2. ホルンフェルス: 頁岩・粘板岩起源の接触変成作用を受けたもののみを対象とする。ほぼ同じ大きさの円もしくは楕円の模様(点紋: 堇青石・紅柱石・黒雲母)が一面に認められるもの、点紋は認められないが等粒状の微小な黒雲母で覆われているもの、割れ口の色が赤紫色を帯びているものなどある。頁岩・粘板岩とは連続的に変化するため明確に分けることができない場合がある。
3. 頁岩: 中・古生層起源のものを対象とする。極めて細粒の碎屑粒子である泥(粒径1/16mm~1/256mmのシルトおよび1/256mm以下の粘土)から構成される。暗灰色~黒色のものが多く、細粒で粒子が認められない。厳密には平らな面で割れる性質を有する泥岩を指すが、平らな面で割れる性質を有しない泥岩も含めることにする。

4. 粘板岩：頁岩と同じく、暗灰色～黒色で粒子が認められないが、薄く平に剥がれる性質が顕著なもの。変成岩に分類される場合が多い。
5. 硬質頁岩：褐色系の頁岩で、表面に少し透明感が認められ、灰色や赤褐色の円形微粒子が認められる。割れ口が鋭い。新潟県および山形県以北の日本海側地域に分布する岩石である。
6. 珪質頁岩：チャートに類似する緻密で硬質な岩石だが、チャートに比べ泥質感が認められ光沢は弱く、透明感はほとんど認められない。
7. チャート：泥質感・粒状感は全くなく、光沢および透明感が認められる。どちらかというといふ曇りガラスに類似する質感を有する。河原では角ばった形である場合が多い。
8. 硬質細粒凝灰岩（緑色凝灰岩類）：極めて細粒緻密で硬く、剥片を採ることができるような質感の緑色凝灰岩。
9. 軟質細粒緑色凝灰岩（緑色凝灰岩類）：灰緑色で泥質感があり柔らかな質感を呈する細粒緻密な凝灰岩。
10. 細粒緑色凝灰岩（細粒凝灰岩類；緑色凝灰岩類）：凝灰岩類の中で、構成粒子が細粒の砂岩～泥岩程度で、固結度は高いがやや泥質感が認められる。比重は2.64～3.08と非常に広い範囲に分布する。
11. 変質玄武岩（細粒凝灰岩類；緑色凝灰岩類）：細粒で長柱状の暗緑色の鉱物と明灰色の鉱物から構成され、玄武岩と判断されるが、全体に緑色を帯び、グリーンタフ変質を受けていると判断したもの。
12. 中粒緑色凝灰岩（中粒凝灰岩類；緑色凝灰岩類）：緑色を帯びた凝灰岩類の中で、構成粒子が砂粒ほどの粒子からなるもの。均質で丈夫なものが多い。
13. 変質安山岩（中粒凝灰岩類；緑色凝灰岩類）：安山岩の組織を示すが、グリーンタフ変質を受けていると判断したもの。
14. 粗粒緑色凝灰岩（緑色凝灰岩類）：緑色凝灰岩の中で構成粒子が2mm以上で礫岩程度の粒径と判断したもの。
15. 変質閃緑斑岩（変質ドレライト類）：長柱状の白い鉱物（無色鉱物）と暗緑色の鉱物（有色鉱物）から構成される。無色鉱物が主体を占めている。全体に緑色を帯びておりグリーンタフ変質作用を受けていると判断される。変質ドレライトとの判別が難しい場合がある。
16. 変質ドレライト（変質ドレライト類）：中粒凝灰岩程度の粒子の大きさだが、変質した長方形～柱状の有色鉱物および無色鉱物から構成されている。有色鉱物が主体を占めていると判断したもの。
17. 変質ハンレイ岩（変質ドレライト類）：粗粒の暗緑色および明灰色の鉱物から構成され、暗緑色の鉱物（有色鉱物）の方が多きことからハンレイ岩と判断されるが、全体に緑色を帯び、グリーンタフ変質を受けていると判断したもの。有色鉱物の比率が高いと判断したもの。
18. 黒曜石：黒色のほぼ火山ガラスから構成される流紋岩質火山岩で、ガラス光沢が明瞭で透明感がある。極めて鋭い割れ口を示す。無色透明に近いもの、赤みを帯びるもの、明灰色で不透明なものもある。
19. 流紋岩： SiO_2 が70%以上の火山岩。色は白色もしくは明灰褐色で、少量の石英の斑晶が認められるものが多い。
20. 石英斑岩：石英の大きな斑晶が点在する優白質岩。茶褐色を帯びているものが多い。流紋岩との判別が難しい場合があるが、石英斑晶の量で区別する。
21. デイサイト：安山岩に類似し安山岩との肉眼のみでの判別は困難であるが、斑晶の有色鉱物が極端に少ないものをデイサイトとした。

22. トロトロ石（ガラス質デイサイト）：茨城男体山を構成する鉄分を多く含むガラス質なデイサイト。アイスランドイトと呼ばれる特殊な岩石である。礫面には灰色の風化層が認められる。新鮮な割れ口は平滑で黒く、斑晶もほとんど認められない。鋭い割れ口を示す。遺物として出土するときは厚い灰色の風化層に覆われていることが多い。
23. ガラス質黒色安山岩：斑晶の少ないガラス質な黒色の火山岩。鋭い割れ口を示す。風化すると、表面は褐色となり小さな凹凸が生じ摩擦が大きくなる。
- a) 大洗海岸産：黒みがやや弱い。割れ口の光沢も他のガラス質黒色安山岩に比べると弱く、少しざらついた感じに見える。礫面に半弧状の細い衝突痕のあるものが多い。斑晶は少なく、割れ面は平滑である。比重は風化していないものは2.72～2.75、風化した遺物では2.66～2.75の範囲に分布する。
24. 安山岩：火山岩を示す斑状組織を呈し、斑晶に斜長石および輝石もしくは角閃石が認められる。
25. 多孔質安山岩：火山岩を示す斑状組織を呈しているが、火山ガスの抜けた孔が全面に分布する。
26. 富士玄武岩：かんらん石の斑晶が認められる暗灰色の火山岩で、多孔質のものが多いが気泡のほとんど認められないものもある。相模川で採取可能であり、富士山起源と推定される。多孔質安山岩との判別は困難な場合がある。
27. アプライト：優白質でほぼ同じ大きさの石英と長石から構成される。花崗岩に似るが、少し細粒である事と黒雲母など有色鉱物がほとんど認められない点が異なる。
28. 花崗岩：優白質で粗粒でほぼ同じ大きさの石英・長石から主に構成され、少量の黒雲母など有色鉱物が存在する。
29. 閃緑岩：粗粒で等粒状。有色鉱物（角閃石の場合が多い）と斜長石の結晶から構成される。量的には斜長石が主で角閃石が従と明らかに判断できるもの。粗粒で、角張った斜長石・角閃石などの集合体であるため、摩擦の大きな石材である。
30. 白雲母石英片岩：板状の石英が重なるように配列し、その間に白雲母の層が存在するが、極薄いかほとんど認められないものもある。板状に割れる性質が顕著である。
31. 緑色岩：玄武岩・ドレライト・ハンレイ岩などいわゆる苦鉄質岩起源で変成度の低い変成岩。緑色で緑色凝灰岩との判別は難しい場合がある。磨くと光沢が認められる点は緑色凝灰岩との違いと言える。
32. 緑色片岩：緑色の結晶片岩で片理が明瞭である。構成粒子が細粒なものに用いる。
33. 緑泥片岩（緑泥片岩類）：緑色で明瞭な片理が認められ、薄く平らな面で剥がれる性質が顕著である。緑色片岩の一種だが、やや粗粒なものを緑泥片岩とする。
34. 点紋緑泥片岩（緑泥片岩類）：緑泥片岩の中で、白い曹長石の点紋が多く認められるもの。板状に割れる性質が顕著である。
35. 透閃石岩：透閃石（トレモライト）から構成される、淡帯緑白色～灰緑色で、磨くと明瞭な光沢を生ずる。肉眼的には色と明瞭な光沢、曲がりくねった繊維状組織が目安となる。従来、蛇紋岩と判定されてきたが、比重およびX線回折による分析から、蛇紋岩ではなく透閃石岩であることが明らかとなっている。比重は2.85～3.00の範囲に分布する。
36. 蛇紋岩：蛇紋石から構成され、黄緑色や緑色から暗緑色を呈し、柔らかく磨くと容易に光沢を示す。透閃石岩との判別は難しいが、比重で判別することができる。比重は2.85未満である。
37. 角閃岩：暗緑色柱状の角閃石が方向性をもって平行に配列する。角閃石集中部分と斜長石集中部分が黒

白の層として配列している。全体として暗緑色を呈する。時に塊状の外観を示すものもある。

38. 玉髄質岩：割れ口など新鮮な面は淡褐色や淡緑色を帯びた、メノウ・碧玉と類似する珪質な岩石であり、割れ口の表面には細かな凹凸のあるものが多い。半透明な部分と不透明な部分が縞状になっているものが多い。礫表面付近に褐色の風化層が形成されている。千葉県内などで白滝頁岩と呼ばれるものが該当するが、白滝頁岩の産地試料とは礫の形状および質感が大きく異なるものである。

39. 石英：無色透明もしくは曇りガラスのような半透明を呈する。割れた面には小さな凹凸があり、強いガラス光沢が認められる。メノウとの判別は難しい場合がある。

40. 水晶：石英の中で透明度が極めて明瞭なものに用いる。

41. メノウ：石英に類似するが、乳白色で光沢が明瞭で、肌理が大変細かい。石英やチャートとの判別は困難な場合がある。

42. 碧玉：鉄など不純物の混入した玉髄。日本海側地域などで鉄石英と呼ばれることがあるが、石英ではなく玉髄に鉄分が混入し赤色や黄色に色づいた物を示す。赤色を赤色碧玉もしくは赤玉石、黄色を黄色碧玉もしくは黄玉石と呼ばれることが多い。

43. 滑石：淡帯緑灰色～淡帯褐灰色を呈し、極めて柔らかい。傷がつきやすく、傷ついた部分は白く粉をかぶったようになる。

44. 褐鉄鉱砂岩：褐鉄鉱が砂粒粒子を結合している砂岩。木下層中に存在する。

45. 軟質凝灰質砂岩（軟質岩類）：粒子間の結合が弱く、砂粒粒子が分離しやすい砂岩。上総層群もしくは三浦層群の可能性が高いと推定される。

46. 軟質凝灰質泥岩（軟質岩類）：粗粒の泥であるシルトから構成され、固結度のやや低いシルト岩。上総層群もしくは三浦層群の可能性が高いと推定される。

47. 軟質火山礫凝灰岩（軟質岩類）：軽石礫を多く含む固結度のやや低い凝灰岩。上総層群もしくは三浦層群の可能性が高いと推定される。

48. 軽石：白く、著しく発泡し気泡の発達した流紋岩。水に浮くものが多い。

（２）器種ごとの構成岩石種（表 13・表 14・第 95 図）

以下において、硬質細粒凝灰岩・軟質細粒緑色凝灰岩・細粒凝灰岩類・中粒凝灰岩類・粗粒凝灰岩を緑色凝灰岩類、変質閃緑斑岩・変質ドレライト・変質ハンレイ岩を変質ドレライト類、緑泥片岩・点紋緑泥片岩を緑泥片岩類、軟質凝灰質砂岩・軟質凝灰質泥岩・軟質火山礫凝灰岩を軟質岩類とまとめた岩石種名を基本として用いる。

1. 打製石斧（17 点）

砂岩が 7 点 41.2%、ホルンフェルスが 5 点 29.4% と最も多く、他に緑色凝灰岩類が 2 点、頁岩・粘板岩・安山岩が各 1 点である。砂岩とホルンフェルスが主要な石材と言える。

〈他地域遺跡との構成岩石種の比較〉（表 15・第 95 図）

君津市の寺ノ代遺跡、佐倉市の後期 2 遺跡（井野長割遺跡・吉見台遺跡）、松戸市の下水遺跡、鎌ヶ谷市の中沢貝塚、横浜市港北ニュータウンの中期 3 遺跡（大高見遺跡・加賀原遺跡・権田原遺跡）と比較する。

寺ノ代遺跡においてホルンフェルスの比率が飛び抜けて高い点を除けば、他地域の遺跡においてもほぼ類似した構成岩石種を示し、ホルンフェルスおよび砂岩が主体を占め、その合計比率は 60% 前後とほぼ同じと言える。ただ、本遺跡では緑色凝灰岩類が 2 点 11.8% 認められる点および安山岩が 1 点のみと極少ない点は、

下総台地北部の他遺跡との違いと言える。また、緑色凝灰岩類が2点認められる点を含め横浜市の3遺跡を合計した比率と類似している。横浜市3遺跡の位置する港北ニュータウンは、多摩川および古相模川である鶴見川に近い遺跡であり、砂岩およびホルンフェルスは多摩川、緑色凝灰岩類は鶴見川で採取した石材と推定される。本遺跡の打製石斧は、横浜市方面から東京湾を横断して供給された可能性の高いことを指摘しておきたい。

表13 器種別岩石種一覧

	打製石斧	磨製石斧	磨石	磨石・敲石	磨石類	敲石	凹石	石皿	砥石	石棒	独鈷石	石鏃	石鏃未成品	尖頭器	楔形石器	削器	石錐	石匙	二次加工ある剥片	剥片	碎片	石核	玉	軽石製品	硯	原石	総計
砂岩	7	2	33			44	1	7	44																		138
ホルンフェルス	5	1	4			9			1	1										2		1					24
頁岩	1					2			1										1	1							6
粘板岩	1									5									2						1		9
硬質頁岩																1	2		1	4		2					10
珪質頁岩											2								1	3		1					7
チャート			1		4		1				11	1		3					12	19	1	36					89
硬質細粒凝灰岩																1						1					2
軟質細粒緑色凝灰岩																				1							1
細粒緑色凝灰岩			1						1											1		1					4
変質玄武岩									1																		1
中粒緑色凝灰岩			1			2																					3
変質安山岩			1	3																							4
粗粒緑色凝灰岩				1																							1
変質閃緑斑岩			3																								3
変質ドレライト			6	2		1	4																				13
変質ハンレイ岩				1																							1
黒曜石												14						1	3	1		1					20
流紋岩			3			6			1																		10
石英斑岩			34		1	26		1	1	1																	64
デイサイト									1																		1
トロトロ石									1																		1
ガラス質黒色安山岩												5		1						1		2					9
安山岩	1		13	1		3	1	11	2																		32
多孔質安山岩			2				2	17																			21
富士玄武岩								1																			1
アブライト								1																			1
花崗岩				3			1																				4
閃緑岩				1																							1
白雲母石英片岩								1	1	7																	9
緑色岩			5							2	1																8
緑色片岩										3																	3
緑泥片岩									12	5													1				18
点紋緑泥片岩										6																	6
透閃石岩																							1				1
蛇紋岩		1																			1						2
角閃岩										2																	2
玉髓質岩																				3	12		2				17
ヒスイ																							1				1
石英																						1					1
水晶												1															1
メノウ																1			3			3	2				9
碧玉																							1				1
滑石																										1	1
褐鉄鉱砂岩				1																							1
軟質凝灰質砂岩									7	12	1																20
軟質凝灰質泥岩						1			4	4																	9
軟質火山礫凝灰岩								1																			1
軽石																									47		47
総計	17	19	102	1	2	101	5	49	84	35	1	33	1	1	3	1	4	1	26	46	1	52	5	47	1	1	639

2. 磨製石斧 (19 点)

変質ドレライト類が 9 点 47.4% と最も多く、次いで緑色岩が 5 点 26.3% と多い。他に砂岩が 2 点、ホルンフェルス・緑色凝灰岩類・蛇紋岩が各 1 点である。変質ドレライト類や緑色岩と言う比重の大きな石材が多いと言える。変質ドレライト類は新潟県北部の奥三面遺跡方面の石材と推定される。緑色岩はその岩相および形態から、埼玉県秩父方面と新潟県南西部の糸魚川方面の両方が存在すると推定される。

〈他地域遺跡との構成岩石種の比較〉(表 16・第 95 図)

君津市寺ノ代遺跡、佐倉市の 3 遺跡 (吉見台遺跡・井野長割遺跡、宮内井戸作遺跡)、印西市の馬場遺跡、松戸市の貝の花貝塚・下水遺跡、鎌ヶ谷市の中沢貝塚と構成岩石種と比較する。

遺跡により各構成岩石種の比率的な多少は認められるが、全ての遺跡でほぼ共通した石材を用いていると言える。本遺跡においては透閃石岩が認められない点、変質ドレライト類の比率が高い点が特徴と言える。印西市の馬場遺跡と類似する傾向が認められる。

柴田 2010 によれば、下総台地地域において砂岩とホルンフェルスは縄文時代中期に多いが後晩期には減少し、変質ドレライト類・緑色岩・透閃石岩は中期より後晩期に増加する傾向が指摘されている。本遺跡においても同様な傾向が認められると言える。

ところで石材産地であるが、変質ドレライト類は新潟県北部の奥三面遺跡群方面、緑色岩・透閃石岩は新潟県南西部の糸魚川市から富山県の方面と推定される。緑色岩は埼玉県西部の秩父方面でも産するが、本遺跡における 1 点は岩相から秩父方面と推定した。

3. 磨石類 (206 点)

磨石および敲石と判定されたものを合わせ、磨石類とした。

砂岩が 77 点 37.4% と最も多く、次いで石英斑岩が 61 点 29.6%、安山岩が 17 点 8.3% と多い。以上 3 種で 155 点 75.2% を占める。他にホルンフェルスが 13 点、流紋岩が 9 点、変質ドレライト類が 8 点、緑色凝灰岩類が 6 点、チャートが 5 点、花崗岩が 3 点、頁岩・多孔質安山岩が各 2 点、閃緑岩・軟質岩類・その他が各 1 点である。なお、変質ドレライト類の岩相は磨製石斧とは異なるものである。変質ドレライト類・緑色凝灰岩類は、岩相から神奈川県内で多く出土するものと同じと推定される。

〈他地域遺跡との構成岩石種の比較〉(表 17・第 95 図)

寺ノ代遺跡、佐倉市の後期 2 遺跡 (井野長割遺跡・吉見台遺跡)、松戸市の下水遺跡、鎌ヶ谷市の中沢貝塚、横浜市港北ニュータウンの中期 3 遺跡 (大高見遺跡・加賀原遺跡・権田原遺跡) と比較する。

基本的な傾向として、本遺跡においても下総台地北部の遺跡においても、砂岩・石英斑岩・安山岩が主要な石材であり、補助的に多孔質安山岩・花崗岩・閃緑岩などが使われていると言える。下総台地北部の遺跡に比べ本遺跡において、砂岩と石英斑岩の比率が高く、安山岩の比率が低く、チャートおよび流紋岩が認められる点を指摘することができる。横浜市の遺跡では緑色凝灰岩類と閃緑岩・ハンレイ岩の比率が高く、安山岩の比率は低く、石英斑岩は認められない点で本遺跡を含めた下総地域の遺跡とは大きく異なる。

石英斑岩・安山岩・多孔質安山岩は渡良瀬川もしくは鬼怒川産の可能性が考えられるが、佐倉市の遺跡で石英斑岩の比率が低く、安山岩の比率が高い点を考えると、石英斑岩は渡良瀬川、安山岩は鬼怒川および渡良瀬川を舟で運ばれた可能性が高いと推定される。砂岩は多くの川で採取可能だが、舟での移動を考慮すると多摩川産の可能性が高いと推定される。

4. 石皿 (49 点)

多孔質安山岩が 17 点 34.7% と最も多く、次いで安山岩が 11 点 22.4%、軟質岩類が 8 点 16.3%、砂岩が 7 点 14.3% と多い。以上 4 種で 43 点 87.8% と大半を占める。他にチャート・緑色凝灰岩類・石英斑岩・富士玄武岩・白雲母石英片岩・その他が各 1 点である。

多孔質安山岩に代表されるように摩擦の大きな石材が選択される傾向を認めることができる。

(他地域遺跡との構成岩石種の比較) (表 18・第 95 図)

寺ノ代遺跡・佐倉市の後期 2 遺跡 (井野長割遺跡・吉見台遺跡)、松戸市の下水遺跡、鎌ヶ谷市の中沢貝塚、横浜市港北ニュータウンの中期 3 遺跡 (大高見遺跡・加賀原遺跡・権田原遺跡) の 3 遺跡と比較する。

下総台地北部の遺跡とは、多孔質安山岩と安山岩が基本的な構成岩石種である点で類似するが、閃緑岩・緑泥片岩類が認められない点、軟質岩類が認められる点は明瞭な相違点と言える。軟質岩類は寺ノ代遺跡で多く出土しており、本遺跡との共通点と言える。

安山岩および多孔質安山岩は渡良瀬川および鬼怒川で採取可能であるが、いずれであるかは現時点では限定できない。白雲母石英片岩および緑泥片岩類は三波川変成帯の石材であり、縄文時代の利根川もしくは入間川を經由し千葉県地域に搬入された石材である。

5. 砥石 (84 点)

砂岩が各 44 点 52.4% と最も多く、次いで軟質岩類が 16 点 19.0%、緑泥片岩類が 12 点 14.3% と多い。他に安山岩・角閃岩が各 2 点、ホルンフェルス・頁岩・緑色凝灰岩類・流紋岩・石英斑岩・デイサイト・トロトロ石・白雲母石英片岩が各 1 点である。

(他地域遺跡との構成岩石種の比較) (表 19・第 95 図)

下水遺跡および中沢貝塚と比較する。

下水遺跡および中沢貝塚では、ほぼ 90% とほとんどが砂岩から構成されている。本遺跡では、砂岩が 60% 程度と最も主要な石材である点では同じであるが比率が低い点、緑泥片岩類および軟質岩類が多い点は他の遺跡と異なる点と言える。

6. 石棒 (35 点)

緑泥片岩類 11 点 31.4% と最も多く、次いで白雲母石英片岩が 7 点 20.0%、粘板岩・軟質岩類が各 5 点 14.3% と多い。他に緑色片岩が 3 点、緑色岩が 2 点、ホルンフェルス・石英斑岩が各 1 点である。

白雲母石英片岩や緑泥片岩類に代表されるように、板状に割りやすい石材が選択される傾向が明らかである。

白雲母石英片岩や緑泥片岩類は三波川変成帯の石材であり、埼玉県西部の都幾川上流域から荒川中流域の長瀬付近、さらに群馬県南西部の鎗川の南側に分布する。軟質岩類は房総半島中部地域を構成する上総層群や三浦層群を構成する岩石である。白雲母石英片岩や緑泥片岩類製石棒は、都幾川上流など埼玉県西部もしくは群馬県南西部地域で製作されたものと推定される。粘板岩は、関東地方では関東山地・足尾山地・八溝山地、東北地方では北上山地などに分布する。粘板岩で石棒を製作する遺跡は茨城県北部で報告されているが、本遺跡の粘板岩製石棒が茨城県北部産とは断定できない。

7. 石鏃 (33 点)

黒曜石が 14 点 42.4%、チャートが 11 点 33.3% と多い。他にガラス質黒色安山岩が 5 点 15.2%、珪質頁岩が 2 点、水晶が 1 点である。

(他地域遺跡との構成岩石種の比較) (表 20・第 95 図)

ガラス質黒色安山岩を除けば、下総台地北部の下水遺跡や中沢貝塚と類似する岩石種構成を示している。ガラス質黒色安山岩は大洗海岸産と推定され、縄文時代の東京湾側では珍しく、香取市多田遺跡など古鬼怒湾に面した遺跡で多く認められる。また、君津市の寺ノ代遺跡においては黒曜石が大半を占める事を考えると、黒曜石とチャートが主体だがガラス質黒色安山岩も多い本遺跡の構成岩石種は、特別な様相を呈していることを指摘しておきたい。

8. 二次加工のある剥片 (26点)

チャートが12点46.2%と最も多く、次いで黒曜石・玉髄質岩・メノウが各3点、粘板岩が2点、頁岩・硬質頁岩・珪質頁岩が各1点である。鋭い割れ口を示す石材から構成されていると言える。

9. 剥片 (46点)

チャートが19点41.3%と最も多く、次いで玉髄質岩が12点26.1%と多い。他に硬質頁岩が4点、珪質頁岩が3点、ホルンフェルスが2点、頁岩・硬質細粒凝灰岩・細粒凝灰岩類・黒曜石・ガラス質黒色安山岩・蛇紋岩が各1点である。蛇紋岩を除くと、全て鋭い割れ口を示す石材から構成されていると言える。

10. 石核 (52点)

チャート類が36点69.2%と最も多く、他にメノウが3点、硬質頁岩・ガラス質黒色安山岩・玉髄質岩が各2点、ホルンフェルス・珪質頁岩・硬質細粒凝灰岩・細粒凝灰岩類・黒曜石・石英・碧玉が各1点である。鋭い割れ口を示す石材から構成されていると言える。

11. その他の石器

a) 剥片石器類 (表21)

尖頭器は1点であるが大洗海岸産のガラス質黒色安山岩、楔形石器は3点であるがチャート、削器は1点であるが硬質頁岩、石錐は4点であるが硬質頁岩2点、硬質細粒凝灰岩1点、メノウ1点、石匙の破片は1点であるが黒曜石である。

メノウとガラス質黒色安山岩は茨城県中・北部、硬質頁岩は東北地方日本海側、石匙の破片の黒曜石は霧ヶ峰産と推定される。

b) 玉類 (5点) (表21)

メノウが2点、緑泥片岩・透閃石岩・ヒスイが各1点である。

透閃石岩は、従来蛇紋岩とされることの多かった石材であり、千葉県内においても縄文時代後晩期の磨製石斧に多く認められる石材である。また玉類にも使われる石材である。比重が2.96であり、正に透閃石岩の比重範囲に位置し、蛇紋岩でないことは明らかである。磨製石斧や玉類に使われるほどの大きさや岩相の透閃石岩およびヒスイは、糸魚川周辺地域産と推定される。メノウは茨城県北部の久慈川中流域もしくは万田野礫層産と推定される。

(3) 礫の構成岩石種 (表22・23)

706点観察した。点数ではチャートが190点26.9%と最も多く、次いで砂岩が137点19.4%、流紋岩が118点16.7%、石英斑岩が85点12.0%と多い。以上4種で530点75.1%を占める。次いでホルンフェルスが38点5.4%、石英が23点3.3%、安山岩が21点3.0%、頁岩が20点2.8%、緑色凝灰岩類が17点2.4%と多い。他に珪質頁岩・変質ドレライト類・ガラス質黒色安山岩・花崗岩・閃緑岩・白雲母石英片岩・緑泥片岩類・褐鉄鉱砂岩・石英・メノウ・赤玉石である。

重量で比較すると、石英斑岩が25.3%と最も多くなり、次いで砂岩が22.5%、チャートが16.6%、流紋岩

表14 出土点数が多い器種ごとの構成岩石種

	打製石斧	磨製石斧	磨石	穀石	石皿	砥石	石棒	石鏃	二次加工のある剥片	剥片	石核
砂岩	7 41.2%	2 10.5%	33 31.4%	44 43.6%	7 14.3%	44 52.4%					
ホルンフェルス	5 29.4%	1 5.3%	4 3.8%	9 8.9%		1 1.2%	1 2.9%			2 4.3%	1 1.9%
頁岩	1 5.9%			2 2.0%		1 1.2%			1 3.8%	1 2.2%	
粘板岩	1 5.9%						5 14.3%		2 7.7%		
硬質頁岩									1 3.8%	4 8.7%	2 3.8%
珪質頁岩								2 6.1%	1 3.8%	3 6.5%	1 1.9%
チャート			1 1.0%	4 4.0%	1 2.0%			11 33.3%	12 46.2%	19 41.3%	36 69.2%
硬質細粒凝灰岩											1 1.9%
軟質細粒凝灰岩											1 2.2%
細粒凝灰岩			5 3%			1 1.2%				1 2.2%	1 1.9%
変質玄武岩					1 2.0%						
中粒凝灰岩	1 5.9%			2 2.0%							
変質安山岩	1 5.9%		3 2.9%								
粗粒凝灰岩			1 1.0%								
変質閃緑岩		3 15.8%									
変質トセライト類		6 31.8%	3 2.9%	4 4.0%							
変質ハンレイ岩			1 1.0%								
黒曜石								14 42.4%	3 11.5%	1 2.2%	1 1.9%
流紋岩			3 2.9%	6 5.9%		1 1.2%					
石英斑岩			35 33.3%	26 25.7%	1 2.0%	1 1.2%	1 2.9%				
デイサイト						1 1.2%					
トロロ石						1 1.2%					
ガラス質黒色安山岩								5 15.2%		1 2.2%	2 3.8%
安山岩	1 5.9%		14 13.3%	3 3.0%	11 22.4%	2 2.4%					
多孔質安山岩			2 1.9%		17 34.7%						
富士玄武岩					1 2.0%						
アフライト					1 2.0%						
花崗岩			3 2.9%								
閃緑岩			1 1.0%								
白雲母石英片岩					1 2.0%	1 1.2%	7 20.0%				
緑色岩		5 26.3%					2 5.7%				
緑色片岩							3 8.6%				
緑泥片岩						12 14.3%	5 14.3%				
点紋緑泥片岩							6 17.1%				
蛇紋岩		1 5.3%								1 2.2%	
角閃岩						2 2.4%					
玉髓質岩								3 11.5%	12 26.1%	2 3.8%	
石英											1 1.9%
水晶								1 3.0%			
メノウ								3 11.5%			3 5.8%
碧玉											1 1.9%
榍石			1 1.0%								
軟質凝灰質砂岩					7 14.3%	12 14.3%	1 2.9%				
軟質凝灰質泥岩				1 1.0%		4 4.8%	4 11.4%				
軟質火山凝灰岩					1 2.0%						
軽石											
総計	17 100%	19 100%	105 100%	101 100%	49 100%	84 100%	35 100%	33 100%	26 100%	46 100%	52 100%

表15 打製石斧

	山野貝塚	寺ノ代遺跡	佐倉市2遺跡	下水遺跡	中沢貝塚	横浜市3遺跡
砂岩	7 41.2%	1 5.9%	9 20.0%	10 16.9%	22 10.9%	37 13.9%
片状砂岩					1 1.7%	1 0.5%
ホルンフェルス	5 29.4%	13 76.5%	18 40.0%	26 44.1%	81 40.1%	134 50.4%
頁岩	1 5.9%		3 6.7%	4 6.8%	14 6.9%	10 3.8%
粘板岩	1 5.9%			1 1.7%	3 1.5%	4 1.5%
緑色凝灰岩類	2 11.8%	1 5.9%		2 3.4%	2 1.0%	36 13.5%
石英斑岩				2 3.4%		
安山岩	1 5.9%		9 20.0%	6 10.2%	46 22.8%	
トセライト						1 0.4%
緑泥片岩類			4 8.9%	6 10.2%	7 3.5%	3 1.1%
その他		2 11.8%	2 4.4%	1 1.7%	26 12.9%	5 1.9%
総計	17 100%	17 100%	45 100%	59 100%	202 100%	266 100%

表16 磨製石斧

	山野貝塚	佐倉市3遺跡	馬場遺跡	貝の花貝塚	下水遺跡	中沢貝塚
砂岩	2 10.5%	28 10.4%			1 2.8%	2 4.5%
ホルンフェルス	1 5.3%	12 4.4%			1 2.8%	
頁岩		3 1.1%			1 2.8%	
緑色凝灰岩類	1 5.3%	7 2.6%				
変質トセライト類	9 47.4%	83 30.7%	16 64.0%	11 30.6%	2 18.2%	9 20.5%
石英斑岩		2 0.7%				
安山岩		3 1.1%	1 4.0%			
閃緑岩		1 0.4%			1 2.8%	
緑色岩	5 26.3%	22 8.1%	1 4.0%	9 25.0%	3 27.3%	7 15.9%
蛇紋岩	1 5.3%	3 1.1%				
透閃石岩		43 15.9%	4 16.0%	4 11.1%	2 18.2%	22 50.0%
翡翠輝石岩		24 8.9%		3 8.3%	3 27.3%	
角閃岩		32 11.9%	3 12.0%	2 5.6%		3 6.8%
その他		7 2.6%		3 8.3%	1 9.1%	1 2.3%
総計	19 100%	270 100%	25 100%	36 100%	11 100%	44 100%

表17 磨石類

	山野貝塚	寺ノ代遺跡	佐倉市2遺跡	下水遺跡	中沢貝塚	横浜市3遺跡
砂岩	77 37.4%	11 16.2%	17 13.5%	18 32.1%	84 26.3%	10 17.5%
ホルンフェルス	13 6.3%			1 1.8%	11 3.4%	1 1.8%
頁岩	2 1.0%			2 3.6%		
チャート	5 2.4%			2 3.6%		1 1.8%
緑色凝灰岩類	6 2.9%		1 0.8%	3 5.4%	7 2.2%	24 42.1%
変質玄武岩						
変質トセライト類	8 3.9%					5 8.8%
流紋岩	9 4.4%	1 1.5%				
石英斑岩	61 29.6%	12 17.6%	8 6.3%	9 16.1%	46 14.4%	
安山岩	17 8.3%	9 13.2%	59 46.8%	12 21.4%	118 36.9%	2 3.5%
多孔質安山岩	2 1.0%	2 2.9%	23 18.3%	1 1.8%	15 4.7%	1 1.8%
花崗岩	3 1.5%	3 2.9%	3 2.4%	5 8.9%	15 4.7%	
閃緑岩	1 0.5%	2 2.9%	6 4.8%	2 3.6%	9 2.8%	8 14.0%
珪礬岩		3 4.4%			4 1.3%	5 8.8%
緑色岩		1 1.5%	2 1.6%	1 1.8%	3 0.9%	
緑泥片岩類			1 0.8%		1 0.3%	
軟質岩類	1 0.5%	24 35.3%				
その他	1 0.5%		6 4.8%		7 2.2%	
総計	206 100%	68 99%	126 100%	56 100%	320 100%	57 100%

佐倉市2遺跡:吉見台遺跡・井野長割遺跡
 佐倉市3遺跡:吉見台遺跡・井野長割遺跡・宮内井戸遺跡
 横浜市2遺跡:大高見遺跡・加賀原遺跡・権太山遺跡(縄文時代中期)

表18 石皿

	山野貝塚	寺ノ代遺跡	佐倉市2遺跡	下水遺跡	中沢貝塚	横浜市3遺跡
砂岩	7 14.3%	3 9.7%	5 10.8%	2 4.5%	5 4.9%	2 15.4%
チャート	1 2.0%					
緑色凝灰岩類	1 2.0%					
頁岩	1 2.0%		1 2.1%		3 2.9%	
安山岩	11 22.4%		5 10.6%	6 13.6%	14 13.6%	1 7.7%
多孔質安山岩	17 34.7%	9 29.0%	20 42.6%	23 52.3%	49 47.6%	3 23.1%
富士玄武岩	1 2.0%	1 3.2%				4 30.8%
花崗岩			1 2.1%	1 2.3%	2 1.9%	
閃緑岩			3 6.4%	3 6.8%	3 2.9%	3 23.1%
白雲母石英片岩	1 2.0%			1 2.3%		
緑泥片岩類			5 10.6%	2 4.5%	18 17.5%	
黒雲母片麻岩			6 12.8%		2 1.9%	
軟質凝灰岩類	8 16.3%	18 58.1%				
その他・不明	1 2.0%		1 2.1%	6 13.6%	7 6.8%	
総計	49 100%	31 100%	47 100%	44 100%	103 100%	13 100%

表19 砥石

	山野貝塚	下水遺跡	中沢貝塚
砂岩	44 52.4%	28 87.5%	19 86.4%
ホルンフェルス	1 1.2%	1 3.1%	2 9.1%
頁岩	1 1.2%		
粘板岩		1 3.1%	
緑色凝灰岩類	1 1.2%		
安山岩	2 2.4%		1 4.5%
緑泥片岩類	12 14.3%	1 3.1%	
軟質岩類	16 19.0%	1 3.1%	
その他	7 8.3%		
総計	84 100%	32 100%	22 100%

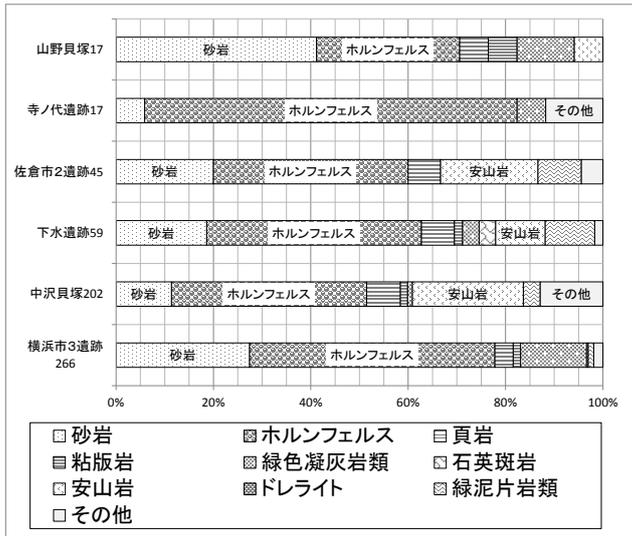
表20 石鏃

	山野貝塚	寺ノ代遺跡	多田遺跡	下水遺跡	中沢貝塚
ホルンフェルス			6 6.1%		
珪質頁岩	2 6.1%		2 2.0%		
チャート	11 33.3%	1 5.3%	30 30.3%	13 52.0%	20 41.7%
黒曜石	14 42.4%	15 78.9%	6 6.1%	10 40.0%	15 31.3%
ガラス質黒色安山岩	5 15.2%		32 32.3%		1 2.1%
水晶	1 3.4%				
メノウ			12 12.1%	1 4.0%	
その他		3 15.8%	11 11.1%	1 4.0%	12 25.0%
総計	33 100%	19 100%	99 100%	25 100%	48 100%

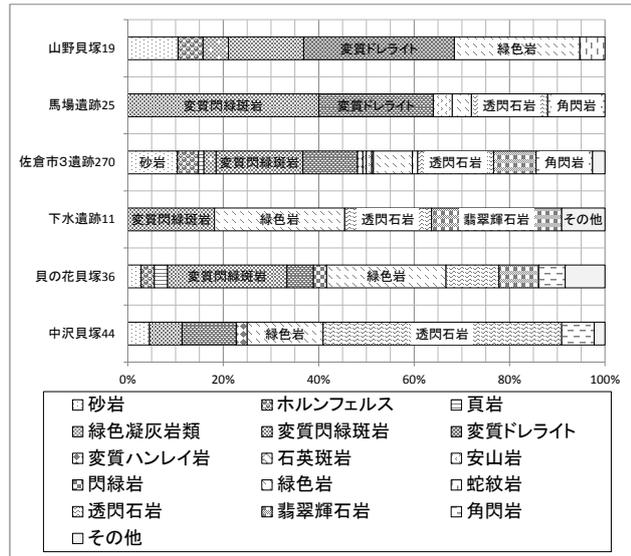
表21 剥片石器・玉類・軽石

	ナイフ形石器	尖頭器	楔形石器	削器	石鏃	石砧	玉	軽石製品
硬質頁岩				1	2			
チャート			3					
緑色凝灰岩類					1			
黒曜石						1		
ガラス質黒色安山岩	1							
緑泥片岩類							1	
透閃石岩							1	
ヒスイ							1	
玉髓質岩								47
メノウ	1				1		2	
軽石								47
総計	1	1	3	1	4	1	5	47

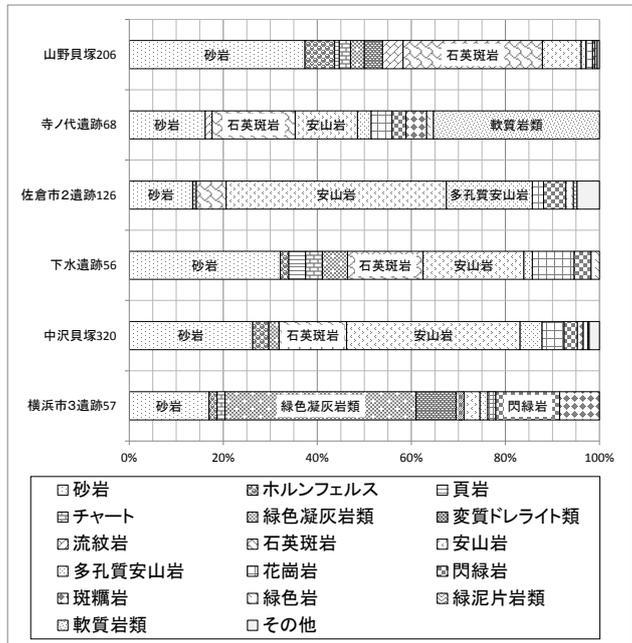
打製石斧



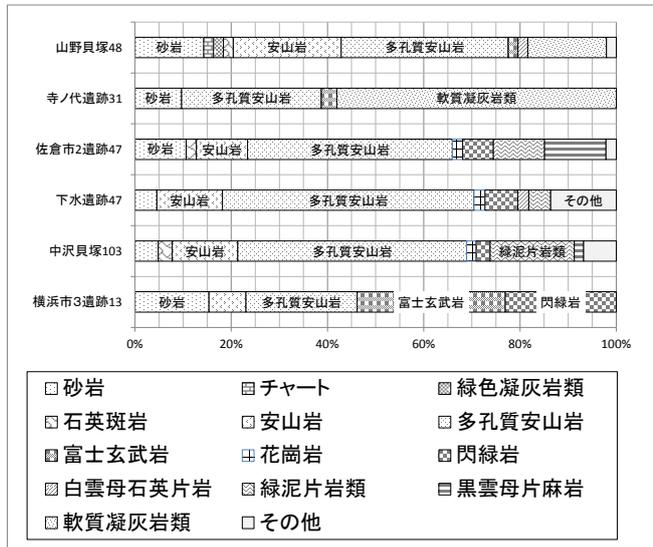
磨製石斧



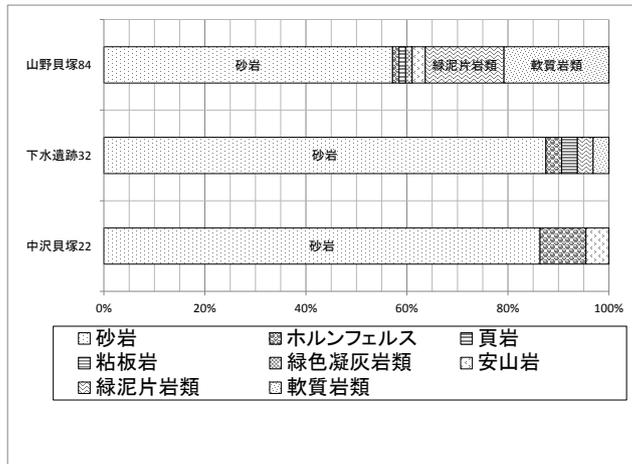
磨石類



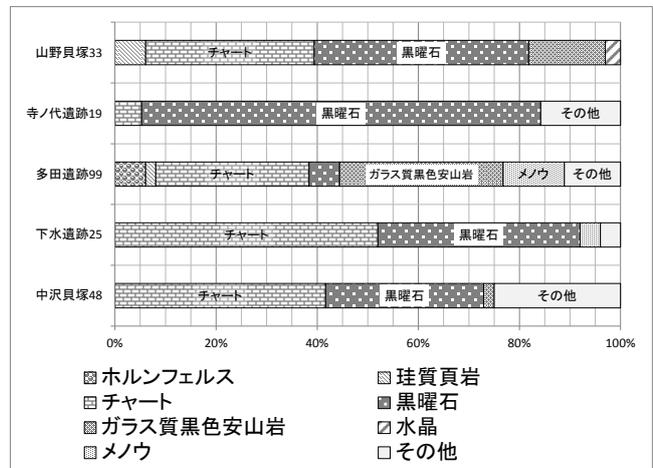
石皿



砥石



石鎌



第95図 石器器種別構成岩石種比較 (点数比)

が 13.3% となる。石英斑岩が点数のときの 2 倍強と比率が大きく増加するのに対し、チャートは点数の 60% 程度と大きく減少する。

礫と判定された石材は何処で採取されたものだろうか。遺跡近くで礫を採取出来る場所でまず思い浮かぶのが万田野礫層である。

以前調査した万田野礫層の構成岩石種および田中大介氏が採集した袖ヶ浦市の松川上流地点の河原 30cm 四方内の礫の構成岩石種と遺跡出土礫を比較した。なお、松川上流地点の礫の供給源は万田野礫層と推定される。ただ、松川上流地点の礫はその表面のほとんどを黒くコーティングされており、岩石種判定は著しく困難であり、その結果、判定精度は低いものとならざるをえなかった。また、松川上流地点の礫の中にはセメント様の物質やタール様の物質が付着したりしたものがあり、現代に使われた礫の混入も認められた。さらに、現代の瓦片も 1 点認められ、現代の流入礫の存在も疑われる。

- 1) 万田野礫層構成礫と比べると、石英斑岩の比率が著しく高い点、また礫 1 個あたりの重量も砂岩・チャート・流紋岩に比べ、石英斑岩が重い点も異なる。
- 2) 松川上流地点の礫には石英斑岩が認められない点、流紋岩・チャートの比率が著しく高い点、砂岩の比率が低い点、完全に円磨されたメノウ礫が存在する点などから、岩石種判定の困難さを考慮すると万田野礫層起源の可能性の高いことが明らかとなった。
- 3) 石英斑岩の岩相は、磨石・敲石のものに類似し、下総台地北部地域で出土するものと良く似ている。もともとは磨石・敲石として渡良瀬川中流域から運び込まれたものである可能性がある。石英斑岩以外にも、大きな礫は遠方の他地域からの搬入品である可能性がある。
- 4) 万田野礫層の礫の重量は、数 g 台であるものが主体であり、大きくても数十 g 程度と推定される。松川上流地点の礫の重量は 10g 以下のものが 85 点 63.4% と主体で、50g 以下では 124 点 92.5% と大半を占めている。本遺跡出土礫には 50g を越えるものが多く、構成礫 1 個の重量分布が万田野礫層等とは大きく異なると言える。
- 5) 出土礫中に完形礫で数十 g 以下の円礫が認められ、これらは万田野礫層起源と推定される。
- 6) 遺跡出土礫の起源を明らかにするために松川上流地点を調査した結果、小さな礫については採取可能である事が明らかとなったが、大きな礫については採取が困難であることが明らかとなった。特に、石英斑岩・砂岩は遠隔地からの搬入品である可能性が高いとの結果となった。

(4) まとめ

各石器・礫に使われる岩石種の検討から以下の事が明らかとなった。

- 1) 各器種ごとの主要な構成岩石種は、打製石斧は砂岩・ホルンフェルス・緑色凝灰岩類、磨製石斧は変質ドレライト類・緑色岩、磨石類は砂岩・石英斑岩・安山岩、敲石は砂岩・石英斑岩、石皿は多孔質安山岩・安山岩・砂岩・軟質岩類、砥石は砂岩・緑泥片岩類・軟質岩類、石棒は緑泥片岩類などの結晶片岩・粘板岩、石鏃は黒曜石・チャート・ガラス質黒色安山岩である。
- 2) 下総台地の他の遺跡と、各器種の基本的な構成岩石種は類似していることが明らかとなった。ただ、詳しく見ると、打製石斧では緑色凝灰岩類が存在する点、磨製石斧では透閃石岩が存在しない点、磨石では石英斑岩の比率が高く安山岩の比率が低い点、石皿では軟質岩類が存在する点、砥石では砂岩の比率が低く緑泥片岩・軟質岩類が存在する点、石鏃ではガラス質黒色安山岩が多く認められる点など異なる点が認められた。

表22 構成礫每個数・重量表

	山野貝塚礫				万田野礫層礫				袖ヶ浦市松川上流地点礫						
	点数	総重量 g	1個あたり重量 g		点数	重量 g	1個あたり重量 g		点数	重量 g	1個あたり重量 g				
砂岩	137	19.4%	12418.68	22.5%	90.65	148	14.8%	391.8	8.6%	2.6	7	5.2%	82.8	4.2%	11.8
頁岩	20	2.8%	1065.3	1.9%	53.27	60	6.0%	212.1	4.7%	3.5					
珪質頁岩	1	0.1%	127.41	0.2%	127.41										
チャート	190	26.9%	9181.85	16.6%	48.33	415	41.5%	2452.8	53.8%	5.9	56	41.8%	878.7	45.0%	15.7
ホルンフェルス	38	5.4%	2536.22	4.6%	66.74	9	0.9%	46.5	1.0%	5.2					
硬質細粒凝灰岩	1	0.1%	17.22	0.0%	17.22										
細粒緑色凝灰岩	6	0.8%	879.6	1.6%	146.60										
変質玄武岩	1	0.1%	31.1	0.1%	31.10										
中粒緑色凝灰岩	3	0.4%	796.96	1.4%	265.65										
変質安山岩	3	0.4%	368.77	0.7%	122.92										
粗粒緑色凝灰岩	3	0.4%	423.25	0.8%	141.08										
変質ドレライト類	1	0.1%	32.68	0.1%	32.68										
流紋岩	118	16.7%	7344.63	13.3%	62.24	258	25.8%	1019.8	22.4%	4.0	56	41.8%	872.1	44.6%	15.6
石英斑岩	85	12.0%	13954.88	25.3%	164.18	9	0.9%	18.7	0.4%	2.1					
ガラス質黒色安山岩	5	0.7%	456.47	0.8%	91.29										
安山岩	21	3.0%	2188.83	4.0%	104.23						7	5.2%	65.7	3.4%	9.4
アプライト	2	0.3%	498.37	0.9%	249.19										
花崗岩	1	0.1%	12.41	0.0%	12.41										
閃緑岩	1	0.1%	103.92	0.2%	103.92										
白雲母石英片岩	2	0.3%	3.72	0.0%	1.86										
緑泥片岩類	3	0.4%	70.03	0.1%	23.34										
褐鉄鉱砂岩	6	0.8%	263.75	0.5%	43.96										
軟質砂岩	11	1.6%	837.45	1.5%	76.13										
軟質砂質凝灰岩	3	0.4%	248.17	0.4%	82.72										
軟質泥岩	8	1.1%	257.56	0.5%	32.20										
軟質泥質凝灰岩	1	0.1%	59.38	0.1%	59.38										
石英	23	3.3%	722.52	1.3%	31.41	57	5.7%	188.6	4.1%	3.3					
メノウ	7	1.0%	167.18	0.3%	23.88						1	0.7%	2.5	0.1%	2.5
赤玉石	5	0.7%	128.25	0.2%	25.65										
その他・不明						43	4.3%	228.8	5.0%	5.3	7	5.2%	52.3	2.7%	7.5
合計	706	100%	55196.6	100%		999	100%	4559.1	100%		134	100%	1954	100%	14.4

表23 袖ヶ浦市松川上流地点採集礫岩種毎重量範囲度数分布表

重量範囲 g	チャート	流紋岩	砂岩	安山岩	石英片岩	メノウ	不明	合計	
0.1~5.0	26	21	2	3			1	3	56
5.1~10.0	9	14	3	1	1			1	29
10.1~15.0	6	6		1				1	14
15.1~20.0	2	4	1	1				1	9
20.1~25.0	3	1		1					5
25.1~30.0		2							2
30.1~35.0	1	3							4
35.1~40.0	1								1
40.1~45.0	1		1						2
45.1~50.0	1	1							2
50.1~55.0	1								1
55.1~60.0	1								1
60.1~65.0	1								1
65.1~70.0									0
70.1~75.0		1							1
75.0~80.0	2								2
80.1~85.0		2							2
85.1~90.0									0
90.1~95.0	1								1
95.1~100.0									0
100.1~105.0									0
105.1~110.0		1							1
点数	56	56	7	7	1	1		6	134
合計重量 g	878.7	872	82.8	65.7	9.6	2.5	42.7		1954
平均重量 g	15.7	15.6	11.8	9.4	9.6	2.5	7.1		14.4

3) 打製石斧は、下総台地北部では東京湾対岸の武蔵野台地との関わりが推定されるが、本遺跡では緑色凝灰岩類の存在から現在の横浜市付近との関わりが推定された。

4) 磨製石斧は、下総台地北部の遺跡と同じく、200km以上も離れた新潟県村上市付近や糸魚川市付近との関わりが推定された。点数は少ないが秩父地方との関わりも認められた。

5) 磨石類は、下総台地北西部の遺跡と同じく東京湾対岸の多摩川および当時の東京湾に流れ込む渡良瀬川中流域との関わりが推定された。

6) 石皿は、渡良瀬川もしくは鬼怒川流域および埼玉県西部～群馬県南西部地域との関わりが推定される点で他の下総台地の遺跡と共通するが、房総半島を構成する石材である軟質岩類が目立つ点で異なり、本遺跡の特徴と言える。

7) 石棒は埼玉県西部から群馬県南西部地域との関わりが推定される点で、下総台地の他の遺跡と類似する。軟質岩類の存在から房総半島中部地域との関わりが認められる点で異なると言える。

8) 石鏃は、大洗海岸との関わりが認められる点で、下総台地北西部の遺跡とは異なると言える。

9) 礫は、小さな礫は遺跡近くの河川で採取可能なことは推定されたが、大きな礫は近くでは採取が難しい事が明らかとなった。磨石と類似する岩相のものが多く、必ずしも本遺跡近くで採取したものとは限らない。この点については今後の課題と考える。

以上述べたように、本遺跡には多くの場所の石材が搬入されていることが推定された。石材から見ると、自給自足の生活では無く広い地域とのネットワークをもった生活をしてきたことが見えてきた。

参考文献

柴田 徹 1999「第2項 使用石材について」『市立市川考古博物館研究調査報告 第7冊 向台貝塚資料図譜』p.95～101 市立市川考古博物館

柴田 徹 2003「鎌ヶ谷市内の縄文時代遺跡から出土した石器の石材について」『鎌ヶ谷市史研究』第16号 p.102～132 鎌ヶ谷市教育委員会

柴田 徹 2004「第2節縄文時代 2 遺物(7) 石器の石材と産地」『千葉県の歴史 資料編 考古4(遺跡・遺構・遺物)』p.412～423 千葉県

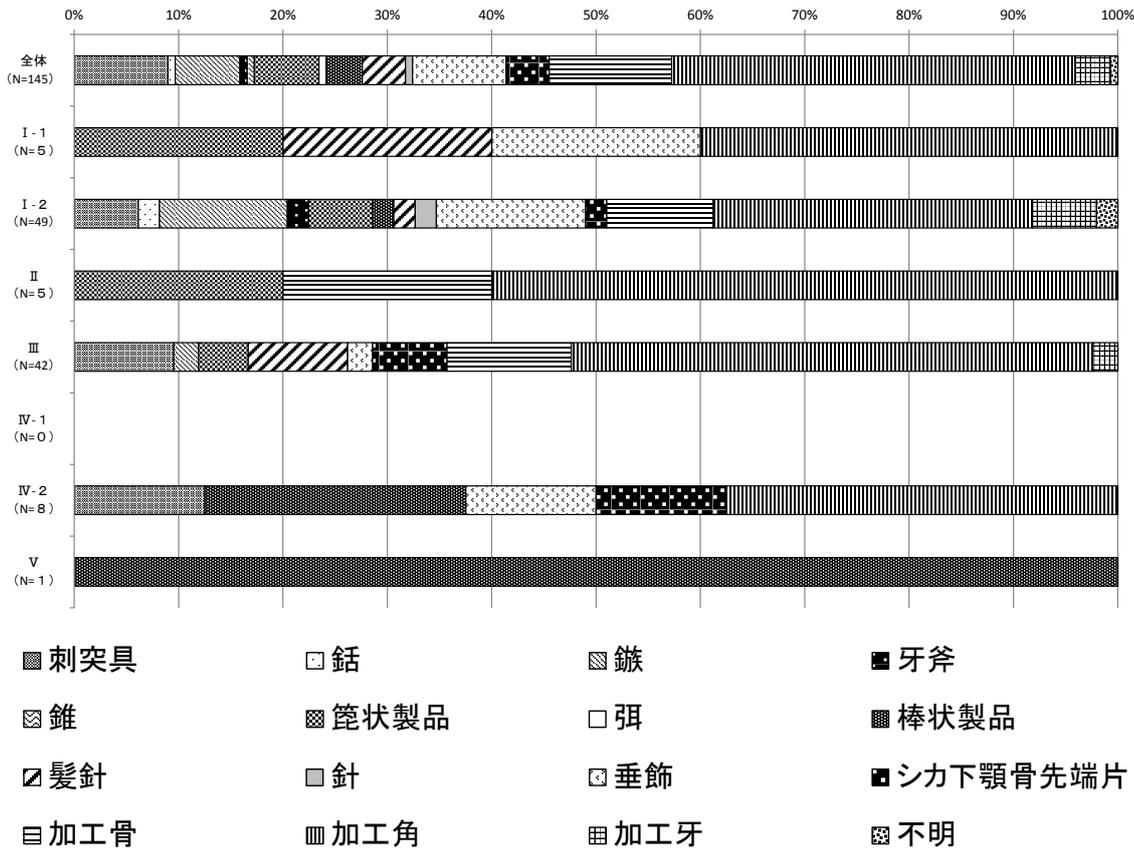
柴田 徹 2004「3. 石器に使われている石材について」『千葉県松戸市 下水遺跡第1地点発掘調査報告書』p.267～276 松戸市遺跡調査会

柴田 徹 2009「比重を加味した岩石種判定基準の提案」『松戸市立博物館紀要』第16号 p.1～19 松戸市立博物館

堀越正行 2014「第2章 縄文時代」『佐倉市史 考古編(本編)』p.73～177 佐倉市

4 骨角歯牙製品(第96～100図)

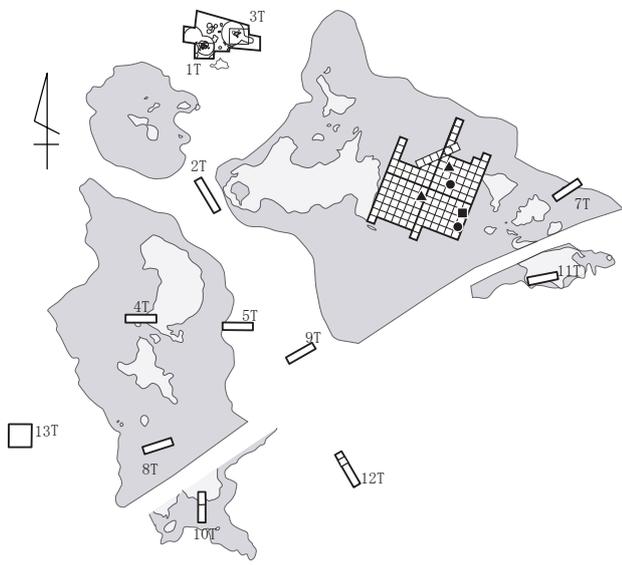
現地採集資料で、145点検出された。内訳は、刺突具をはじめとする実用品が35点、垂飾、棒状加工品等の装飾品が25点、未成品(一部製品も含まれる)が84点、不明1点である。実測遺物は50点であるが、実測以外の遺物も含めて個別の観察事項を一覧表に記載している。段階別の出土状況をみると、貝層形成以前のⅠ-1段階で第1次調査範囲の東側に偏って検出される傾向にある。続くⅠ-2段階、Ⅲ段階では検出数が多くなる。Ⅰ-2段階は第1次調査区のA、Eグリッドを中心に、第2次調査の4、8、10トレンチからも検出される。実用品、装飾品ともに多い。一方、Ⅲ段階では第1次調査範囲のC、Dグリッドを中心



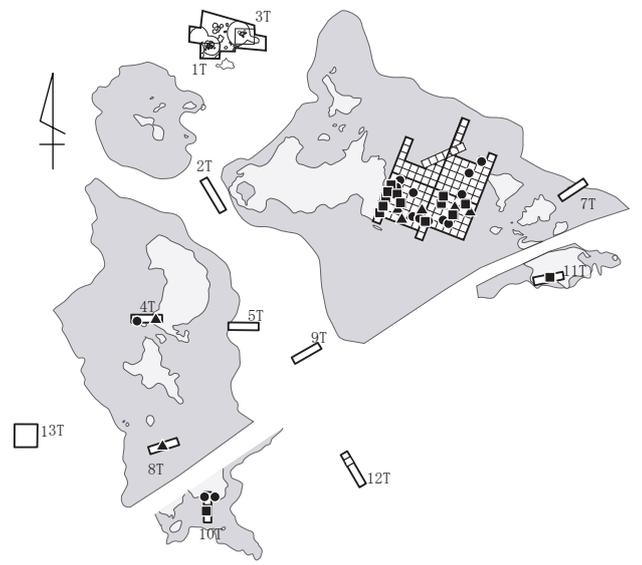
第96図 段階別骨角歯牙製品出土点数比

に検出され、特にDグリッドの北側に集中する傾向にある。また、第2次調査の10トレンチでも検出されている。I-2段階に比べると未成品が多くなる傾向にある。IV-2段階では検出例が少なくなるが、エイ尾棘製の刺突具と棒状加工品が検出された。V段階では棒状加工品1点のみが検出された。以下、個別に観察事項を記載する。

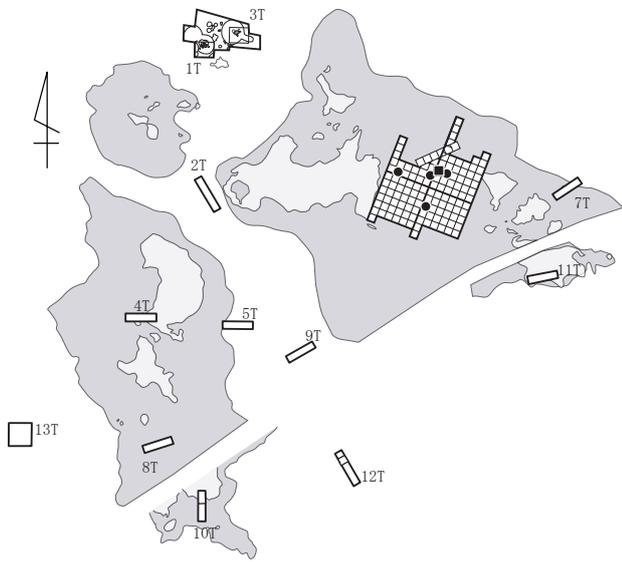
1~8は鏃で、8以外はI-2段階で検出されている。その他に未実測の骨鏃1点が検出されているが出土層位不明である。検出された鏃は、素材、形態、大きさが多様である。1、2は無茎で、それ以外は有茎である。3、4は断面形が円形で体部と茎部の長さが等しくなる。5は茎部が欠損するが、体部の長さが長く著しく研磨され黒色化する。6は断面形が扁平で体部と茎部の長さが等しい。7、8は大型品で茎部に比べ体部が著しく大きくなる。9はイノシシ牙製の刺突具であろうか。縦位に割かれた犬歯を素材とし、全面に研磨が施され両端が尖る。10~17はヤス状刺突具である。10~12はエイ尾棘を素材とする。10は両端が欠損し、基部側には茎部が作出されたようである。11、12は先端部側が欠損する。基部は細長く加工される。13~16は哺乳類の四肢骨を素材とし、17は鹿角とみられる。13は横断面が隅丸三角形形状を呈するのに対し、その他の横断面は比較的偏平な形となる。いずれも小型であるが、全面が著しく研磨される。特に16の先端部は著しく研磨され鋭く、光沢を帯びる。I-2段階で3点、III段階で2点、IV-2段階で1点、出土層位不明が2点検出されているが、素材や大きさは様々である。18は鋸頭である。先端部は欠損し、基部から最下段の逆刺の一部が残る。全面的に細かな単位の横位、斜位研磨により横断面が円形を呈する形態を作出する。逆刺は、最下段の1箇所しかみられないが、短軸方向の反対側にもやや挟りの痕跡が認



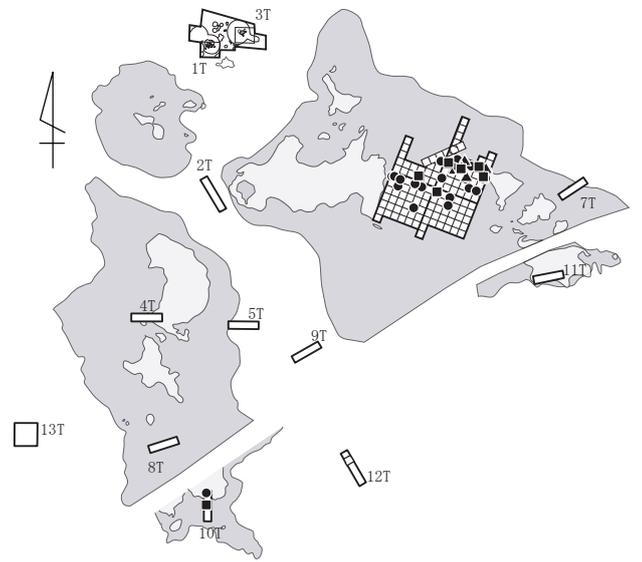
I-1 段階



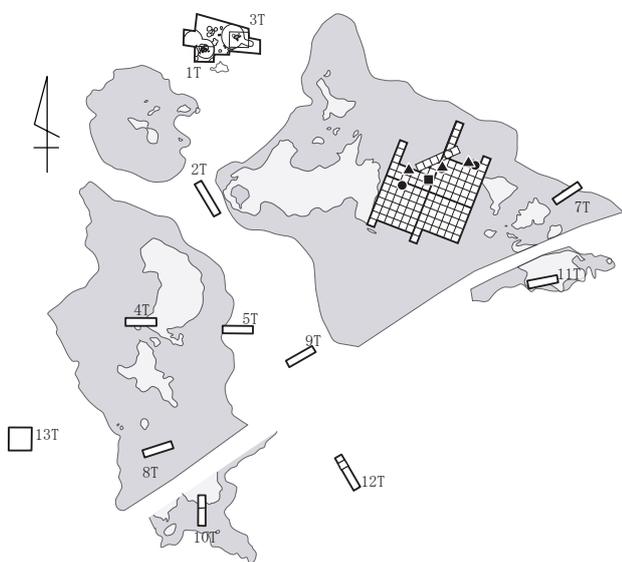
I-2 段階



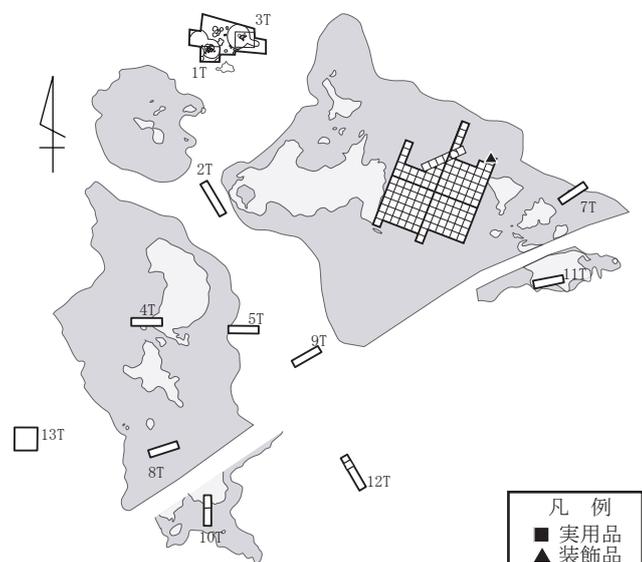
II 段階



III 段階



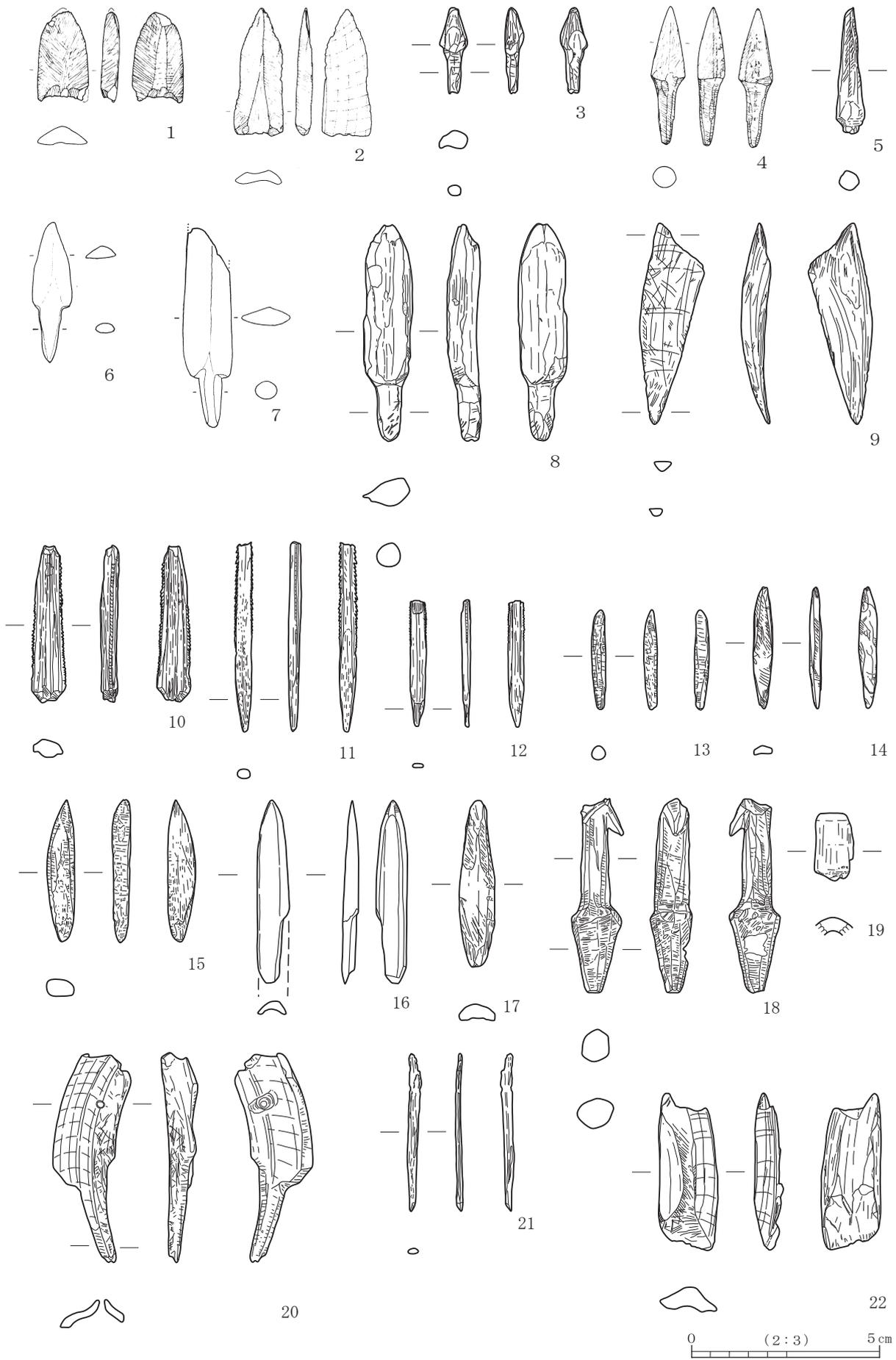
IV-2 段階



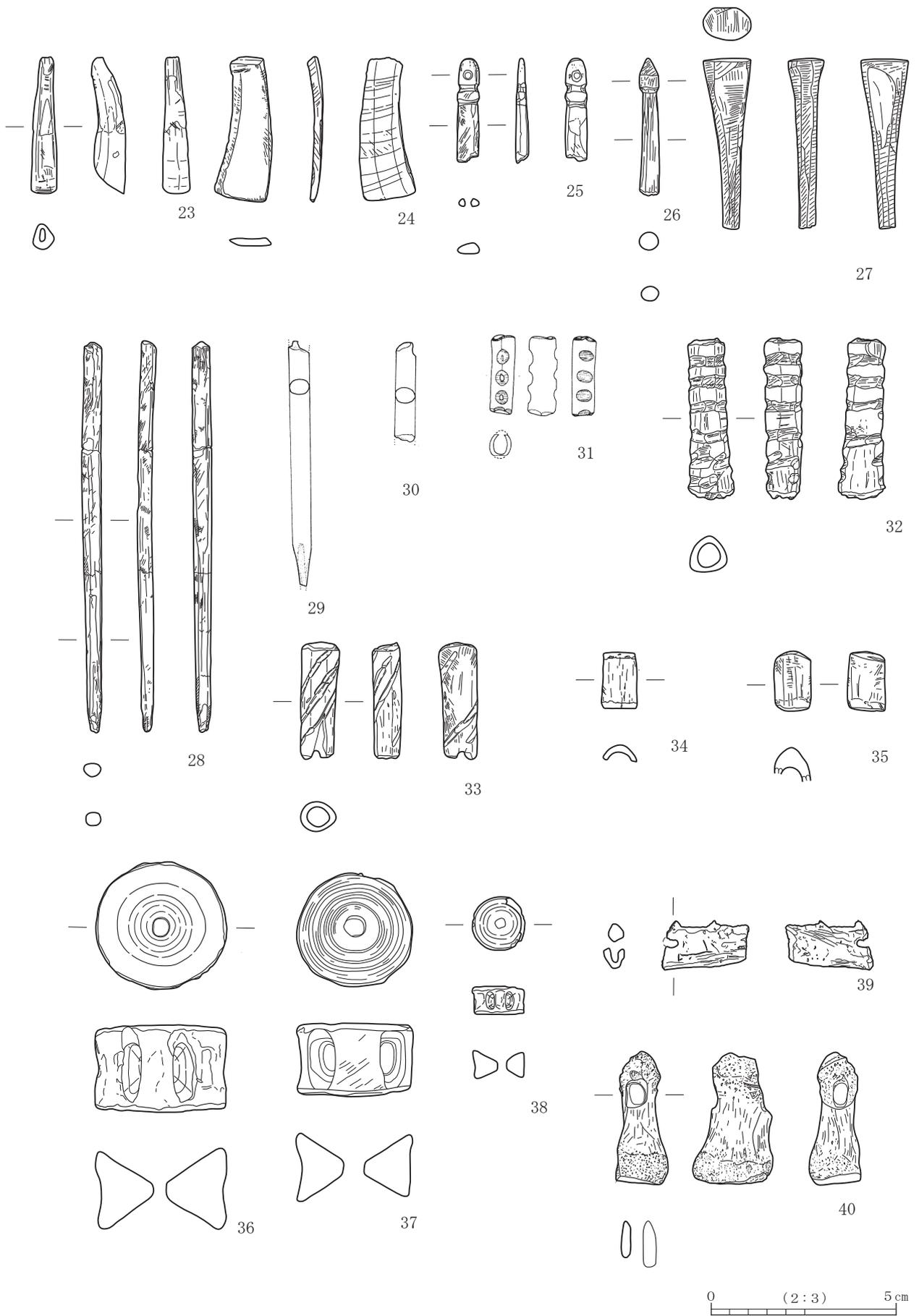
V 段階



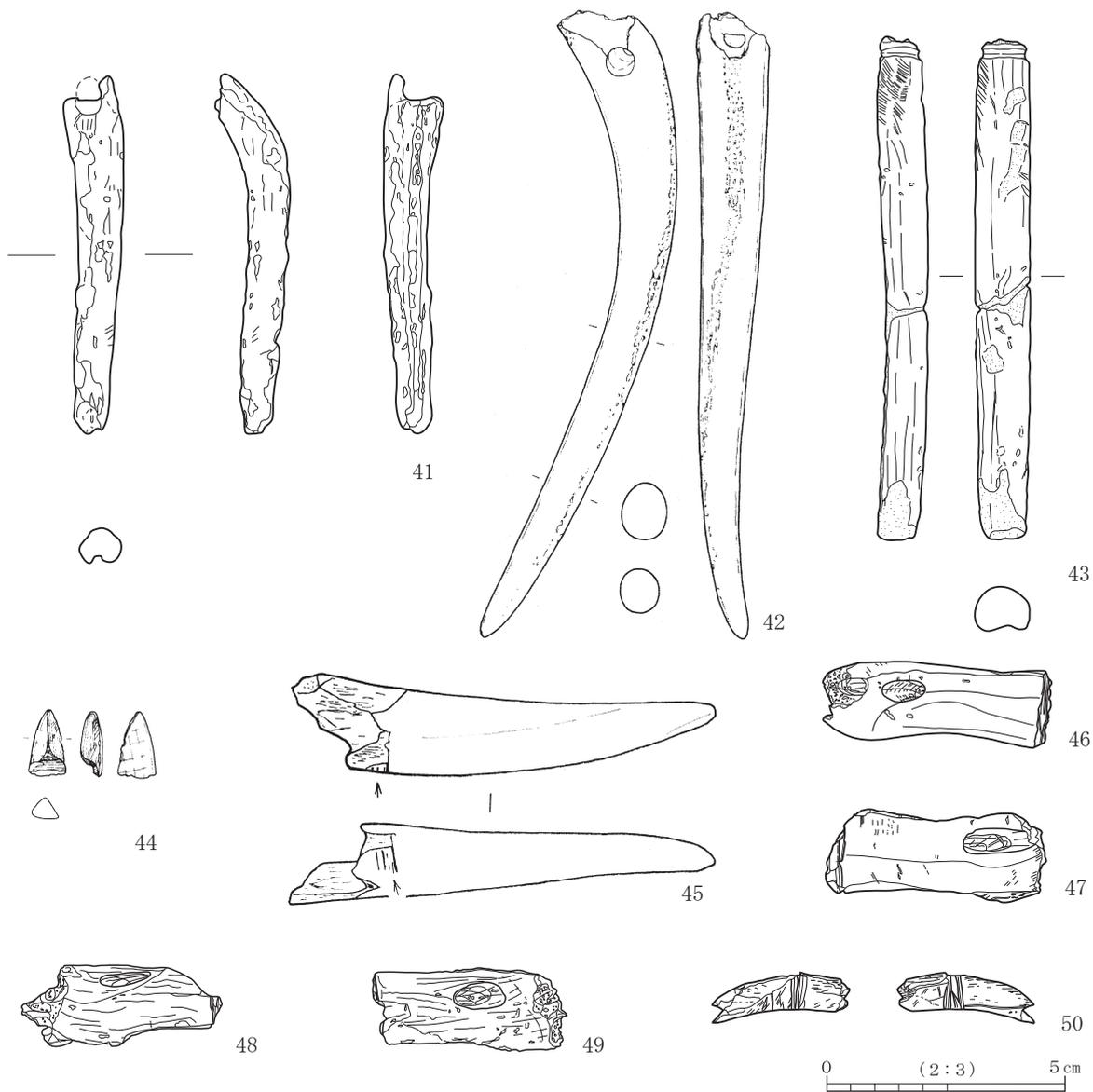
第97图 骨角齒牙製品分布图



第98图 骨角齿牙製品実測图 (1)



第99图 骨角齿牙製品実測図(2)



第100図 骨角歯牙製品実測図（3）

められるため、やや高さを違えて短軸方向の両側に逆刺が作出されたものと考えられる。19は弭の破片と考えられる。一端は残存しており、もう一端に向かい緩やかに広がり、端部に括れを有する。20は錐である。イノシシの犬歯を素材とし、先端部側に両側からの抉りにより先頭部を作出する。表面の左側の先端部以外にエナメル質が残存し、右側には荒い線条痕が認められる。上部の稜線に内面から穿孔が施される。21は針と考えられる。哺乳類の細い扁平な骨が素材か。上部側に左右2対の抉りが施される。22は牙斧である。イノシシの犬歯を素材とし、擦り切りにより半截した表面を研磨し、一端に刃部を作出する。23、24はヘラ状製品である。23はイノシシの切歯を素材とし、切縁側を平坦に研磨し、研磨面に縦、横位の線条痕が顕著にみられる。根側の先端も磨滅する。24はイノシシの犬歯を素材とし、縦横擦り切り後、縁辺を研磨し、撥形の形態を作出する。図上下端の広がった方の縁辺は平坦に研磨される。25～30は髪針と考えられる。25、26は上端部に加工が施される破片である。ともに鹿角を素材とする。25は、扁平な形態を呈し、穿孔と2条の括れが施される。26はこけし形で、先端部は斜方向の調整により尖頭状を呈する。27はシカ

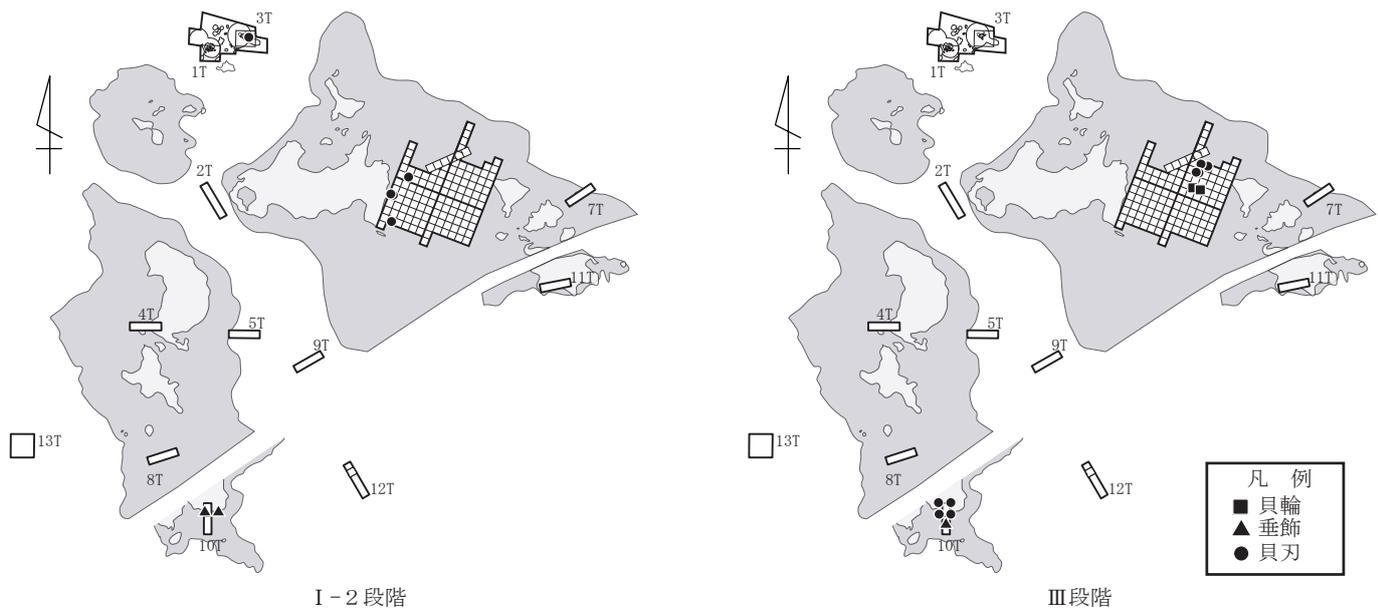
表24 骨角歯牙製品属性表

挿入 No.	遺物 No.	調査 回数	旧挿入 No.	遺構 グリッド	取上 No.	取上 層位	層備考	段階	器種	素材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	観察事項
98	1	2	36-2	表採	表採			不明	骨角織	鹿角	(24.5)	13.7	4.5	1.2	有茎と考えられ、基部欠損
98	2	2	36-1	11T	2			I-2	骨織	イノシシ牙	34.8	13.3	3.5	1.2	基部側に擦り切りの痕跡。逆刺かあったか。
98	3	1		A36	15	4	混土	I-2	骨角織	鹿角	23.0	7.2	5.0	0.4	三角形・断面楕円形の織身に長い基部がつく小形の織
98	4	2	36-3	10T	58			I-2	骨角織	鹿角	37.5	8.9	6.9	1.1	定形。有茎。
98	5	1	100-4	E14	7	3	混土	I-2	骨織		(33.2)	7.0	5.9	1.2	有茎。基部欠損。全面著しく研磨され、黒色化。
98	6	1	100-2	E40	8	4		I-2	骨織		38.7	10.7	3.6	1.0	縦位に裁断した骨片を素材か。有茎。
98	7	1	100-1	E01	7	4		I-2	骨織		54.9	12.9	5.3	2.8	縦位に裁断した骨片を素材か。有茎。
98	8	1		D60	33	4		III	骨角織	鹿角	57.5	12.8	9.0	3.5	柳葉状の長い織身に断面丸い基部がつく。全面劣化
98	9	1		A不明	不明	不明		不明	刺突具?	イノシシ犬歯	54.3	16.7	7.4	2.2	割り裂かれた犬歯の象牙質を全面研磨。両端が尖る。刺突具か
98	10	1		C89	2	2		IV-2	ヤス状刺突具	エイ尾棘	41.4	9.0	4.5	1.4	両端欠損。基部を作出
98	11	1		E11	10	4		I-2	ヤス状刺突具	エイ尾棘	50.6	4.7	3.1	0.6	上部欠損。細長い基部加工
98	12	1		不明	不明	不明		不明	ヤス状刺突具	エイ尾棘	34.1	4.3	2.3	0.3	上部欠損。基部加工あり
98	13	1		A36	3	2	混土貝	不明	ヤス状刺突具	哺乳類四肢骨	26.7	3.5	3.3	0.3	細い骨片の全面を粗い研磨仕上げ
98	14	1		SK15 (A24)	40	6	混貝	I-2	ヤス状刺突具	哺乳類四肢骨	32.4	4.9	3.0	0.5	骨片の全面を研磨仕上げ
98	15	1		A25	26	5	混貝	I-2?	ヤス状刺突具	哺乳類四肢骨	38.3	7.1	4.6	1.3	骨片の両端・内面を粗い研磨仕上げ
98	16	7	12-44	10T	6	12		III	ヤス状刺突具	哺乳類四肢骨	(49.1)	8.1	3.9	1.1	おそらく縦位に半裁した骨片を全面研磨
98	17	1	100-5	D65	10	2		III	刺突具	鹿角か	44.2	9.2	4.9	1.8	縦位に断ち割った鹿角を素材とし、断ち割り面以外を著しく研磨
98	18	1	100-6	A44	14	3	S5	I-2	鉗	鹿角か	(52.1)	12.8	11.0	4.2	先端部欠損。全面著しく研磨され線状痕も見られる。基部は逆三角錐状を呈し、一部つぶれる。
98	19	1		A29	6	2	混貝	不明	筥	鹿角	18.0	10.0	4.9	0.6	緩やかに握を広げ、挿れ部分をもつ円筒状の製品。筥であらう
98	20	1		A25	4	2	混貝	不明	錐	イノシシ犬歯	5.5	2.1	10.2	3.5	上部に内側から穿孔。片側を挟んで錐状に加工。粗い線状痕が、使用により一部消えて光沢をもつ
98	21	1		E15	22	3	茶褐色 混貝	I-2	針	哺乳類四肢骨	42.3	3.3	1.3	0.2	イノシシ腓骨に似た形状の細い骨を一部加工か。研磨は微妙だが、上部両端に2か所の装飾をもつ
98	22	1		A54	8	2	混貝	I-2	牙斧	イノシシ犬歯	42.0	15.8	7.3	3.3	擦切り折断後斧状の刃部加工
99	23	1		A34	16	4	S5	I-2	筒状製品	イノシシ切歯	37.5	7.0	8.6	1.6	イノシシ下顎切歯の切縁側が平坦に磨滅し、横・斜めの線状痕顕著。根側先端も磨滅
99	24	1		SK15 (A14)	29	4	S5	I-2	筒状製品	イノシシ犬歯	39.3	15.4	4.1	1.6	イノシシ犬歯を縦横に擦切り折断後、端部を研ぎ成形。広い方は牙斧状でなく平坦だが磨滅顕著
99	25	1		D61	11	5	混土貝	I-1	髪針	鹿角	27.7	5.9	3.3	0.5	上端装飾部片。扁平。穿孔と2段の挿れをもつ
99	26	1		E13	8	3	混貝 (茶褐色)	I-2	髪針	鹿角	36.9	5.3		0.7	上端装飾部片。断面円形。段を有し先端は尖る
99	27	1		D55	2	2	S2 キサゴ 混土	III	髪針	シカ中手骨	46.3	12.9	9.2	3.5	ほぼ全面を粗いが丁寧な研磨仕上げしており、上端は平坦、下部は断面円形。入念な加工から髪針か、全面被熱により黒変
99	28	1		D52	7	3	混土	III	髪針	シカ中手骨	105.1	5.5	3.9	2.1	中〜下部破片。断面楕円形に丁寧な仕上げしており、髪針と推定した
99	29	1	100-7	D62	3	2	混貝	III	筥	哺乳類四肢骨?	(67.8)	6.0	5.4	2.7	基部側欠損。先端部著しく研磨され尖頭状を呈する。線状痕も顕著。
99	30	1	100-8	D73	1	2	混貝	III	筥	哺乳類四肢骨?	(27.8)	6.1	5.4	0.8	一端欠損。やや赤彩が残る。
99	31	2	36-5	4T	12			I-2	管状垂飾	鳥管状骨	21.7	6.7	7.8	0.8	定形側面に3対の抉りが入り、一部穿孔。
99	32	1		D71	41	2	混貝 (攪乱)	III	管状垂飾	鳥管状骨	43.5	12.3	9.5	2.9	両端を擦切り折断。わずかにバリが残る。外面に6条の粗い文様
99	33	1		A39	18			不明	管状垂飾	鳥管状骨	31.4	9.8	7.7	1.2	両端を擦切り折断。バリが残る。外面にらせん状の刻み文様
99	34	1		A57	14	4	混貝	I-2	管状垂飾	鳥管状骨	15.1	9.5	4.5	0.3	外面・両端をごく丁寧に研磨仕上げ。外面端部〜上端は現状では白っぽく色調が全く異なる。わずかに赤彩が残る。色調から未であらう。
99	35	1		E11	10	4		I-2	管状垂飾	角or骨	16.2	10.0	10.4	1.3	両端を擦切り折断後、全面を入念に研磨
99	36	1		D43	3	2	茶褐色 (K-4)	IV-2	垂飾	サメ類椎骨	34.0	34.3	21.0	9.8	臼状部の中央を穿孔し、入念に仕上げている
99	37	2		11T	2			I-2	垂飾	サメ類椎骨	29.8	30.2	18.0	4.7	臼状部の中央を穿孔
99	38	1		A46	15	4	混貝	I-2	垂飾	サメ類椎骨	14.3	14.0	7.2	0.6	臼状部の中央を穿孔し、両面に赤彩
99	39	1		A24	5	2	混貝	I-2	垂飾	小型哺乳類下顎骨	23.2	13.5	5.5	0.9	デン? 両端破損、両面から穿孔
99	40	1		A19	30	5		I-1	垂飾	イルカ指骨	34.9	13.5	21.1	2.5	遠位部に横側から穿孔
100	41	1		A35	27	6	混貝	I-2	垂飾	鹿角	75.0	11.7	7.4	5.2	鹿角先端を細く加工し、やや曲がつた基部側に比較的大きな穿孔をもつ。保存状態悪い
100	42	2	36-4	8T	4			I-2	棒状加工品	鹿角	132.0	16.0	15.3	13.7	穿部側欠損。鹿角の付根側に表裏対向しない穿孔。孔径6mm。
100	43	1		不明	不明	不明		不明	棒状加工品	鹿角	(104.2)	11.2	9.3	7.2	縦位に断ち割った鹿角を素材とし、断ち割り面以外を著しく研磨。一端に器面をほぼ全周する装飾状の抉りが入る。両端欠損。
100	44	2	36-6	2T	6			I-2	不明	イノシシ牙	14.0	7.9	4.7	0.3	
100	45	1	101-2	D63	15	6	混土貝 断面	I-2	加工角	鹿角	(89.1)	19.5	15.2	10.0	全面著しく研磨。基部側欠損。欠損部付近に横位の線状痕。
100	46	1		E13	3	2	混貝	I-2	シカ下顎骨 先端片	シカ下顎骨	47.7	16.9	11.1	4.5	下顎骨L、擦切り折断
100	47	1		D60	10	2	褐色	IV-2	シカ下顎骨 先端片	シカ下顎骨	44.7	20.4	12.9	4.7	下顎骨R、擦切り折断
100	48	1		A05	3	2	混貝	III	シカ下顎骨 先端片	シカ下顎骨	41.7	18.2	11.6	3.0	下顎骨L、カットマークあり。擦切り折断品であらう
100	49	1		A25	4	2	混貝	不明	シカ下顎骨 先端片	シカ下顎骨	39.1	17.7	12.1	3.4	下顎骨R、擦切り折断
100	50	1		A05	3	2	混貝	III	シカ下顎骨 先端片	シカ下顎骨	29.4	7.7	8.3	1.3	下顎骨L、擦切り折断?
51	1			A17	2	2	混貝	不明	装飾品?	鳥管状骨	11.9	7.9	3.8	0.5	粗い線状痕が残るが丁寧に整形し赤彩していることから装飾品の可能性が高い。裏面は刻み文様をもち、平坦だが赤彩あり
52	1			D54	5	2	混貝	III	筒状製品	鹿角	109.0	19.6	24.1	25.5	鹿角幹部の遠位側を斜めに加工してヘラ状。全面劣化により加工・使用状態観察不能
53	1			D70	16	5	S5	II	筒状製品	鹿角	54.5	11.9	12.2	4.1	鹿角先端部。全面が平滑なのは生前由来か。先端がきれいに丸いのは成形か使用によるものか。
54	1			不明	不明	不明		不明	筒状製品	鹿角	56.0	13.4	11.6	4.8	鹿角先端部。全面が平滑なのは生前由来か。先端側面への磨滅は使用によるものとみられる
55	1			E00	15	2	S2	III	筒状製品	イノシシ腓骨	47.2	9.0	5.8	2.1	遠位部を筒状に加工・使用
56	1			E15	5	4	S4	I-1	筒状製品	骨製	51.6	13.1	5.0	3.7	獣四肢骨の平坦な破片の破面・外面を研磨
57	1			A44	10	3	S5	I-2	筒状製品	骨製	24.7	17.0	3.8	0.7	薄い骨を全面加工。斜めの筒状または織状に丁寧に仕上げる。織状の装飾品の可能性あり
58	1			E43	2	3	混貝	無	刺突具?	鳥管状骨	105.8	11.2	4.7	3.1	大形鳥類の管状骨製。半載して端部を入念に仕上げる。先端が刺突具状になるものか
59	1			D62	9	2	混貝	III	刺突具	タイ科鱗棘	49.7	7.9	8.2	1.3	先端磨滅・光沢顕著
60	1			C97	5	3	混貝	III	刺突具	タイ科鱗棘	40.6	6.3	5.7	0.6	先端磨滅・光沢顕著
61	1			E23	5	3	(褐色) 混貝	I-2	ヤス状刺突具	シカ中手足骨	48.8	8.1	5.6	2.1	擦切り折断後粗い研磨。基部側か、未成品か
62	1			D35	5	2		V	棒状製品	鹿角	77.4	9.8	9.3	6.1	太い棒状。先端は丸くどがる
63	1			D60	9	2	A(混土貝)	IV-2	棒状製品	シカ中手足骨	66.8	13.4	7.2	4.0	刺突具か。擦切り折断と端部の加工あり。劣化により詳細不明
64	1			D53	2	2	混貝	III	シカ下顎骨 先端片	シカ下顎骨	26.0	11.6	5.9	0.9	下顎骨L、擦切り折断?
65	1			E23	5	3	(褐色) 混貝	I-2	筒状製品	シカ下顎骨	38.6	9.0	7.4	1.7	シカ下顎骨先端部擦切り折断後残った骨体部。磨滅・光沢あり。下顎骨製スライバーであらう
66	1			A49	6	2	混貝	I-2?	加工歯牙	イノシシ犬歯	27.2	7.7	3.4	0.7	小片の全面に線状痕。定形。筒状製品か
67	1			SK15 (A14)	29	4	S5	I-2	加工歯牙	イノシシ犬歯	45.3	22.7	12.3	3.2	先端磨滅・光沢顕著。筒状製品か。内側三角形の面も研磨有。牙斧の未成品?
68	1			D65	13	3	混貝	III	加工歯牙	イノシシ犬歯	41.9	17.6	9.7	4.6	2面のエナメル質に挟まれた稜に明瞭な磨滅と縦の線状痕あり、筒状製品とすべさか。破面にも強い線状痕あり、加工痕か
69	1			A17	22	4		I-2	加工歯牙	イノシシ犬歯	45.4	14.2	14.8	7.1	擦切り折断面を研磨
70	1			A25	14	4		I-2?	加工歯牙	イノシシ犬歯	59.8	13.3	3.8	2.4	破片の両面に磨滅。線状痕

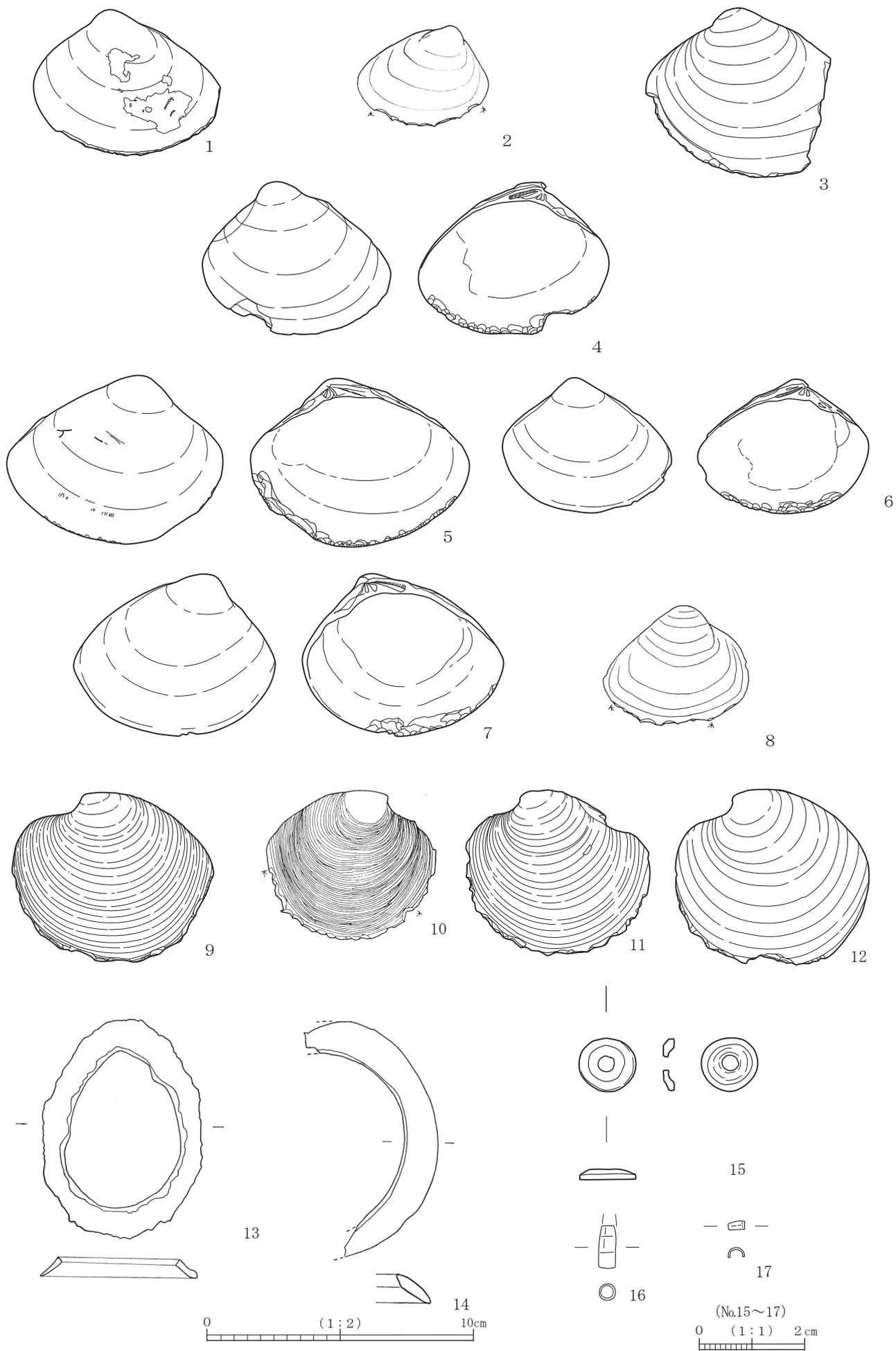
表24 (つづき)

挿入 No.	遺物 No.	調査 回数	旧挿入 No.	遺構 グリッド	取上 No.	取上 層位	層備考	段階	器種	素材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	観察事項
71	1			D65	4	1		表土	加工骨	シカ手足骨	27.4	7.9	5.2	1.0	ヤス状刺突具等の基部か、ほぼ全面を研磨
72	1			C69	22	4	純貝	Ⅲ	加工骨	イノシシ腓骨	33.4	10.0	6.4	1.6	全面研磨をもつ不明製品。両端欠損。基部加工あり
73	1			A16	3	2		不明	加工骨	哺乳類四肢骨	51.3	9.8	4.9	2.0	両端破損箇の上部に斜め方向の小さな穿孔あり (栄養孔ではない)。破片中位に擦切り。小動物四肢骨か
74	1			A54	11	3	S4内 キサゴ層内	I-2	加工骨	哺乳類四肢骨	54.1	12.5	9.4	4.6	四肢骨片の一部に平垣面あり。劣化により 加工・使用痕跡不明だが塗装製品か
75	1			A08	5	2		Ⅲ	加工骨	イノシシ腓骨	39.3	6.1	5.0	1.7	全面研磨をもつ不明製品。両端欠損
76	1			D80	13	4	S4	Ⅲ	加工骨	哺乳類四肢骨	48.9	5.7	6.7	1.6	全面研磨をもつ不明製品。両端欠損
77	1			E32	2	3	混貝	I-2	加工骨	イノシシ腓骨	36.2	8.3	4.7	1.4	全面研磨をもつ不明製品。両端欠損
78	1			A25	8	4	混土	I-2?	加工骨	哺乳類四肢骨	47.6	8.4	5.2	1.4	擦切り折断面跡した素材
79	1			E00	15	2	S2	Ⅲ	加工骨	シカ手足骨	69.3	9.8	7.5	66.6	擦切り折断面跡した素材。他に1片あり
80	1			表探				不明	加工骨	シカ手足骨	49.7	9.2	11.5	3.6	擦切り折断面跡した素材
81	1			A25	8	4	混土	I-2?	加工骨	哺乳類四肢骨	88.8	20.2	8.2	10.1	大きめの骨片の一部に顕著な研磨面をもつ。線状痕と光沢あり。
82	1			西側表 探②				不明	加工骨	哺乳類四肢骨	33.8	19.5	3.9	1.5	擦切り折断面と線状痕をもつ不明製品。塗装製品?
83	1			不明	不明	不明		不明	加工骨	シカ脛骨	48.7	25.3	7.6	4.1	擦切り折断面をもつ小片
84	1			E20	7	2	S2	Ⅱ	加工骨	イルカ下顎骨	78.6	22.2	13.5	10.6	イルカ下顎骨R先端部。擦切り折断面もつ
85	1			A04	2	2	混貝土	Ⅲ	加工骨	鯨類骨	35.9	21.1	10.2	2.9	全面劣化磨滅。人為的な窪みもつ
86	1			A34	16	4	S5	I-2	加工骨	小動物四肢骨	20.5	10.5	6.7	0.5	擦切り折断面
87	1			A24			混貝土層 (E-8)	不明	加工骨	鳥類尺骨	(20.5)	19.7	19.8	1.8	コハクチョウ尺骨遠位端、擦切り折断面後の残存部
88	1			D51	12	4	褐色	Ⅲ	加工角	鹿角	37.8	20.5	19.2	13.2	鹿角幹部を擦切り折断面一部に顕著な研磨痕をもつ。 筧状に使用か
89	1			D44	16	2	灰焼純貝	VI-2	加工角	鹿角	(56.8)	11.9	14.7	6.6	先端部の下端擦切り折断面磨滅。筧状に使用か。 先端部の欠損部分に穿孔か。被熱。
90	1			C89	7	4	黒褐色	Ⅱ	加工角	鹿角	(43.6)	7.7	7.5	1.3	鹿角片を全面研磨。一端欠損。欠損部付近に擦切りあり
91	1			D93	3	3	混貝	I-2	加工角	鹿角	61.1	14.6	15.7	7.2	先端部の下端擦切り折断面磨滅。加工or筧状に使用か。 先端わずかに欠損しており使用不明
92	1			D85	3	2	S1	Ⅲ	加工角	鹿角	61.5	12.1	12.6	5.3	先端部の下端擦切り折断面。外面一部に線状痕。 先端古い欠損後磨滅。使用によるか。先端欠損と劣化で詳細不明
93	1			A34	9	3	S3	I-2	加工角	鹿角	(58.6)	9.1	6.3	2.8	鹿角を割り裂きした素材を研磨。湾曲により先端部とわかる。上下欠損
94	1			D60	3	2	茶褐色R4	IV-2	加工角	鹿角	(24.1)	13.6	8.0	1.7	先端部付近を入念に研磨。先端部側を擦切り折断面。下部新しい欠損
95	1			D54	5	2		Ⅲ	加工角	鹿角	41.7	9.0	8.7	2.3	ほぼ完存。不明製品。幹部の割り裂き素材を全面研磨。 両端部丸く仕上げ。二か所に装飾的な横位の抉りもつ
96	1			D62	11	3	混貝	Ⅲ	加工角	鹿角	54.5	11.2	9.9	2.9	ヤス状刺突具か。先端丸く尖る。劣化破損により詳細不明
97	2			10T	63			I-2	加工角	鹿角	(27.1)	9.8	4.8	1.1	不明製品の骨片。擦切り折断面により割り裂きした素材を研磨
98	2			10T	64			I-2	加工角	鹿角	(46.4)	(11.3)	(9.9)	2.7	不明製品。先端部付近の外面をきわめて入念に研磨。大きく破損。 破片先端部端部に擦切り折断面跡あり
99	1			A38	7	3		Ⅲ	加工角	鹿角	53.1	12.1	6.5	2.2	不明製品。先端部付近の縦1/2ほどの破片の外面を粗く研磨。 破片基部側に擦切り折断面または抉り状の加工あり
100	2			4T	12	A2層		I-2	加工角	鹿角	(11.2)	(10.3)	(5.7)	0.3	不明製品。先端部付近の縦1/2ほどの破片の外面を粗く研磨。 破片基部側に擦切り折断面または抉り状の加工あり。83と同様の加工
101	1			D84	4	2		Ⅲ	加工角	鹿角	(31.0)	14.3	9.9	3.0	幹部の擦切り折断面素材を全面研磨。棒状に加工した製品or未成品。 側縁にわずかな抉りあり。上下破損
102	1			D65	1	2	混貝	Ⅲ	加工角	鹿角	(41.2)	13.2	9.5	2.9	幹部の擦切り折断面素材を全面研磨。棒状に加工した製品or未成品。 一方に先端部加工。破損により詳細不明
103	1			A38	2	2		不明	加工角	鹿角	(25.5)	10.0	9.0	1.4	幹部の擦切り折断面素材を全面研磨して断面丸。棒状に加工した製品。 上下破損
104	1			D54	13	2		Ⅲ	加工角	鹿角	(52.9)	13.4	12.8	6.0	先端部近くを全面研磨した製品。劣化と破損により詳細不明
105	1			C95	15	4	混土	Ⅱ	加工角	鹿角	(18.9)	33.5	15.9	4.2	角座部分内側を抉り。研磨加工。小片で器種等不明
106	1			A05	12	4	混貝 (褐色)	I-2	加工角	鹿角	(32.1)	18.3	12.3	2.8	角座付近の縦割り素材。幹部の内外面研磨。小片で器種等不明
107	2			表探				不明	加工角	鹿角	(66.5)	16.7	16.3	10.4	先端部外面研磨。両側から縦に擦切り途中
108	1			A06	4	2	混貝	IV-2	加工角	鹿角	57.6	24.3	12.0	5.8	幹部縦1/3程度の素材の全面を研磨。さらに1/2に擦切り折断面途中
109	1			A05	3	2	混貝	Ⅲ	加工角	鹿角	(37.8)	(33.2)	13.4	5.2	分岐部。短い先端部は人為的か。劣化により不明
110	1			A38	2	2		不明	加工角	鹿角	(46.5)	(16.1)	(8.9)	5.4	幹部破片。外面平滑。一部線状痕あり
111	1			A14	2	1		不明	加工角	鹿角	(24.6)	10.0	9.0	2.5	先端部近く。外面平滑で人為的か。線状痕見えない
112	1			E40	4	2	混貝土	I-2	加工角	鹿角	(42.3)	14.5	13.9	4.0	先端部近く。外面平滑で人為的か。線状痕見えない
113	1			E33	12	4	黒色土	I-2	加工角	鹿角	(27.4)	9.3	8.6	1.3	幹部割り裂き素材を全面研磨。棒状に加工した製品。小片で詳細不明
114	1			A49	10	3	混貝	I-2?	加工角	鹿角	(28.9)	21.3	(14.8)	4.6	幹部を擦切り折断面し。外面を入念に研磨
115	1			A38	2	2		不明	加工角	鹿角	(77.3)	18.8	9.3	5.6	幹部を縦位に擦切り折断面。さらに外面にも縦位に 擦り切り切断面と思われる痕跡。外面の磨滅も人為的か。2片接合。
116	1			D62	3	2	混貝	Ⅲ	加工角	鹿角	(110.3)	27.4	21.1	36.7	幹部の外面全面研磨。先端部擦り切り切断面か。下端欠損
117	1			A07	3	2	混貝	Ⅲ	加工角	鹿角	(95.3)	(23.5)	(8.5)	10.2	幹部破片。外面の磨滅は人為的か
118	1			D71	9	3	混貝	Ⅱ	加工角	鹿角	(79.4)	24.8	18.4	16.9	幹部破片。外面の磨滅は人為的か
119	1			A24	11	3	S5	I-2	加工角	鹿角	(42.2)	18.7	6.6	2.5	幹部小片。全面磨滅・線状痕。筧状製品か
120	1			D55	2	2	S2 キサゴ混貝	Ⅲ	加工角	鹿角	(65.6)	66.9	22.6	35.5	又状部。横位の擦切り折断面あり
121	1			A48	3	2		I-2	加工角	鹿角	(79.2)	(38.5)	16.3	14.4	又状部。横位の擦切り折断面あり
122	1			A04	14	2	混貝 S1	Ⅲ	加工角	鹿角	(77.5)	(57.0)	26.4	58.2	又状部。横位の擦切り折断面あり。一部磨滅顕著。筧状に使用か
123	1			A04	2	2	混貝	Ⅲ	加工角	鹿角	84.7	76.2	44.3	63.5	又状部～角座(落角)。2か所に横位の擦切り折断面あり
124	1			D61	25	3	混貝	Ⅲ	加工角	鹿角	(118.8)	(63.1)	30.1	77.4	又状部。横位の擦切り折断面or装飾的な抉りあり
125	1			D82	9	4		I-1	加工角	鹿角	(82.7)	(44.7)	39.8	45.8	又状部～角座(落角)。 横位の装飾的な抉りと人為的な磨滅・線状痕あり
126	1			A26?				不明	加工角	鹿角	50.1	(50.9)	22.0	16.0	又状部。横位の擦切り折断面あり
127	1			C90	20	4	S6	無	加工角	鹿角	57.1	35.2	28.1	22.0	又状部～角座(落角)。横位の擦切り折断面跡と装飾的な抉りあり
128	1			D52	9	4		Ⅲ	加工角	鹿角	85.8	59.6	54.2	84.9	又状部～角座骨。横位の擦切り折断面あり
129	1			A15	13	3	混貝(軟)	Ⅲ	加工角	鹿角	(39.9)	22.2	21.0	11.6	幹部。横位の擦切り折断面あり
130	1			E04	3	2	(黒色) 混貝	I-2	加工角	鹿角	52.4	27.6	16.4	16.2	幹部。横位の擦切り折断面。切断面磨滅。筧状に使用か
131	1			A49	10	3	混貝	I-2?	加工角	鹿角	(58.9)	(22.3)	(7.7)	5.7	幹部。横位の擦切り折断面あり
132	1			E02	3	2		Ⅲ	加工角	鹿角	39.5	34.9	21.4	12.4	幹部。横位の擦切り折断面あり
133	1			?	?			不明	加工角	鹿角	(47.7)	(26.0)	(9.7)	6.1	幹部。横位の擦切り折断面あり
134	1			D73	14			不明	加工角	鹿角	(33.6)	(13.3)	(6.5)	1.5	幹部。横位の擦切り折断面あり
135	1			F13	8	3		不明	加工角	鹿角	(29.6)	(14.5)	(9.1)	1.4	幹部。横位の擦切り折断面。もう一か所擦切りあり
136	1			E35	14	2		I-1	加工角	鹿角	(34.5)	28.5	13.3	6.6	奇形の幹部に横位・縦位の擦切り折断面あり
137	2			10T	51			Ⅲ	加工角	鹿角	33.6	24.7	10.3	4.0	幹部小片に外面・破損面から斜位の擦切り折断面あり
138	1			E12	3	2	混貝	Ⅲ	加工角	鹿角	(39.4)	19.0	11.1	4.1	幹部に横位・縦位の擦切り折断面あり
139	1			D44	3	5	上	I-2	加工角	鹿角	134.3	35.5	21.1	32.3	幹部に縦位の擦切り折断面あり
140	1			A45	4	2	混貝	不明	加工角	鹿角	49.5	32.0	13.5	8.6	又状部に縦位の擦切り折断面。外面に粗い線状痕
141	1			D65	1	2	混貝	Ⅲ	加工角	鹿角	(37.4)	11.1	7.3	1.8	横位の擦切り折断面もつ小片
142	1			C86	5	2	茶褐色	IV-2	棒状加工品		(67.8)	6.4	5.9	3.1	全面著しく研磨され、横断面形円～隅丸形状を呈する。一端欠損。 もう一端は擦り切り後研磨
143	1			D55	不明			不明	垂飾	鯨類骨	(39.5)	29.4	12.4	5.4	扁平な骨片を素材とし、平垣面の一方から穿孔。 穿孔部付近で一端が欠損。
144	1			E05	15			不明	加工角	鹿角か	(108.6)	13.0	7.0	7.9	縦位に断ち割った鹿角を素材か。外面を著しく研磨。
145	1			100-3 A06		75		不明	骨鏝						所在不明

のの中手骨を素材とし、全面に粗い研磨を施し、楕円形、円形の横断面を呈する。先端側は欠損する。欠損前の被熱により表面全体が黒色に変色する。28～30はシカの中手骨等哺乳類の四肢骨を素材とし、横断面が円～楕円形を呈する。28、29は先端部が残存する。29は斜方向の研磨により、尖頭状の先端部を作出する。30は頭部の小片で、表面に赤彩が残る。鹿角製で装飾が施される25、26は後期前葉であるI-1、I-2段階で検出されたのに対し、シカの中手骨等哺乳類の四肢骨を素材とし、残存部位では装飾が認められない27～30は後期中～後葉であるIII段階で検出されており、素材、加工、形を通した製作過程が時期により異なっている。31～35は管状垂飾と考えられる。31～34は鳥類の管状骨を素材とする。31は短軸の一侧面に上下3段の穿孔を施し、反対の側縁に上下3段の袢りを施す。32は両端を擦り切りにより切断し、横位に6条の袢りを入れる。33も両端を擦り切りにより切断し、3条の螺旋状の袢りを入れる。34は円周の1/3程度が遺存する。外面及び両縁辺は丁寧に研磨され平滑となる。両縁辺は現状で白色化するのに対し、それ以外の外面は茶色を呈し明らかに色調が異なる。白色を呈する縁辺の一端に赤彩が残る。35は鹿角あるいは哺乳類の四肢骨を素材とする。円周の1/2程が遺存する。両端を擦り切り切断した後、全面を著しく研磨し、横断面凸レンズ状の形態を呈する。36～38はサメ類の椎骨を素材とする垂飾である。大きさに差異があるが、いずれも臼部中央に穿孔が施される。39は小型哺乳類の下顎骨を素材とした垂飾である。下顎体の下顎枝側に内外面から穿孔が施される。40はイルカと考えられる指骨を素材とした垂飾である。遠位部に横位方向からの穿孔が施される。41は鹿角を素材とした垂飾である。付け根側に対向する穿孔が施される。42、43は鹿角を素材とした棒状加工品である。42は全面が著しく研磨され、付け根側に表裏対向しない穿孔が施される。43は縦位に断ち割った鹿角の断ち割り面以外を著しく研磨し、横断面かまぼこ状を呈する。一端に器面を全周する袢りが施される。44はイノシシの犬歯を素材とする製品である。先端部利用し、内面側に袢りもしくは擦り切りの痕跡がみられる。45は鹿角の加工品である。全面を研磨し付け根側には長軸に直交する線条痕がみられる。46～50はシカの下顎骨の先端部片である。いずれも擦り切り切断された先端部側の不用品と考えられる。使用痕跡のある下顎体側が1点検出されている(表24-65)。



第101図 貝製品分布図



第102図 貝製品実測図

5 貝製品 (第101・102図)

現地採集と水洗選別で得られた資料で、合計33点検出された。内訳は、貝刃28点、貝輪2点、垂飾3点である。段階別の出土状況をみると、I-2段階は東貝層中央部の第1次調査範囲西端部で貝刃が3点、西貝層南端部の10トレンチでイモガイ製とツノガイ製の垂飾が各1点検出された。Ⅲ段階になると検出点数が増加し、第1次調査範囲北側のDグリッドで貝刃3点、貝輪2点、10トレンチでツノガイ製垂飾1点、貝刃4点が検出された。以下、器種ごとにとりまとめた形で記述する。

1～12は貝刃である。1～7はハマグリ、8はシオフキ、9～12はカガミガイを素材とする。未掲載資料も含めて、貝刃の素材は、カガミガイ12点、ハマグリ10点、シオフキ5点、サルボオ1点である。カガミガイは最も多く利用されているが、12点中6点が10トレンチの表土層から検出されている。ハマグリは10点利用されているが、4～7は連続する微細な剥離痕が内面に認められ特徴的である。13、14は貝輪である。貝輪は2点のみの検出で、D81、D82の隣接グリッドで検出されている。13はオオツタノハを素材とする完形品で、14は研磨により不明確であるがフネガイ科を素材としているものと考えられる。15～17は垂飾である。15はイモガイの頭部を横位に切断し、中央部に穿孔を施す。16、17はツノガイ製の垂飾である。10トレンチのサンプルから検出された。16は先端部が欠損し、17は横位に輪切状に切断される。

表25 貝製品属性表

挿図 No.	遺物 No.	調査 次数	旧挿図 No.	遺構 グリッド	取上 No.	取上 層位	層備考	段階	器種	貝種	左右	遺存	殻長 長軸長 (mm)	殻高 厚さ (mm)	重量 (g)	備考
102	1	1		D(51)X61		4層	純貝層	Ⅲ	貝刃	ハマグリ	左	完形	69.7	55.0	18.8	外面に剥離痕
102	2	1	102-3						貝刃	ハマグリ	右	完形	48.7	41.9	6.5	内面中央黒変
102	3	7	12-45	10T	1	1層		表土	貝刃	ハマグリ	左	一部欠損	(68.2)	64.8	23.1	
102	4	1		SK15 (A24W)			純貝層	I-2	貝刃	ハマグリ	左	完形	71.0	59.0	19.7	内面に連続する小剥離痕
102	5	1		A			純貝層	不明	貝刃	ハマグリ	右	完形	81.8	64.9	26.2	内面に連続する小剥離痕
102	6	1		不明				不明	貝刃	ハマグリ	左	完形	64.8	51.9	14.3	内面に連続する小剥離痕
102	7	1		不明				不明	貝刃	ハマグリ	右	完形	76.7	63.4	21.9	内面に連続する小剥離痕
102	8	1	102-2	C95	23	5	混貝土(暗褐色)	I-2	貝刃	シオフキ	右	完形	54.2	46.6	11.8	
102	9	1		SK15 (A24)			混貝土層	I-2	貝刃	カガミガイ	左	完形	76.3	66.6	32.5	
102	10	1	102-1	不明				不明	貝刃	カガミガイ	右	完形	63.2	56.8	21.8	
102	11	7	12-46	10T		1		表土	貝刃	カガミガイ	左	ほぼ完形	70.4	63.4	26.9	
102	12	7	12-47	39T		1			貝刃	カガミガイ	左	完形	73.3	70.6	35.4	
102	13	1	102-4	D82		3	2 混貝黒色	Ⅲ	貝輪	オオツタノハガイ		完形	83.5	7.5	18.0	
102	14	1	102-5	D81	15	2		Ⅲ	貝輪	サルボオ	右	欠損	89.0	10.5	17.7	
102	15	7	12-48	SK014				I-2	垂飾	イモガイ		完形	10.2	2.4	0.2	イモガイの頭頂部を横位に切断
102	16	7		10T			Aサンプル③	I-2	垂飾	ツノガイ類		欠損	(8.0)	3.0		ツノガイ類の先端部が欠損
102	17	7		10T			Bサンプル⑤	Ⅲ	垂飾	ツノガイ類		欠損	2.0	(2.0)		ツノガイ類を切断し製作
	18	1		A55			魚骨集中出土 表土下47cm	I-2?	貝刃	サルボオ	左	一部欠損	(62.0)	(49.1)	16.7	腹縁の大部分欠損 欠損面磨滅
	19	1		A			混貝土層	不明	貝刃	シオフキ	不明	破片	(38.5)	(20.8)	1.7	腹縁の一部のみ残存
	20	1		C?				不明	貝刃	ハマグリ	不明	破片	(75.4)	(30.4)	11.9	腹縁のみ残存
	21	1		D61				Ⅲ	貝刃	ハマグリ	不明	破片	(31.2)	(27.0)	6.1	腹縁のごく一部のみ残存
	22	1		D61		4	純貝層No.1	Ⅲ	貝刃	ハマグリ	左	一部欠損	(65.5)	(57.9)	20.5	腹縁の前方が欠損し磨滅
	23	7	図版4-8	P1			Bサンプル⑤	Ⅲ	貝刃	シオフキ	右	完形	44.8	36.6	5.3	Bサンプル⑤
	24	7	図版4-9	P1			Bサンプル⑤	Ⅲ	貝刃	シオフキ	右	完形	31.8	35.9	2.8	Bサンプル⑤
	25	7	図版4-10	P1			Bサンプル⑤	Ⅲ	貝刃	シオフキ	左	一部欠損	(32.2)	36.7	3.6	Bサンプル⑤
	26	7	図版4-1	10T			Aサンプル①	Ⅲ	貝刃	カガミガイ	右	完形	63.3	56.3	24.4	Aサンプル①
	27	7	図版4-2	10T	1	1		表土	貝刃	カガミガイ	左	完形	67.0	63.9	30.5	
	28	7	図版4-3	10T	2	1		表土	貝刃	カガミガイ	左	完形	71.6	66.9	34.6	
	29	7	図版4-4	10T	2	1		表土	貝刃	カガミガイ	右	完形	60.5	57.1	17.5	
	30	7	図版4-5	10T	1	1		表土	貝刃	カガミガイ	左	完形	59.2	57.6	19.1	
	31	7	図版4-6	10T		1		表土	貝刃	カガミガイ	左	完形	53.9	50.8	9.4	
	32	7	図版4-7	10T	1	1		表土	貝刃	カガミガイ	左	一部欠損	(55.3)	60.9	19.3	
	33	2		SI-02			コラムサンプル②	I-2	貝刃	カガミガイ	左	完形	61.5	59.3	17.4	